

始

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10^{16m} 1 2 3 4 5

~~292
617~~

工場監督官補中 田 耕 造 共編
士 辨 理 士 森 寅 吉

工業家携必
工場關係法規集

東京 第三興業所發行

○工場法規用式紙類販賣

- 職工名簿用紙 (施行規則第二號様式)
- 職工死傷報告 (同 第五號様式)
- 扶助及歸郷旅費支給月報 (施行規則第一號様式)
- 治癒者又ハ死亡者月報 (同 第二號様式)
- 工場概況届 (同 第六號様式)
- 職工異動及現在届 (同 第七號様式)
- 就業及扶助規則揭示用紙 (施行規則第十二條第
十三條ニ依ルモノ)
- 出勤簿用紙 (施行規則第十三條ニ
依ルモノ)
- 賃金計算簿用紙 (同 第十四條ニ
依ルモノ)

小石川區原町三十一番地

第三興業所

特101
274

序

一、本書收むる所は、大正十五年七月一日より實施せらるる改正工場法、同關係法令、工業労働者最低年齢法、同施行規則、労働争議調停法、同施行令及び健康保険法、同施行令、同施行規則並青年訓練所令、同關係規程にして更に製造所其他に關する取締規則、原動機取締規則並其の他の取締法規を附したり。

一、本書は工業主並工場従事者の利便ならむことを主とし特に民法雇傭に關する條項及暴力行為等處罰法並刑法抄等を附加して参考に資す。

附言 製造所其他に關する取締規則は近く改正せらるるやに聞けり、改正の上は更に追刊發行することとす。

大正十五年七月

編者誌

大正
15. 7. 29
内交

業 務

- 一、工場法及健康保險法ニ關スル手續處理
- 一、工場其ノ他ノ建物及機械ノ設計製圖並出願代理
- 一、民法、商法、刑法其他法律ニ關スル萬般ノ相談
- 一、特許、實用新案、意匠商標登錄等ノ手續

第三 興 業 所

- 理 事 前警視廳工場監督官補 中 田 耕 造
- 理 事 前警視廳技 手 高 瀬 眞 吾
- 理 事 辯護士 辨 理 士 森 寅 吉

電話小石川四〇五三番

目 次

○工場法	一
○工場法施行令	八
○工場法施行規則	六
○工場法施行細則	五
○工業労働者最低年齢法	九
○工業労働者最低年齢法施行規則	八
○民法第三編第二章第八節雇傭	八
○労働争議調停法	七
○同施行令	九
○労働者募集取締令	七
○暴力行為等處罰法	二
○健康保險法	六

二

- 健康保險法施行令……………一三六
- 健康保險法施行規則……………一七〇
- 製造所其ノ他ニ關スル取締規則……………二五七
- 原動機取締規則……………二六八
- 瓦斯事業法……………二七八
- 壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法……………二八五
- 壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法施行令……………二八九
- 同施行細則……………三〇七
- 危險物取締規則……………三一〇
- 黃磷燐寸製造禁止法……………三三一
- 煙火取締規則……………三三三
- 魚獸化製場取締規則……………三三七
- 屑物營業取締規則……………三四四

- 青年訓練所令……………三五五
- 青年訓練所規程……………三五七
- 青年訓練所ニ於ケル教練查閱ニ關スル件……………三六三
- 青年訓練所細則……………三七〇
- 青年訓練所規則準則……………三八四
- 工場法規ニ依ル願届書式……………三六五

一、工場法

(明治四十四年三月廿八日) (法律第四十六號) (大正十二年三月廿九日) (法律第三十三號改正)

第一條 本法ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル工場ニ之ヲ適用ス

一 常時十人以上ノ職工ヲ使用スルモノ

二 事業ノ性質危険ナルモノ又ハ衛生上有害ノ虞アルモノ

本法ノ適用ヲ必要トセサル工場ハ勅令ヲ以テ之ヲ除外スルコトヲ得

第二條 削除

第三條 工業主ハ十六歳未満ノ者及女子ヲシテ一日ニ付十一時間ヲ超エテ就業セシムルコトヲ得ス

主務大臣ハ業務ノ種類ニ依リ本法施行後十五年間ヲ限り前項ノ就業時間ヲ二時間以内延長スルコトヲ得

就業時間ハ工場ヲ異ニスル場合ト雖前二項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ通算ス

第四條 工業主ハ十六歳未満ノ者及女子ヲシテ午後十時ヨリ午前五時ニ至ル間ニ於テ就業セシムルコトヲ得ス但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ午後十一時迄就業セシムルコトヲ得

工場法

工場法

第五條 削除

第六條 削除

第七條 工業主ハ十六歳未満ノ者及女子ニ對シ毎月少クトモ二回ノ休日ヲ設ケ、一日ノ就業時間カ六時間ヲ超ユルトキハ少クトモ三十分、十時間ヲ超ユルトキハ少クトモ一時間ノ休憩時間ヲ就業時間中ニ於テ設クヘシ

前項ノ休憩時間ハ一齊ニ之ヲ與フヘシ但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス夏季ニ於テ一時間ヲ超ユル休憩時間ヲ設クル場合ニ於テハ工業主ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ其ノ超ユル時間以内就業時間ヲ延長スルコトヲ得但シ其ノ延長時間ハ一時間ヲ超ユルコトヲ得ス

第八條 天災事變ノ爲又ハ事變ノ虞アル爲必要アル場合ニ於テハ主務大臣ハ事業ノ種類及地域ヲ限り第三條、第四條及前條ノ規定ノ適用ヲ停止スルコトヲ得避クヘカラサル事由ニ因リ臨時必要アル場合ニ於テハ工業主ハ行政官廳ノ許可ヲ得テ期間ヲ限り第三條ノ規定ニ拘ラス就業時間ヲ延長シ、第四條ノ規定ニ拘ラス十六歳以上ノ女子ヲ就業セシメ又ハ前條ノ休日ヲ廢スルコトヲ得但シ急速ニ腐敗シ又ハ變質スル虞アル原料又ハ材料ノ損失ヲ防ク爲必要ナル場合ニ於テハ繼續四日以上ニ亘ラス且一月ニ付七日ヲ超エサル限り行政官廳ノ許可ヲ受ク

ルコトヲ要セス

臨時必要アル場合ニ於テハ工業主ハ其ノ都度豫メ行政官廳ニ届出テ一月ニ付七日ヲ超エサル期間就業時間ヲ二時間以内延長スルコトヲ得

季節ニ依リ繁忙ナル事業ニ付テハ工業主ハ一定ノ期間ニ付豫メ行政官廳ノ認可ヲ受ケ其ノ期間中、年ニ付百二十日ノ割合ヲ超エサル限り就業時間ヲ一時間以内延長スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ認可ヲ受ケタル期間内ハ前項ノ規定ヲ適用セス

第九條 工業主ハ十六歳未満ノ者及女子ヲシテ運轉中ノ機械若ハ動力傳導装置ノ危険ナル部分ノ掃除、注油、検査若ハ修繕ヲ爲サシメ又ハ運轉中ノ機械若ハ動力傳導装置ニ調帶、調索ノ取附ケ若ハ取外シヲ爲サシメ其ノ他危険ナル業務ニ就カシムルコトヲ得ス

第十條 工業主ハ十六歳未満ノ者ヲシテ毒藥、劇藥其ノ他有害料品又ハ爆性、發火性若ハ引火性ノ料品ヲ取扱フ業務及著シク塵埃、粉末ヲ飛散シ又ハ有害瓦斯ヲ發散スル場所ニ於ケル業務其ノ他危険又ハ衛生上有害ナル場所ニ於ケル業務ニ就カシムルコトヲ得ス

第十一條 前二條ニ掲ケタル業務ノ範圍ハ主務大臣之ヲ定ム

工場法

工場法

四

前條ノ規定ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ十六歳以上ノ女子ニ付之ヲ適用スルコトヲ得

第十二條 主務大臣ハ病者又ハ産前、産後若ハ生兒哺育中ノ女子ノ就業ニ付制限又ハ禁止ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第十三條 行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ工場及附屬建設竝設備カ危害ヲ生シ又ハ衛生、風紀其ノ他公益ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ豫防又ハ除害ノ爲必要ナル事項ヲ工業主ニ命シ必要ト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ノ使用ヲ停止スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ行政官廳ハ工業主ニ命シタル事項ニ付必要ナル事項ヲ職工又ハ徒弟ニ對シ命スルコトヲ得

第十四條 當該官吏ハ工場若ハ其ノ附屬建設物ニ臨檢シ又ハ就業ノ禁止制限ヲ爲スヘキ疾病若ハ傳染ノ虞アル疾病ニ罹レル疑アル職工若ハ徒弟ノ檢診ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ證票ヲ携帯スヘシ

第十五條 工業主ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ職工カ業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テ本人又ハ其ノ遺族若ハ本人ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ヲ扶助スヘシ

第十六條

職工徒弟、職工徒弟タラムトスル者若ハ工業主又ハ其ノ法定代理人若ハ工場管理人ハ職工徒弟又ハ職工徒弟タラムトスル者ノ戸籍ニ關シ戸籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

第十七條

職工ノ雇入、解雇、周旋ノ取締及徒弟ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條

工業主ハ工場ニ付一切ノ權限ヲ有スル工場管理人ヲ選任スルコトヲ得
工業主本法施行區域内ニ居住セサルトキハ工場管理人ヲ選任スルコトヲ要ス
工場管理人ノ選任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ但シ法人ノ理事、會社ノ業務ヲ執行スル社員、會社ヲ代表スル社員、取締役、業務擔當社員其ノ他法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者及支配人ノ中ヨリ選任スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十九條

前條ノ工場管理人ハ本法及本法ニ基キテ發スル命令ノ適用ニ付テハ工業主ニ代ルモノトス但シ第十五條ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
工業主營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セサル未成年者若ハ禁治產者ナル場合又ハ法人ナル場合ニ於テ工場管理人ナキトキハ其ノ法定代理人又ハ理事、業務ヲ執行スル社員會社ヲ代表スル社員、取締役、業務擔當社員其ノ他法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ付亦前項ニ同シ

工場法

工場法

六

第二十條 工業主又ハ前條ニ依リ工業主ニ代ル者本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 正當ノ理由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ職工若ハ徒弟ノ檢診ヲ妨ケタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 工業主又ハ第十九條ニ依リ工業主ニ代ル者ハ、ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ本法又ハ本法ニ基キテスル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス但シ工場ノ管理ニ付相當ノ注意ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

工業主又ハ第十九條ニ依リ工業主ニ代ル者ハ職工ノ年齢ヲ知ラサルノ故ヲ以テ本法ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス但シ工業主又ハ第十九條ニ依リ工業主ニ代ル者及取扱者ニ過失ナカリシ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十三條 本法ニ依リ行政官廳ノ處分ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起シ違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十四條 主務大臣ハ第一條ニ該當セザル工場ニシテ原動力ヲ用フルモノニ付

テハ第九條、第十一條、第十三條、第十四條、第十六條及第十八條乃至第二十三條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第二十五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ハ工場管理人ニ關スル規定及罰則ヲ除クノ外官立又ハ公立ノ工場ニ之ヲ適用ス

官立工場ニ關シテハ所轄官廳ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政官廳ニ屬スル職務ヲ行フ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正五年五月勅令第百五十六號ヲ以テ九月一日ヨリ施行ノ旨定メラル)

大正十二年三月二十九日法律第三十三號附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十五年六月五日勅令第五百十二號ヲ以テ大正十五年七月一日ヨリ施行ノ旨定メラル)

本法中十六歳トアルハ本法施行後三年間ハ之ヲ十五歳トス
職工ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムル場合ニ於テハ本法施行後三年間ハ第四條ノ規定ヲ適用セス

前項ノ規定ニ依リ十五歳未滿ノ者及女子ヲシテ就業セシムル場合ニ於テハ毎月少クトモ四回ノ休日ヲ設ケ十日ヲ超エサル期間毎ニ其ノ就業時ヲ轉換スヘシ

工場法

七

二、工場法施行令

(大正五年八月二日) (大正十一年十一月一日勅令第四百七十一號)
(勅令第九十三號) (大正十五年六月五日勅令第五百五十三號改正)

- 第一條 左ニ掲ケル事業ノミチ管△工場ニ付テハ工場法ノ適用ヲ除外ス但シ内務大臣ノ定ムル原動機ヲ用フルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 一 寒天、凍蒟蒻、凍豆腐、湯葉、麵類又ハ麩ノ製造
 - 二 行李、簾、籠、和傘骨其ノ他ノ杞柳、籐、竹、竹ノ皮、經木、葛又ハ藁ノ手工品ノ製造
 - 三 經木眞田又ハ麥稈眞田ノ編製
 - 四 「アタン」、「パナマ」又ハ之ニ類スルモノヲ以テスル帽子其他ノモノノ編製
 - 五 扇子、團扇、和傘又ハ提燈ノ製造
 - 六 紙、絲、棉、竹又ハ布帛ヲ主タル材料トスル玩具又ハ造花ノ製造
 - 七 形紙、紙函、元結又ハ水引ノ製造
 - 八 手工ニ依ル被服、足袋其ノ他ノ布帛類ノ裁縫
 - 九 手工ニ依ル組紐ノ編製
 - 一〇 刺繡、「レース」、「バテンレース」又ハ「ドローンウオーグ」ノ業

第二條

鑄業法ノ適用ヲ受ケル工場ニ付テハ工場法ノ適用ヲ除外ス

第三條

左ニ掲ケル事業ヲ管△工場ハ工場法第一條第一項第二號ニ該當スルモノトス

- 一 毒劇物又ハ毒劇藥ノ製造
- 二 動物ノ剥製
- 三 水銀ヲ用フル計器ノ製造
- 四 水銀唧筒ヲ用フル魔法燐ノ製造
- 五 鉛ヲ用フル鍍ノ製造
- 六 珫瑯鐵器又ハ珫瑯藥ノ製造
- 七 塗料、顔料、印刷用インキ又ハ繪具ノ製造
- 八 亞硫酸瓦斯、「クロール」瓦斯又ハ水素瓦斯ヲ用フル事業
- 九 硫酸ノ精製
- 一〇 「チアン」加里又ハ硝酸鹽ヲ用フル金屬ノ熱處理
- 一一 「フアケチス」ノ製造
- 一二 脂肪油ノ精製
- 一三 「ホイール」油ノ製造

工場法施行令

工場法施行令

一〇

- 一四 乾燥油又ハ溶劑ヲ用フル擬革紙布又ハ防水紙布ノ製造
- 一五 溶劑ヲ用フル護謄製品ノ製造
- 一六 溶劑又ハ「ラバーセメント」ヲ用フル護謄製品ノ貼合
- 一七 溶劑ヲ用フル油脂ノ採取
- 一八 溶劑ヲ用フル芳香油ノ製造
- 一九 溶劑ヲ用フル野草莖ノ捺染
- 二〇 溶劑ヲ用フル模造眞珠ノ製造
- 二一 溶劑ヲ用フル「ドライクリーニング」(單ニ拂拭スルモノヲ除ク)
- 二二 溶劑ヲ用フル絆創膏ノ製造
- 二三 「タンニン」酸ノ製造
- 二四 合成染料又ハ其ノ中間物ノ製造
- 二五 「セルロイド」ノ製造、加熱加工又ハ鋸機ヲ用フル加工
- 二六 硝化綿ノ製造
- 二七 「コロデウム」ヲ用フル紙擦製品ノ製造
- 二八 「エーテル」ノ製造
- 二九 酒精ノ製造又ハ變性

- 三〇 「ヴェスコーズ」ノ製造
- 三一 「テレピン」油ノ蒸溜又ハ精製
- 三二 鑽油ノ蒸溜、精製又ハ罐詰
- 三三 「アスファルト」ノ精製
- 三四 瀝質物ヲ用フル建築用ノ「フェルト」又ハ紙ノ製造
- 三五 燐寸ノ製造
- 三六 火藥 爆藥又ハ火工品ノ製造又ハ取扱
- 三七 金屬ノ熔融又ハ精煉
- 三八 電氣又ハ瓦斯ヲ用フル金屬ノ熔接又ハ切斷
- 三九 壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ製造
- 四〇 壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ヲ用フル製氷
- 四一 動力ニ依ル製材
- 四二 電氣業(發電所、變電所、蓄電所、及開閉所)
- 四三 電球ノ製造
- 四四 硝子ノ製造、腐蝕、砂吹又ハ粉碎
- 四五 金屬、骨、角又ハ貝殻ノ乾燥研磨

工場法施行令

一一

工場法施行令

- 四六 動力ニ依ル金屬箔又ハ金屬粉ノ製造
 - 四七 動力ニ依ル鑽石、土砂、貝又ハ骨ノ粉碎
 - 四八 電氣用「カーボン」ノ製造
 - 四九 石炭瓦斯又ハ骸炭ノ製造
 - 五〇 「カーバイト」ノ製造
 - 五一 石灰ノ製造
 - 五二 「フェルト」又ハ吹付羅紗(粉狀纖維ヲ用フル模造羅紗)ノ製造
 - 五三 起毛又ハ反毛ノ作業
 - 五四 製綿
 - 五五 麻ノ梳解
 - 五六 古綿、落綿、古麻、屑紙、屑綿絲、屑毛又ハ~~經類~~類ノ選別
 - 五七 骨炭又ハ血炭ノ製造
 - 五八 毛皮ノ精製、製革又ハ製膠
 - 五九 毛髮又ハ羽毛ノ精製
 - 六〇 其ノ他内務大臣ノ命令ヲ以テ指定スル事業
- 第二章 職工又ハ其ノ遺族ノ扶助

第四條 職工業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ工業主ハ本章ノ規定ニ依リ扶助ヲ爲スヘシ但シ扶助ヲ受クヘキ者民法ニ依リ同一ノ原因ニ付損害賠償ヲ受ケタルトキハ工業主ハ扶助金額ヨリ其ノ金額ヲ控除スルコトヲ得前項扶助ノ義務ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外職工ノ解雇ニ因リテ變更セララルコトナシ

第五條 職工負傷シ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ工業主ハ其ノ費用ヲ以テ療養ヲ施シ又ハ療養ニ必要ナル費用ヲ負擔スヘシ

第六條 職工療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサルニ因リ賃金ヲ受ケサルトキハ工業主ハ職工ノ療養中一日ニ付賃金百分ノ六十以上ノ休業扶助料ヲ支給スヘシ但シ同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ニ付其ノ支給百八十日ヲ超エタルトキハ其ノ後ノ支給額ヲ一日ニ付賃金百分ノ四十迄ニ減スルコトヲ得

第七條 職工ノ負傷又ハ疾病治療シタル時ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル程度ノ身體障害ヲ存スルトキハ工業主ハ左ニ掲クル區別ニ依リ障害扶助料ヲ支給スヘシ

- 一 終身自用ヲ辨スルコト能ハサルモノ 賃金五百四十日分以上
- 二 終身勞務ニ服スルコト能ハサルモノ 賃金三百六十日分以上

工場法施行令

一四

三 從來ノ勞務ニ服スルコト能ハサルモノ、健康舊ニ復スルコト能ハサルモノ
又ハ女子ノ外貌ニ醜痕ヲ殘シタルモノ 賃金百八十日分以上
四 身體ヲ傷害シ舊ニ復スルコト能ハスト雖引續キ從來ノ勞務ニ服スルコトヲ
得ルモノ 賃金四十日分以上

第七條ノ二 職工重大ナル過失ニ因リ負傷シ又ハ疾病ニ罹リ且工業主其ノ事實ニ
付地方長官ノ認定ヲ受ケタル場合ニ於テハ休業扶助料又ハ障害扶助料ヲ支給セ
サルコトヲ得

第八條 職工死亡シタルトキハ工業主ハ遺族又ハ職工ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ
生計ヲ維持シタル者ニ賃金三百六十日分以上ノ遺族扶助料ヲ支給スヘシ

第九條 職工死亡シタルトキハ工業主ハ葬祭ヲ行フ遺族又ハ職工ノ死亡當時其ノ
收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ葬祭ヲ行フ者ニ賃金二十日分(其ノ金額
二十圓ニ滿チサルトキハ二十圓)以上ノ葬祭料ヲ支給スヘシ

第十條 遺族扶助料ヲ受クヘキ者ハ職工ノ配偶者トス
配偶者ナキ場合ニ於テ遺族扶助料ヲ受クヘキ者ハ職工死亡當時之ト同一ノ家ニ
在リタル職工ノ直系卑屬又ハ直系尊屬トシ其ノ順位ハ親等ノ近キ者ヲ先ニシ卑
屬ト尊屬ト親等相同シキトキハ卑屬ヲ先ニス

第十一條 前條第二項ニ定メル同順位者ノ間ニ在リテハ其ノ順位ハ左ノ規定ニ依
ル

一 職工ノ家督相續人又ハ戸主ハ之ヲ他ノ者ヨリ先ニス
二 男ハ之ヲ女ヨリ先ニス

三 直系卑屬ニ付テハ男又ハ女ノ間ニ在リテハ嫡出子ヲ先ニシ、嫡出子、庶子
及私生子ノ間ニ在リテハ嫡出子及庶子ハ女ト雖之ヲ私生子ヨリ先ニス

四 前二號ニ掲クル事項ニ付相同シキ間ニ在リテハ年長者ヲ先ニス

第十二條 第十條ノ規定ニ該當スル者ナキ場合ニ於テハ左ニ掲クル者ノ中一人ニ
遺族扶助料ヲ支給スヘシ但シ職工ノ遺言又ハ工業主ニ對シテ爲シタル豫告ニ依
リ左ニ掲クル者ノ中一人ヲ特ニ指定シタルトキハ之ニ從フヘシ

一 職工ノ家督相續人又ハ戸主

二 職工ノ兄弟姉妹ニシテ職工死亡當時之ト同一ノ家ニ在リタル者

三 職工死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者

第十三條 第五條ノ規定ニ依リ本人ニ支給スル費用及休業扶助料ハ毎月一回以上
之ヲ支給スヘシ

障害扶助料ハ職工ノ負傷又ハ疾病ノ治療後遲滯ナク、遺族扶助料及葬祭料ハ職

工場法施行令

一五

工ノ死亡後遲滞ナク之ヲ支給スヘシ但シ障害扶助料及遺族扶助料ハ地方長官ノ許可ヲ受ケ數回ニ分割シテ之ヲ支給スルコトヲ得

第十三條ノ二 職工健康保險法(第四十八條第一項第二號ノ規定ヲ除ク)ニ依ル療養ノ給付又ハ療養費ノ支給ヲ受クヘキトキハ其ノ期間第五條ノ扶助ハ之ヲ爲スコトヲ要セス健康保險法ニ依ル傷病手當金ノ支給ヲ受クヘキトキハ休業扶助料ノ支給ニ付亦同シ

職工ノ死亡ニ關シ健康保險法ニ依リ埋葬料又ハ埋料ニ要シタル費用ノ支給アルヘキトキハ葬祭料ノ支給ハ之ヲ爲スコトヲ要セス

健康保險法第六十二條第一項第二項、第六十四條又ハ第六十五條第二項ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケサル場合ニ於テハ前二項ノ例ニ依リ第五條ノ扶助又ハ休業扶助料若ハ葬祭料ノ支給ハ之ヲ爲スコトヲ要セス

第十四條 第五條ノ規定ニ依リ扶助ヲ受ケ又ハ健康保險法ニ依リ療養ノ給付若ハ療養費ノ支給ヲ受クル職工療養開始後三年ヲ經過スルモ負傷又ハ疾病治癒セサルトキハ工業主ハ賃金五百四十日分以上ノ打切扶助料ヲ支給シ以後本章ノ規定ニ依ル扶助ヲ爲ササルコトヲ得

第十五條 工業主ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ本章ノ規定ニ依ル扶助

ヲ爲ササルコトヲ得

- 一 職工ノ解雇後一年ヲ經過シテ扶助ヲ請求スルトキ但シ既ニ受ケタル扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ請求スルトキハ此ノ限ニ在ラス解雇前ニ又ハ解雇後一年内ニ請求シタル扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ請求スルトキ亦同シ
- 二 扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ヲ受ケテ治癒シタル負傷又ハ疾病カ職工ノ解雇後ニ於テ再發スルトキ

第十六條 扶助料及葬祭料算出ノ標準トスヘキ賃金ハ左ノ各號ノ金額トス

- 一 職工健康保險法ニ依ル被保險タル場合ニ於テハ同法ニ基キ其ノ者ニ付定メタル標準報酬ノ月額
- 二 職工健康保險法ニ依ル被保險者タラサル場合ニ於テハ疾病ニ在リテハ診斷ニ據ル發病ノ日ヲ除キ、發病ノ日明ナラサルトキハ診斷前七日ヲ除キ、負傷又ハ即死ニ在リテハ事故發生ノ日ヲ除キ其ノ前(賃金締切日アル場合ニ於テハ直前ノ賃金締切日以前)三月間(雇人後三月ニ滿チサルトキハ其ノ期間)ニ於ケル賃金總額ヲ其ノ期間ノ日數ヲ以テ除シタル金額但シ其ノ金額ハ上記賃金總額ヲ該期間中ニ於テ賃金ヲ受ケタル日數ヲ以テ除シタル金額

工場法施行令

ノ百分ノ六十チ下ルコトヲ得ス

前項第二號ニ規定スル期間中ニ左ノ各號ノ一ニ該當スル期間アルトキハ其ノ日數及其ノ期間ニ於ケル賃金ハ前項ノ期間及賃金總額ヨリ之ヲ控除ス

一 業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ療養ノ爲休業シタル期間

二 産前又ハ産後ノ女子内務大臣ノ定ムル所ニ依リ休業シタル期間

三 試ノ雇傭期間

四 工業主ノ都合ニ依リ職工臨時ニ休業シタル期間

第一項第二號ノ賃金總額ニハ賞與又ハ臨時ニ支給セララルル手當ニシテ内務大臣ノ定ムルモノヲ包含セス

前三項ノ規定ニ依リ扶助料及葬祭料算出ノ標準トスヘキ賃金ヲ算出スルコトヲ得サル場合ニ於テハ扶助規則ノ定ムル所ニ依ル但シ扶助規則ニ定ナキトキハ地方長官之ヲ定ム

第十七條 前條第一項第二號ノ規定ニ依リ賃金ヲ算出スル場合ニ於テ工業主カ食事其ノ他ノ給與ヲ常時支給スルトキハ其ノ價額ハ賃金中ニ之ヲ加算ス但シ休業扶助料ヲ支給スル場合ニ於テ工業主カ食事其ノ他ノ給與ヲ引續キ支給スルトキハ其ノ價額ハ休業扶助料算出ノ標準トスヘキ賃金中ニ之ヲ加算セス

第十八條 地方長官ハ職權ヲ以テ又ハ申請ニ因リ職工ノ負傷、疾病者ハ死亡ノ原因、第七條各號ニ掲クル身體障害ノ程度其ノ他扶助ニ關スル事項ニ付之ヲ審査シ及事件ノ調停ヲ爲スコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ醫師ヲシテ診斷又ハ檢案セシムルコトヲ得

第十九條 工業主ハ遲滞ナク扶助規則ヲ作成シ扶助ノ金額、手續其ノ他扶助ニ關シ必要ナル事項ヲ定メ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ扶助規則ヲ變更シタルトキ亦同シ

地方長官必要ト認ムルトキハ扶助規則ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第二十條 官立工場ニ於ケル職工ノ扶助ニ付テハ別ニ定ムル規程ニ依ル

第三章 職工ノ雇入及解雇

第二十一條 工業主ハ遲滞ナク職工名簿ヲ調製シ工場毎ニ之ヲ備付クヘシ職工名簿ニ記載スヘキ事項ニ關シテハ内務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二十二條 職工ニ給與スル賃金ハ通貨ヲ以テ毎月一回以上之ヲ支拂フヘシ

第二十三條 工業主ハ職工ノ死亡若ハ解雇ノ場合又ハ内務大臣ノ定ムル場合ニ於テ權利者ノ請求アリタルトキハ遲滞ナク賃金ヲ支拂フヘシ

工場法施行令

二〇

前項ノ場合ニ於テ積立金、信認金其ノ他何等ノ名義ヲ用井ルニ拘ラス職工ノ貯蓄金ハ遲滞ナク之ヲ返還スヘシ

第二十四條 工業主ハ職工ノ雇入ニ關シ前二條ノ規定ニ違反スル契約又ハ工業主ノ受クヘキ違約金ヲ定メ若ハ損害賠償額ヲ豫定スル契約ヲ爲スコトヲ得ス但シ左ノ事項ニ付豫メ方法ヲ定メ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

- 一 職工ニ貯蓄ヲ爲サシメ又ハ職工ノ利益ノ爲賃金ノ一部ニ代ヘ他ノ給付ヲ爲スコト

- 二 職工カ雇人契約ニ違反シ其ノ他職工ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ解雇セララル場合ニ於テ職工ノ貯蓄金中工業主ノ給與ニ係ル部分ヲ交付セサルコト

第二十五條 職工ノ貯蓄金ヲ管理スル場合ニ於テハ工業主ハ豫メ確實ナル方法ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第二十六條 削除

第二十條 未成年者若ハ女子カ工業主ノ都合ニ依リ解雇セラレ又ハ第五條若ハ第六條ノ規定ニ依リ扶助ヲ受クル職工若ハ第七條第一號第二號ニ該當スル職工解雇セラレ解雇ノ日ヨリ十五日内ニ歸郷スル場合ニ於テハ工業主ハ其ノ必要ナル旅費ヲ負擔スヘシ第十四條ノ規定ニ依リ扶助ヲ廢止セラレタル者廢止ノ日ヨ

リ十五日内ニ歸郷スル場合亦同シ

第十八條ノ規定ハ前項ノ旅費ニ關シ之ヲ準用ス

第二十七條ノ二 工業主職工ニ對シ雇傭契約ヲ解除セムトスルトキハ少クトモ十四日前ニ其ノ豫告ヲ爲スカ又ハ賃金十四日分以上ノ手當ヲ支給スルヲ必要ス但シ天災事變ニ基キ事業ノ繼續不可能ト爲リタルニ因リ又ハ職工ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ已ムコトヲ得サル場合ニ於テ雇傭契約ヲ解除スルトキハ此ノ限ニ在ラス前項ノ規定ニ依ル豫告期間ノ計算ニ付テハ左ニ掲ケル期間ハ之ヲ算入セス

- 一 業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ療養ノ爲休業スル期間但シ其ノ期間引續キ二月ヲ超ユルトキハ其ノ後ノ期間ハ此ノ限ニ在ラス
- 二 産前又ハ産後ノ女子内務大臣ノ定ムル所ニ依リ休業スル期間
- 三 工業主ノ都合ニ依リ職工臨時ニ休業スル期間但シ休業中賃金ヲ受クルトキハ此ノ限ニ在ラス

前二項ノ規定ハ試ノ雇傭期間中ノ職工ニ付之ヲ適用セス但シ雇入後十四日(工業主地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ二十一日)ヲ超ユル職工ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十六條及第十七條ノ規定ハ第一項ノ賃金ニ、第十八條ノ規定ハ第三項ノ場合

工場法施行令

二二

工場法施行令

一一一

ニ之ヲ準用ス

第二十七條ノ三 職工解雇ノ場合ニ於テ雇傭期間、業務ノ種類及賃金ニ付證明書ヲ請求シタルトキハ工業主ハ遲滞ナク之ヲ交付スヘシ

第二十七條ノ四 常時五十人以上ノ職工ヲ使用スル工場ノ工業主ハ遲滞ナク就業規則ヲ作成シ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ就業規則ヲ變更シタルトキ亦同シ就業規則ニ定ムヘキ事項左ノ如シ

一 始業終業ノ時刻、休憩時間、休日及職工ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムルトキハ就業時轉換ニ關スル事項

二 賃金支拂ノ方法及時期ニ關スル事項

三 職工ニ食費其ノ他ノ負擔ヲ爲サシムルトキハ之ニ關スル事項

四 制裁ノ定アルトキハ之ニ關スル事項

五 解雇ニ關スル事項

地方長官必要ト認ムルトキハ就業規則ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第四章 徒弟

第二十八條 工場ニ收容スル徒弟ハ左ノ各號ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一 一定ノ職業ニ必要ナル知識技能ヲ習得スル目的ヲ以テ業務ニ就クコト

二 一定ノ指導者指揮監督ノ下ニ教習ヲ受クルコト

三 品性ノ修養ニ關シ常時一定ノ監督ヲ受クルコト

四 地方長官ノ認可ヲ受ケタル規程ニ依リ收容セラレルコト

第二十九條 工業主前條第四號ノ認可ヲ申請スルニハ左ノ事項ヲ具備スヘシ

一 徒弟ノ員數

二 徒弟ノ年齢

三 指導者ノ資格

四 教習ノ事項及期間

五 就業ノ方法及一日ニ於ケル就業ノ時間

六 休日及休憩ニ關スル事項

七 品性修養ニ關スル監督ノ方法

八 給與ノ方法

九 第三十條ノ規定ニ依リ設クル規程

十 徒弟契約ノ條項

第三十條 徒弟未成年者又ハ女子ナル場合ニ於テハ其ノ就業ニ付十六歳未滿ノ者又ハ女子ニ關スル工場法ノ規定ニ準據シテ危険ヲ避ケ及衛生上ノ害ヲ防クノ方
工場法施行令

一一三

法ヲ定ムヘシ

第三十一條 地方長官ハ工業主ニ於テ第二十八條第四號ノ規程ニ遵ハス又ハ徒弟
教習ノ目的ヲ完クスルコト能ハスト認ムルトキハ之ヲ矯正スル爲必要ナル事
項ヲ命シ又ハ第二十八條第四號ノ認可ヲ取消スコトヲ得

第三十二條 第二十八條ノ條件ヲ具備セサル者ニ對シテハ工業主ニ於テ徒弟ノ名
義ヲ用井ルニ拘ラス職工ニ關スル工場法及本令ノ規定ヲ適用ス第二十八條第四
號ノ認可ヲ取消サレタルトキ從來ノ徒弟ニ付亦同シ

第五章 罰 則

第三十三條 工業主ヲシテ不正ニ扶助義務、賃金支拂ノ義務、職工ノ貯蓄金返還
ノ義務若ハ第二十七條第一項ノ規定ニ依ル義務ノ全部若ハ一部ヲ免レシメタル
者又ハ第二十七條ノ二ノ規定ニ違反シテ雇傭契約ヲ解除セシメタル者ハ二百圓
以下ノ罰金ニ處ス但シ其ノ所爲ニ付工場法第二十二條ノ規定ニ依リ工業主又ハ
之ニ代ル者ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第三十四條 罰 除

第三十五條 罰 除

第三十六條 罰 除

附 則

第三十七條 本令ハ大正五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十八條 第二十四條ノ規定ハ本令施行後一年間本令施行前ノ契約ニ之ヲ適用
セス

賃金ノ支拂期ニ關シ第二十二條ノ規定ニ異ル慣習アルトキハ工業主ハ地方長官
ノ許可ヲ受ケ本令施行後三年内其ノ慣習ニ彼ル支拂期ヲ延長セサル限度ニ於テ
支拂期ヲ定ムルノ契約ヲ爲スコトヲ得

第三十九條 本令施行ノ際工場法ノ適用ヲ受クル工場ノ工業主ハ本令施
リ四月内ハ第十九條、第二十條、第二十二條、第二十五條及第二十六條ノ規
定ニ依ラサルコトヲ得

本令施行ノ際職工ノ貯蓄金ヲ管理シ又ハ尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル學齡兒
童ヲ雇傭シ若ハ徒弟トシテ收容スル工業主前項ノ期間内ニ第二十五條第二十六
條又ハ第三十條第二項ノ規定ニ依ル認可ヲ申請シタルトキハ之ニ對スル行
分アル迄仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

前項ノ規定ハ前條第二項ノ許可ノ申請ニ付之ヲ準用ス

第四十條 現行ノ命令ハ工場法又ハ命令ニ牴觸セサル限り本令施行ノ爲其ノ效力

工場法施行令

工場法施行令

二六

ヲ妨ケラルルコトナシ

第四十一條 本令ニ定ムルモノノ外主務大臣及地方長官ハ職工ノ雇入、解雇、周旋ノ取締其ノ他本令施行ノ爲必要ナル事項ニ關シ命令ヲ發スルコトヲ得

第四十二條 本令中地方長官トアルハ東京府ニ於テハ警視總監トス

大正十五年六月五日勅令第百五十三號附則

第一條 本令ハ大正十二年法律第三十三號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 従前ノ規定ニ依リ扶助ヲ受クル者本令施行後引續キ扶助ヲ受クルトキハ本令施行後ハ本令ニ依リ之ヲ扶助スヘシ本令施行前ニ扶助ヲ受ケテ治癒シタル負傷又ハ疾病カ本令施行後再發シテ扶助ヲ受クルトキ亦同シ

第三條 本令施行ノ際大正十二年法律第三十三號又ハ本令ノ規定ニ依リ新ニ工場法ノ適用ヲ受クル工場ノ工業主カ本令施行前ニ爲シタル契約ニ付テハ第二十四條ノ規定ハ本令施行後一年間之ヲ適用セス

前項ノ工業主ハ賃金ノ支拂期ニ關シ第二十二條ノ規定ニ異ル慣習アルトキ地方長官ノ許可ヲ受ケ本令施行後二年以内其ノ慣習ニ依ル支拂期ヲ延長セサル限度ニ於テ支拂期ヲ定ムルノ契約ヲ爲スコトヲ得

第四條 尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル學齡兒童ヲ使用スル場合ニ於テハ工業主

ハ遲滞ナク就學ニ關シ必要ナル事項ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 附則第三條第一項ノ工業主ハ本令施行ノ日ヨリ四月以内ハ第二十二條、

第二十五條及同條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

附則第三條第一項ノ工業主職工ノ貯蓄金ヲ引續キ管理シ又ハ尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル學齡兒童ヲ引續キ使用スル場合ニ於テ前項ノ期間内ニ第二十五條又ハ前條ノ認可ヲ申請シタルトキハ之ニ對スル行政處分アル迄仍従前ノ例ニ依ルコトヲ得

前項ノ規定ハ第一項ノ期間内ニ附則第三條第二項ノ許可ヲ申請シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六條 本令中十六歳トアルハ本令施行後三年間ハ之ヲ十五歳トス

工場法施行令

二七

三、工場法施行規則

(大正五年八月三日) (大正十五年六月七日)
(農商務省令第十九號) (内務省令第十三號改正)

第一條 工場法施行令第一條ノ規定ニ依ル原動機ハ蒸汽機關、蒸汽タービン、瓦斯機關、石油機關、タービン水車、ベルトン水車及電動機トス

第二條 工場法第四條及第七條ノ規定ニ依ル許可ノ申請ハ地方長官ニ之ヲ爲スヘシ同法第八條ノ規定ニ依ル許可若ハ認可ノ申請又ハ届出ニ付亦同シ

第三條 器械生絲製造ノ業務、紡績ノ業務及地方長官ノ告知シタル工場ニ於ケル輸出絹織物ノ業務ニ付テハ工業主ハ大正二十年八月三十一日ニ至ル間ハ十六歳未満ノ者及女子ノ一日ノ就業時間ヲ十二時間迄延長スルコトヲ得但シ職工ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第四條 工場法第八條第二項但書ノ規定ニ依リ工業主行政官廳ノ許可ヲ受ケスシテ就業時間ヲ延長シ、十六歳以上ノ女子ヲ就業セシメ又ハ休日ヲ廢シタルトキハ遲滞ナク之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第五條 工場法第九條ニ掲ケル業務ノ範圍左ノ如シ

一 原動機、電氣機械其ノ他ノ機械又ハ動力傳導裝置ニ附屬スル勢輪、曲柄、連

ネクチングロッドクロスヘッド、ピストンロッド、接桿、聯桿器、唧子桿、發電機ノ「コンミューターター」、轉子、

銳利ナル刃物、齒輪、調帶車、車軸、車軸接手又ハ之ニ準スヘキ危険ナル部分ヲ其ノ運轉中ニ掃除、注油、検査又ハ修繕スル業務

二 危険ナル方法ニ依リ運轉中ノ機械又ハ動力傳導裝置ニ調帶、調索ノ取附又ハ取外シテ爲ス業務

三 汽罐ノ焚火、給水弁、阻汽弁ノ開閉又ハ安全弁ノ取扱

四 發電機、電動機、發電機ノ抵抗器若ハ變壓器ノ取扱又ハ高壓電線ノ接續

五 鋸機ニ木材ヲ送給スル業務

六 危険ナル齒輪、調帶車、勢輪、調帶、調索ニシテ完全ナル柵圍其ノ他危害豫防裝置ナキモノ又ハ之ニ準スヘキモノニ接近シテ行フ業務

七 完全ナル柵圍其ノ他ノ危害豫防裝置ナキ車軸道、足場其ノ他之ニ準スヘキ場所ニ於ケル業務

第六條 工場法第十條ニ掲ケル業務ノ範圍左ノ如シ

一 砒素若ハ水銀又ハ其ノ化合物、黄燐、硫化燐、チアン水素酸、「チアンカリウム」、フルオール水素酸、硫酸、硝酸、鹽酸、苛性ナトロン、石炭酸其ノ他之ニ準スヘキ毒劇性料品ヲ取扱フ業務

工場法施行規則

工場法施行規則

二 「カリウム」、「ナトリウム」、過酸化ナトリウム、「エーテル」、石油ペンゼン、「アルコール」、二硫化炭素其ノ他之ニ準スヘキ發火性又ハ引火性ノ料品ヲ取扱フ業務

三 壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ヲ取扱フ業務

四 火薬、爆薬又ハ火工品ヲ取扱フ場所ニ於ケル業務

五 金屬、鑛物、土石、骨、角、襁褓、獸毛、棉、麻、藁等ノ塵埃、粉末ヲ著シク飛散スル場所ニ於ケル業務

六 砒素、水銀、黃磷、鉛、チアン水素酸、「フルオール」、「アニリン」、「クロール」若ハ「クロール」又ハ其ノ化合物其ノ他之ニ準スヘキ有害料品ノ粉塵、蒸氣若ハ瓦斯又ハ酸性瓦斯ヲ發散スル場所ニ於ケル業務

七 多量ノ高熱物體ヲ取扱フ業務又ハ金屬、鑛物、土石類ノ熔融若ハ煨燒ヲ爲ス高熱ノ場所、高熱ノ乾燥室其ノ他之ニ準スヘキ場所ニ於ケル業務

第七條 工場法第十條ノ規定ハ前條第六號及第七號ニ掲ケル業務ニ關シ十六歳以上ノ女子ニ付之ヲ適用ス

第八條 工業主ハ左ニ掲ケル疾病ニ罹レル者ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス但シ第四號又ハ第五號ニ掲ケル疾病ニ罹レル者ニ付傳染豫防ノ處置ヲ爲シタル場合

ハ此ノ限ニ在ラス

一 精神病

二 癩、肺結核、喉頭結核

三 丹毒、再歸熱、麻疹、流行性腦脊髄膜炎其ノ他之ニ準スヘキ急性熱性病

四 微毒、疥癬其ノ他傳染性皮膚病

五 膿漏性結膜炎、トラホーム(著シク傳染ノ虞アルモノ)其ノ他之ニ準スヘキ傳染性眼病

工業主ハ肋膜炎、心臟病、脚氣、關節炎、髓鞘炎急性泌尿生殖器病其ノ他ノ疾病ニ罹レル者ニシテ就業ノ爲病症増悪ノ虞アル場合ハ之ヲ就業セシムルコトヲ得ス

工業主ハ傳染病又ハ重大ナル疾病ニ罹レル者ニシテ其ノ症候消失シタル後ト雖健康ノ回復セサル場合ハ之ヲ就業セシムルコトヲ得ス但シ醫師ノ意見ヲ徴シ支障ナシト認ムル業務ニ就カシムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九條 工業主ハ四週日以内ニ出産スルコトアルヘキ者休業ヲ求メタルトキハ其ノ者ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス

工業主ハ産後六週日ヲ經過セサル者ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス但シ産後四

工場法施行規則

工場法施行規則

三二一

週日ヲ經過シタル者就業セムコトヲ求メタル場合ニ於テ醫師ノ支障ナシト認めタル業務ニ就カシムルコトヲ妨ケス

第九條ノ二 生後滿一年ニ達セサル生兒ヲ哺育スル女子ハ就業時間中ニ於テ一日ニ回各三十分以内ヲ限り其ノ生兒ヲ哺育スヘキ時間ヲ求ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ工業主ハ哺育時間中其ノ女子ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス

第十條 地方長官ハ前二條ニ掲ケル場合ノ外工業主ニ對シ病者又ハ産婦ノ就業ノ制限又ハ禁示ヲ命スルコトヲ得

第十一條 工場法第十四條ノ規定ニ依ル證票ハ様式第一號ニ依ル

第十二條 工業主ハ就業規則ヲ適宜ノ方法ヲ以テ職工ニ周知セシムヘシ

工業主ハ始業及終業ノ時刻並休憩及休日ニ關スル事項ヲ各作業場ノ見易キ場所ニ揭示スヘシ

第十二條ノ二 工業主ハ職工ニ就業前豫メ其ノ賃金ノ率及計算方法ヲ明示スヘシ

第十三條 工業主ハ扶助ニ關スル事項ノ要領ヲ平易ニ記述シ適宜ノ方法ヲ以テ之ヲ職工ニ周知セシムヘシ

第十四條 職工就業中又ハ工場及附屬建設物内ニ於テ負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ工業主ハ遲滞ナク醫師ヲシテ診斷又ハ檢案ヲ爲サシムヘシ

第十四條ノ二 工場法施行令第十六條第三項ノ規定ニ依リ同條第一項第二號ノ賃金總額ニ包含セラレサルモノ左ノ如シ

一 三月ヲ超ユル期間毎ニ支給スル賞與

二 發明、善行其ノ他特別ノ行爲ニ對スル賞與又ハ手當

第十五條 工場法施行令第十七條ノ給與ノ算出方法ニ關シ契約又ハ慣習ナキ場合ニ於テ年ヲ以テ定メタルトキハ三百六十分シ月ヲ以テ定メタルトキハ三十分シテ一日ノ賃金又ハ給與ヲ定ム

第十六條 職工名簿ノ記載ハ様式第二號ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第十七條 職工名簿ノ用紙ハ職工ノ死亡又ハ解雇後五年間之ヲ保存スヘシ

第十八條 工業主カ其ノ職工ニ付工場間ニ又ハ工場ト工場外トノ間ニ所屬ノ移動ヲ行ヒタル場合ニ於テハ職工名簿ノ記載ニ付雇入又ハ解雇アリタルモノト看做ス

第十九條 職工ノ雇入、解雇及扶助ニ關スル書類ハ工場毎ニ之ヲ備置クヘシ

前項ノ雇入又ハ解雇ニ關スル書類ハ職工ノ解雇又ハ死亡ノ日ヨリ三年間、扶助ニ關スル書類ハ扶助ヲ終リタル日ヨリ三年間之ヲ保存スヘシ

第二十條 工場法施行令第二十三條ノ規定ニ依リ工業主カ賃金ヲ支拂ヒ又ハ職工工場法施行規則

三三

工場法施行規則

ノ貯蓄金ヲ返還スヘキ場合左ノ如シ

- 一 職工カ一月以上ニ涉リテ歸郷スルトキ
- 二 職工カ婚禮又ハ葬儀ヲ行フ費用ニ充ツルトキ
- 三 其ノ他地方長官ノ命令ヲ以テ定メタル場合

第二十一條 工業主工場管理人選任ノ認可ヲ申請セムトスルトキハ申請書ニ其ノ履歷書ヲ添ヘ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

第二十二條 工業主ハ左ノ場合ニ於テハ遲滞ナク地方長官ニ届出ツヘシ

- 一 工場法第十八條第三項但書ニ依リ工場管理人ヲ選任シタルトキ
- 二 工場管理人死亡シ又ハ之ヲ解任シタルトキ
- 三 第十七條又ハ第十九條第二項ノ規定ニ依リ保存スヘキ書類ヲ滅失又ハ毀損シタルトキ

第二十三條 削除

第二十四條 常時五十人以上ノ職工ヲ使用スル工場ニ於ケル職工ノ疾病、負傷又ハ死亡ニ付テハ工業主ハ様式第三號ノ定ムル所ニ依リ毎月取纏メ翌月二十日迄ニ地方長官ニ届出ツヘシ

第二十五條 職工就業中又ハ工場若ハ附屬建設物内ニ於テ負傷シ、窒息シ又ハ急

性中毒ニ罹リ死亡シタルトキ又ハ療養ノ爲三日以上ノ休業ヲ要スヘキ見込ノトキハ工業主ハ事故發生後遲滞ナク様式第四號ニ依リ地方長官ニ届出ツヘシ事故發生當時休業三日以内ノ見込ノ者療養ノ爲休業三日以上ニ及ヒタルトキ亦同シ

第二十六條 工場又ハ附屬建設物内ニ於テ左ニ掲ケル事故發生シタル場合ニ於テハ工業主ハ遲滞ナク様式第五號ニ依リ地方長官ニ届出ツヘシ

- 一 火災又ハ爆發
- 二 汽罐其ノ他内壓力ヲ有スル容器ノ破裂
- 三 勢輪又ハ高速廻轉機ノ破裂
- 四 起重機又ハ昇降機ノ鎖若ハ索ノ切斷又ハ起重機ノ梁若ハ支柱ノ折損
- 五 工場、附屬建設物、煙突又ハ高架槽ノ倒壊
- 六 其ノ他一時ニ五人以上ノ死傷者ヲ生シタル事故

第二十七條 削除

附 則

第二十八條 本則ハ大正五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十九條 本則施行ノ際工場法ノ適用ヲ受ケル工場ノ工業主ハ本則施行ノ日ヨリ四月内ハ第十二條、第十三條及第二十四條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

工場法施行規則

工場法施行規則

三六

第三十條 工場法施行ノ際十歳以上十二歳未滿ノ者ヲ引續キ就業セシムル工業主ハ大正五年九月三十日迄ニ其ノ氏名、男女別、生年月日及雇入年月ヲ地方長官ニ届出ツヘシ
前項ノ届出ヲ怠リタル者又ハ其ノ届書ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十一條 本則中地方長官トアルハ東京府ニ於テハ警視總監トス

大正十五年六月七日内務省令第十三號附則

本令ハ大正十二年法律第三十三號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令(様式第二號ノ改正規定ヲ除ク)中十六歳トアルハ本令施行後三年間ハ十五歳トス

(様式第一號)

第 號 大正 年 月 日交付

官 職 氏 名

社會局又ハ
廳府縣印

工場法第十四條 當該官吏ハ工場若ハ其ノ
附屬建設物ニ臨檢シ又ハ就業ノ禁示制限
ヲ爲スヘキ疾病若ハ傳染ノ虞アル疾病ニ
罹レル疑アル場合ニ於テハ其ノ檢診ヲ爲ス
コトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ證票ヲ携
帶スヘシ
工場法第二十一條 正當ノ理由ナクシテ當
該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又
ハ其ノ尋問ニ對シ拒ミ答辯ヲ爲サス若ハ虚偽
ノ陳述ヲ爲シ又ハ職工若ハ徒弟ノ檢診ヲ
妨ケタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

豎八センチメートル横十七
センチメートル中央點線ノ所
ヨリ二ツ折ト爲シ表面ニ
「工場臨檢票」ト記ス

工場法施行規則

三七

雜	解雇	入雇	履歴	住所	性別		籍
					女	男	
					月日	生年	名氏

職工名簿記載心得

- 一 職工名簿ハ職工毎ニ少クトモ用紙一枚ヲ備ヘ其ノ體裁ハカード式其ノ他ノ方式ニ依リ工業主ノ便宜ニ從ヒ之ヲ定ムヘシ
- 二 工業主ノ都合ニ依リ本様式各欄ノ間隔ヲ伸縮シ、各欄内ニ別ニ欄ヲ設ケ又ハ各欄以外ノ欄ヲ設ケルコトヲ妨ケス
各欄ノ位置ハ本様式ニ掲ケル順序ニ依ルヘシ但シ本則施行ノ際使用スル職工名簿ニ付テハ新名簿調製ニ至ル迄ノ間從前ノ順序ニ依ルコトヲ得
- 三 職工名簿ハ職工ノ業務別、男女別又ハ女工及十六歳未滿ノ男工ト其ノ他ノ職工トチ區別スル等便宜ニ從ヒ各別ニ之ヲ調製スルコトヲ妨ケス
- 四 履歴欄ニハ職工ノ學業及業務上ノ履歴ノ概略ヲ記載スヘシ職工十六歳未滿ノ者ナル場合ニ於テハ尋常小學校ノ教科ヲ修了シタル者ニ在リテハ其ノ修了シタル尋常小學校名及修了年月ヲ、尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル者ニ在リテハ其ノ旨ヲ記載スルコトヲ要ス
- 五 雇入欄ニハ雇入又ハ雇入更新ノ年月日、雇入期間ノ定アルモノハ其ノ期間其ノ他雇入ニ關シ重要ナル事項ヲ記載スヘシ
- 六 解雇欄ニハ解雇ノ年月日、事由其ノ他解雇ニ關シ重要ナル事項ヲ記載スヘシ

工場法施行規則

四〇

職工死亡シタルトキハ本欄ニ其年月日、死亡ノ原因、死亡ニ至ル迄ノ經過ヲ記載スヘシ

七 雜欄ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

イ 女子及十六歳未滿ノ男工カ同一日ニ於テ他工場ニモ就業スル場合ニ於テ

ハ 工場ニ於ケル就業時間(工場法第三條第三項)

ロ 職工カ遺族扶助料ヲ受クヘキ者ヲ豫告シタルトキハ其ノ氏名、住所、職

工トノ關係及豫告ノ年月日(工場法施行令第十二條但書)

尙本欄ニハ工業主ニ於テ必要ト認ムル雜件ヲ記載スルモノトス

八 各票作成ノ當務者ハ雜欄其ノ他便宜ノ場所ニ作成ノ年月日ヲ記載シ署名又ハ捺印スヘシ

(様式第三號)

大正		年	職工負傷疾病月報	工場名	職工總數		
月分					内		
					男工	女工	
氏名	生年月	業務別 男女別	休業日 數	病名又發病又 ハ負傷ハ負傷 ノ種類ノ日附	治癒 ノ日	死亡 ノ日	解雇 ノ日
							未治癒ノ爲 翌月へ繰越
							末
							〇
							〇
							〇
							〇
							〇
							〇

工場法施行規則

四一

工場法施行規則

四二

職工負傷疾病月報記載心得

- 一 本月報用紙ノ一頁ハ半紙半折大トス
- 二 本月報ニハ業務上下否トナ問ハス負傷又ハ疾病ノ爲引續キ三日又ハ夫レ以上休業シタル者ニ限り記載スヘシ但シ死亡シタル者ニ付テハ休業三日ニ滿タサルトキト雖之ヲ記載スヘシ同一職工ニ付同一月内ニ二回以上月報ニ記載スヘキ事由ヲ生シタルトキハ各別ニ記載スヘシ
- 三 負傷及疾病ハ各別ニ取纏メテ記載スヘシ負傷ト疾病ト用紙ヲ別ニスルモ妨ケナシ
- 四 職工總數欄ニハ其ノ月ノ末日ニ使用スル職工ノ總數ヲ記載スヘシ
- 五 業務別男女別欄ニハ例ヘハ紡績工場ニ於テハ混棉部男工、精紡部女工、製紙工場ニ於テハ紙料部男工、織布工場ニ於テハ整經部女工等ニ準シ記載スヘシ
- 六 休業日數欄ニハ其ノ月ニ於ケル休業日數ヲ記載スヘシ
月末ノ休業日數カ三日ニ滿タサルモ翌月ノ分ト合算シテ三日又ハ夫レ以上トナリタル場合ニ於テハ之ヲ通算シテ翌月ノ月報ニ記載スヘシ
未治癒ノ爲翌月ヘ繰越欄ニ記載シタルモノニシテ翌月ニ入り治癒シタルト

- 七 キハ翌月ニ於ケル休業三日ニ滿タスト雖仍之ヲ翌月ノ月報ニ記載スヘシ
病名又ハ負傷ノ種類、發病又ハ負傷ノ日附判明セサルトキハ「不明」ト記載スヘシ

- 八 結末欄ニ於テハ其ノ月内ニ治癒シタル者ハ治癒ノ日附、其ノ月内ニ死亡シ又ハ治癒ニ至ラスシテ解雇シタル者ハ死亡又ハ解雇ノ日附ヲ記載シ其ノ月内ニ治癒セサルモノニ付テハ未治癒ノ爲翌月ノ繰越欄ニ〇印ヲ附スヘシ

工場法施行規則

四三

工場法施行規則

(様式第四號)

四四

年 月 日(届出)

職工死傷報告

工場名	事業ノ種類		職工數計		工場所在地	工場主又ハ工場管理人	年月日
	男	女	男	女			
氏名	性	生年月	業務名又ハ職名	雇入年月	賃金	被害ノ部位及症狀	死亡ノ日時又ハ休業見込日數
死傷者							
災害及災發ノ生	動力ニ依リ運轉中ノ機械又ハ動力傳導裝置ニ依リ災害發生シタルトキ記入スヘキ事項						
原因	名稱						
危険豫防裝置ノ狀況	大サ又ハ能力タル部分						
	其ノ部分ノ速度大サ等						

職工死傷報告記載必得

- 一 本報告ノ用紙一頁ハ美濃紙半折大トス
- 二 本報告ハ職工死亡シ又ハ療養ノ爲休業二週日以上ヲ要スヘキ見込ノ場合ニ於テハ二通其ノ他ノ場合ニ於テハ一通ヲ差出スヘシ
- 三 本報告ニ付テハ其ノ寫ヲ作成シ届出後五年間之ヲ保存スヘシ
- 四 本報告ハ死傷者一名毎ニ用紙ヲ別ニスヘシ同一ノ事故ニ依リ數人ノ死傷者ヲ生シタル場合ニ於テハ其ノ中一枚ノ報告ニ詳細記入シテ他ノ報告ニハ其ノ重複スル部分ヲ省略スルコトヲ得
- 五 工業主ノ都合ニ依リ本様式各欄ノ間隔ヲ伸縮シ各欄内ニ別ニ欄ヲ設ケ又ハ各欄以外ノ欄ヲ設クルコトヲ妨ケス
- 六 工業主又ハ工場管理人欄ニハ届出人タル工業主又ハ工場管理人ノ氏名ヲ記入シ捺印スヘシ
- 七 事業ノ種類欄ニハ例ヘハ毛織物業、綿絲紡績業、機械製造業、自轉車製造業、造船業、洋傘骨製造業、セメント製造業、製鐵業、菓子製造業等ヲ記入スヘシ二種以上ノ事業ヲ營ム場合ニ於テハ其ノ主要ナル事業名ヲ記入スヘシ

工場法施行規則

四五

工場法施行規則

- 八 職工數欄ニハ最近ノ調査ニ依ル員數ヲ記入スヘシ
- 九 事故發生場所欄ニハ事故ノ發生シタル場所ニ於テ行ハルル作業ノ性質ヲ明示シ得ル名稱(例ヘハ機關室、鍛工場、木工場、乾燥室、原料粉碎室、苛性曹達煮詰釜場、叩解作業室、機關室ト貯炭所トノ間ノ軌道入渠中ノ修理船何丸ノ足場等)ヲ記入スヘシ
- 十 當日被害者ノ作業開始時刻欄ニハ被害者ノ當日作業ヲ開始シタル時刻ヲ記入スヘシ當日ヨリ引續キ夜業ヲ爲セル場合ニ於テハ前日ノ作業開始時刻ヲ記入スヘシ
- 十一 死傷者欄中
 - (一) 業務又ハ職名稱ニハ被害者ノ擔當業務又ハ職名(例ヘハ旋盤工、修繕工捺染工雜役夫等)ヲ記入スヘシ
 - (二) 雇入年月欄ニハ當該工場ヲ於テ被害者ヲ雇入レタル年月ヲ記入スヘシ
 - (三) 賃金額ニハ被害者ノ日給(稼高ノ場合其ノ他收入一定セサル場合ニ於テハ最近ニ於ケル通常一日ノ賃金額)ヲ記入スヘシ
 - (四) 被害ノ部位及症狀欄ニハ例ヘハ頭部打撲、右上膊骨折、左第三指及

第四指挫傷、電擊、腹部火傷、瓦斯中毒、窒息等ヲ記載スヘシ

- (五) 死亡日時又ハ休業見込日數欄ニハ死亡シタル者ニ付テハ死亡ノ日時生命危篤ノ者ニ付テハ其ノ旨、其ノ他ノ者ニ付テハ治療ノ爲休業シタル日數ト其ノ後ノ休業見込日數トノ合算日數ヲ記入スヘシ

- 十二 災害ノ原因及發生狀況欄ニハ災害發生前ノ被害者ノ動作、操作、災害發生位置ノ高サ又ハ深サ、災害力機械又ハ設備ニヨリテ發生シタル場合ニ於テハ其ノ大サ能力高サ壓力電壓又ハ溫度其ノ他災害ノ原因及狀況ヲ明瞭ナラシムルニ必要ナル事項ヲ舉ケテ其ノ顛末ヲ記載スヘシ但シ動力ニ依リ運轉中ノ機械又ハ動力傳導裝置ニ依リ災害ヲ發生シタルトキ左方ノ記入欄ニ記入スル場合ニ於テハ其ノ機械又ハ動力傳導裝置ニ付テハ簡略ニ記載スヘシ第二十六條ニ規定セル事故ニ依リ死亡者又ハ治療ノ爲休業三日以上ヲ要スヘキ者ヲ生シタルトキハ其ノ原因ヲ簡略ニ記載シ様式第五號ノ工場災害事故報告トノ關係ヲ明ニスヘシ

- 十三 動力ニ依リ運轉中ノ機械又ハ動力傳導裝置ニ依リ災害發生シタルトキ記入スヘキ事項欄中

- (一) 名稱欄ニハ機械又ハ動力傳導裝置ノ名稱(例ヘハ蒸汽機關、旋盤、工場法施行規則

工場法施行規則

- 圓鋸機、車軸、調帶等)ヲ記入スヘシ
- (二) 大サ又ハ能力欄ニハ機械又ハ動力傳導裝置ノ大サ又ハ能力(例ヘハ何馬力、長サ何米、直徑何種、幅何種、厚サ何種等)ヲ記入スヘシ
- (三) 災害ヲ生シタル部分欄ニハ例ヘハ曲柄、齒輪、鋸齒、車軸接手、調帶、調帶車等ヲ記入スヘシ
- (四) 其ノ部分ノ速度、大サ等欄ニハ廻轉數何程、輪周速度何米、長サ何米幅何種、厚サ何種等ヲ記入スヘシ
- 十四 危害豫防裝置ノ狀況欄ニハ災害ノ發生セル機械、設備其ノ他ノ場所ニ危害豫防裝置(例ヘハ高サ何米ノ木製柵圍、何種ノ眞鍮丸棒ヲ使用セル高サ何米ノ手欄、金網製掩蓋、機械運轉中ハ開カサル様爲シタル危險部ヲ蔽ヘル戸等)アルトキハ之ヲ記入スヘシ
- 十五 災害原因及發生狀況又ハ危害豫防裝置ノ狀況其ノ他ニ關シ本欄中ニ記載シ難キトキハ別紙ニ記載シ添付スヘシ
- 十六 災害原因及發生狀況又ハ危害豫防裝置ノ狀況ニ關シテハ成ルヘク寫眞又ハ見取圖ノ類ヲ添付スヘシ

工場災害事故報告

(様式第五號)

工場名		工場所在地		工場主又ハ工場管理人		年 月 日 届出	
事業ノ種類		職工數計		事故發生日時		事故發生場所	
災害ノ原因及發生狀況		死傷者數		二週日以上ノ休業ヲ要スル者		其ノ他ノ負傷者	
被災ノ狀況		被傷者數		被傷者ノ性別		損害見積金額	
災害ノ種類		被傷者ノ種類		被傷者ノ性別		損害見積金額	
二損		機械、設備等ノ損害		原料、材料、製品等ノ損害		災害ニ因ル作業休止ノ損害	
災害		機械、設備等ノ損害		原料、材料、製品等ノ損害		災害ニ因ル作業休止ノ損害	
避難施設狀況		防豫施設狀況		避難施設狀況		防豫施設狀況	

工場法施行規則

工場災害事故報告記載心得

- 一 本報告用紙ノ 頁ハ美濃紙半折大トス
- 二 本報告ハ二通差出スヘシ
- 三 本報告ニ付テハ其ノ寫ヲ作成シ届出後五年間之ヲ保存スヘシ
- 四 本報告ハ災害事故一件毎ニ用紙ヲ別ニスヘシ
- 五 工業主ノ都合ニ依リ本様式各欄ノ間隔ヲ伸縮シ各欄内ニ別ニ欄ヲ設ケ又ハ各欄以外ノ欄ヲ設クルヲ妨ケス
- 六 工業主又ハ工場管理人欄ニハ届出人タル工業主又ハ工場管理人ノ氏名ヲ記入シ捺印スヘシ
- 七 事業ノ種類欄ニハ例ヘハ賣藥製造業、セルロイド加工業、製綿業、機械類修理業、煙火製造業等ヲ記入スヘシ二種以上ノ事業ヲ營ム場合ニ於テハ其ノ主要ナル事業名ヲ記入スヘシ
- 八 職工數欄ニハ最近ノ調査ニ依ル員數ヲ記入スヘシ
- 九 事故發生場所欄ニハ事故ノ發生シタル場所ニ於テ行ハルル作業ノ性質ヲ明示シ得ル名稱(例ヘハ汽罐室、瓦斯發生爐前、熔接作業場、硝化作業室、原料煮熱罐室、鑄込場、脫水作業場等)ヲ記入シ倉庫ノ場合ニ於テハ其ノ

倉庫ニ格納セララルル物品ヲ明示シ得ル名稱(例ヘハ棉花倉庫、石油貯藏庫等)ヲ記入スヘシ

十 災害ノ原因及發生狀況欄ニハ左ノ各號ニ從ヒ記載スヘシ

- (一) 火災ノ場合ニ於テハ發火ノ原因、第一次ニ火氣ヲ傳播セシメタル料品ノ名稱、數量、狀態等及之ニ關係セル機械又ハ設備、作業、操作其ノ他原因及發生狀況ヲ明ニスルニ必要ナル事項ヲ舉ケ其ノ顛末ヲ記載スヘシ尙消火唧筒若ハ消火栓ヲ使用シタル以前ニ消火ノ爲取リタル措置アラハ其ノ狀況ヲ記載スヘシ

爆發ノ場合ニ於テハ爆發シタル料品ノ名稱、數量、爆發ノ原因、爆發ニ關係アル機械、設備、作業、操作其ノ他爆發ノ原因及狀況ヲ明ニスルニ必要ナル事項ヲ舉ケ其ノ顛末ヲ記載スヘシ

- (二) 汽罐其ノ他内壓力ヲ有スル容器ノ破裂ノ場合ニ於テハ其ノ種類、型式使用ノ目的、製造年月、大サ、常用壓力、附屬壓力計ノ容量、安全弁ノ種類、及口徑破裂當時ノ使用壓力、水壓試験ヲ行ヒタルモノニ付テハ其ノ年月及試験壓力、災害事故ニ關係アル作業、操作其ノ他原因及發生狀況ヲ明ニスルニ必要ナル事項ヲ舉ケ其ノ顛末ヲ記載スヘシ

工場法施行規則

(三) 勢輪又ハ高速廻轉機ノ破裂ノ場各ニ於テハ勢輪又ハ高速廻轉機ノ種類其ノ使用ノ目的、構成材料、大サ(直徑、厚サ等)常用廻轉數、災害發生當時ノ廻轉數其ノ他原因及發生狀況ヲ明ニスルニ必要ナル事項ヲ舉ケ其ノ顛末ヲ記載スヘシ

(四) 起重機又ハ昇降機ノ鎖若ハ索切斷シタル場合ニ於テハ其ノ常用荷重及事故發生時ノ荷重、事故ヲ惹起シタル部分(鎖、索、梁又ハ支柱)ノ構造、材料、大サ及製造年月其ノ他原因及發生狀況ヲ明ニスルニ必要ナル事項ヲ舉ケ其ノ顛末ヲ記載スヘシ

(五) 工場、附屬建築物、煙突、高架槽ノ倒壊ノ場合ニ於テハ倒壊ノ直接原因(風、地震等)被害物件ノ構造、材料、構造ノ缺陷、構造年月其ノ他原因及發生狀況ヲ明ニスルニ必要ナル事項ヲ舉ケ其ノ顛末ヲ記載スヘシ

(六) 五人以上ノ負傷者(職工以外ヲ含ム)ヲ生シタル場合ニ於テハ前各號ニ做ヒ災害事故ノ原因及發生狀況ヲ明ニスルニ必要ナル事項ヲ舉ケ其ノ顛末ヲ記載スヘシ

十一 前項ノ記載ニハ成ルヘク寫眞又ハ見取圖ノ類ヲ添付スヘシ

十二 死傷者數欄ニハ職工タルト否トニ拘ラス該當欄ニ記入スヘシ

十三 災害ニ因ル損害欄ニハ被害建物ノ損害ハ其ノ種類別ニ(例ハ本造二階建、石造平屋建、木骨亞鉛引鐵板張平屋等)、坪數(延坪)及其ノ損害見積金額ヲ記入シ、機械、設備等ノ損害、原料、材料、製品等ノ損害又ハ災害ニ依ル作業休止ノ損害ハ各總見積金額ヲ記入スヘシ

十四 豫防施設狀況欄ニハ火災ニ對スル消防火ノ施設(例ハ自動撒水装置、消火唧筒、消火栓、消火器具等ノ種類及配置狀況又ハ防火壁ノ構造、防火戸等)ニ付記載シ特ニ發火ノ場所ニ於ケル施設狀況ヲ明ニスヘシ爆發ニ在リテハ爆發ヲ起シタル場所特ニ墻壁、圍壁其ノ他ノ豫防施設アラハ之ヲ記載スヘシ他ノ場合ニ於テモ其ノ豫防施設アラハ之ヲ記載スヘシ

十五 避難施設狀況欄ニハ出入口、昇降口、非常口、階段等ノ配置、構造、扉ノ開閉等ノ不良ナリシ爲避難ニ支障ヲ生シタル場合ニ於テハ其ノ理由ヲ記載シ特ニ避難設備トシテ設ケラレタルモノアラハ種類及配置ニ付記載スヘシ

十六 災害ノ原因及發生狀況、豫防及避難施設ノ狀況其ノ他ニ關シ本欄ニ記載シ難キトキハ別紙ニ記載シ添付スヘシ

四、工場法施行細則

(大正十五年六月二十九日)
警視廳令 第二十八號

第一條 本令ニ於テ法ト稱スルハ工場法、施行令ト稱スルハ工場法施行令、施行規則ト稱スルハ工場法施行規則ヲ謂フ

第二條 工業主ハ其ノ工場ニシテ法ノ適用ヲ受クヘキ事由ヲ生シタルトキハ左ノ事項ヲ具シ十日以内ニ届出ツヘシ其ノ事項ヲ變更シタルトキ亦同シ但シ施行令

第二十七條ノ四ノ規定ニ依リ就業規則ノ届出ヲ爲ス場合ハ第四號乃至第六號及

第八號ノ事項ノ記載ヲ省略スルコトヲ得

一 工場所在地、工場名及工業主(法人ニ在リテハ其ノ名稱及代表者)ノ氏名

二 事業ノ種類

三 常時使用スル男女別職工數

四 就業時間

イ 十六歳以上ノ男子ノ就業時間

ロ 女子及十六歳未満ノ男子ノ就業時間

ハ 職工ヲ二組以上ニ分チテ交替ニ就業セシムル場合ノ就業時間轉換方法

五 休日、休憩時間並其ノ配置、動力ヲ使用スルモノニ在リテハ運轉休止ノ有無

六 賃金計算方法及支拂日

七 職工ノ募集又ハ雇入ノ方法並雇入契約ニ關スル事項

八 職工解雇ニ關スル事項

九 職工服務ニ關スル事項

十 寄宿及寄宿設備ニ關スル事項

十一 共済組合、購買組合、託兒所其ノ他之ニ類スル施設ニ關スル事項

十二 醫療ニ關スル事項

法ノ適用ヲ受ケタル工場ニシテ之ヲ受ケサルニ至ルヘキ事由ヲ生シタルトキハ

十日以内ニ届出ツヘシ

第三條 工業主法第四條但書ノ規定ニ依リ十六歳未満ノ者又ハ女子ニ付就業時間

延長ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ申請スヘシ

一 定時ノ始業時及終業時

二 延長セムトスル時間

三 時間延長ヲ必要トスル事由

工場法施行細則

五六

- 四 時間延長ヲ要スル作業ノ種別
- 五 男女別就業職工數

第四條 工業主法第七條第二項但書ノ規定ニ依リ十六歳未滿ノ者又ハ女子ニ對シ休憩時間ヲ一齊ニ與ヘサルコトノ許可ヲ受ケムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ申請スヘシ

- 一 一定時ノ始業時及終業時
- 二 休憩時間並其ノ配置
- 三 休憩時間ヲ一齊ニ與フルコト能ハサル事由
- 四 作業ノ種別
- 五 男女別就業職工數

第五條 工業主法第七條第三項ノ規定ニ依ル就業時間延長ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ申請スヘシ

- 一 一定時ノ始業時及終業時
- 二 休憩時間並其ノ配置
- 三 延長セムトスル時間
- 四 時間延長ヲ爲サムトスル期間

第六條 法第八條第四項ニ規定スル季節ニ依リ繁忙ナル事業トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂フ

- 一 生絲製造業
- 二 製茶業
- 三 果實ノ罐詰ニ關スル事業
- 四 前各號ノ外天候其ノ他自然ノ關係ニ依リ原料又ハ材料處理ノ爲繁忙ナル事業

第七條 工業主法第八條第二項ノ規定ニ依ル就業時間延長若ハ休日廢止ノ許可又ハ法第八條第四項ノ規定ニ依ル就業時間延長ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ申請スヘシ

- 一 一定時ノ始業時及終業時
 - 二 時間延長又ハ休日廢止ヲ必要トスル事由
 - 三 延長スヘキ時間又ハ廢止スヘキ休日並其ノ期間
 - 四 休憩時間並其ノ配置
 - 五 延長ヲ要スル作業ノ種別
 - 六 男女別就業職工數
- 工場法施行細則

五七

工場法施行細則

五八

工業主法第八條第三項ノ規定ニ依リ就業時間ヲ延長セムトスルトキハ前項各號ノ事項ヲ具シ届出ツヘシ

第八條 施行規則第四條ノ規定ニ依リ届出ツヘキ書類ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 原料又ハ材料ノ名稱
 - 二 就業繼續日數
 - 三 休日廢止ノ有無
 - 四 定時ノ始業時及終業時
 - 五 一日ノ延長時間
 - 六 休憩時間ノ配置
 - 七 十六歳以上十六歳未満ノ別竝男女別就業職工數
- 第九條 工業主施行令第五條乃至第七條、第八條、第九條又ハ第十四條ノ規定ニ依リ扶助料又ハ葬祭料ノ支給ヲ完了シ又ハ施行令第二十七條ノ規定ニ依リ歸郷旅費ヲ支給シタルトキハ第一號様式ニ依リ翌月十日迄ニ届出ツヘシ扶助料ノ支給ヲ完了セシテ翌年ニ繰越シタルトキ亦同シ
- 第十條 職工業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ十四日以上健康保險法ニ依ル療養ノ給付又ハ傷病手当金ノ支給ヲ受ケ治癒若ハ死亡シタルトキハ工業主ハ第二號様式

ニ依リ翌月十日迄ニ届出ツヘシ

第十一條 工業主施行令第七條ノ二ノ規定ニ依ル認定ヲ受ケムトスルトキハ左ノ

事項ヲ具シ申請スヘシ

- 一 職工ノ氏名及生年月日
 - 二 雇入年月日
 - 三 當該職工ノ常時從事スル作業ノ種類
 - 四 負傷又ハ罹病ノ原因竝狀況
 - 五 重大ナル過失ヲ證スヘキ事項
 - 六 診斷書其ノ他醫師ノ診斷資料
- 第十二條 工業主施行令第十三條第二項但書ノ規定ニ依リ障害扶助料又ハ遺族扶助料分割支給ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ申請スヘシ
- 一 扶助料ノ支給ヲ受クヘキ者ノ氏名及生年月日
 - 二 遺族扶助料ノ場合ニ在リテハ死亡セル職工ノ氏名竝支給ヲ受クヘキ者トノ續柄
 - 三 扶助料ノ種類
 - 四 支給スヘキ總金額

工場法施行細則

五九

工場法施行細則

六〇

五 賃金日額(職工健康保険法ニ依ル被保険者ナルトキハ標準報酬ノ日額)並扶
助料支給日數

六 分割回數及各回ノ金額

七 分割支給ヲ必要トスル事由

第十三條 工業主ハ職工出勤簿ヲ作成シ工場毎ニ之ヲ備付クヘシ

職工出勤簿ニハ始業時及終業時ヲ記載スヘシ但シ早出及残業ヲ爲シタルトキハ
職工毎ニ其ノ始業時又ハ終業時ヲ記載スヘシ

職工出勤簿ハ其ノ使用ヲ終リタル後三年間之ヲ保存スヘシ

第十四條 工業主ハ工場毎ニ賃金計算簿ヲ備ヘ職工毎ニ各支拂期ノ賃金總額ヲ記
載スヘシ

賃金計算簿ニハ出勤日數、定時間外作業ニ對スル割増賃金、請負單價、出來高
數量其ノ他賃金計算ノ基礎トナルヘキ事項ヲ記載スヘシ
賃金計算簿ハ其ノ使用ヲ終リタル後三年間之ヲ保存スヘシ

第十五條 工業主施行令第二十四條但書ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケムトスルトキハ
左ノ各號ノ事項ヲ具シ申請スヘシ

一 職工ニ貯蓄ヲ爲サシムル爲賃金ヨリ控除スル場合ニ在リテハ其ノ金額又ハ

割合

二 職工ノ貯蓄金中工業主ノ給與ニ係ル部分ヲ交付セサル場合ニ在リテハ其ノ
事由及金額

第十六條 工業主施行令第二十五條ノ規定ニ依リ職工ノ貯蓄金管理ノ認可ヲ受ケ
ムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ申請スヘシ

一 貯蓄金管理ノ方法

二 利率

三 拂戻方法

工業主ハ職工ノ貯蓄金ニ關スル事項ノ要領ヲ適宜ノ方法ヲ以テ職工ニ周知セシ
ムヘシ

第十七條 工業主ハ其ノ管理スル職工ノ貯蓄金ニ付毎年二回以上其ノ現在高ヲ當
該職工ニ知ラシムヘシ

職工ヨリ請求アルトキハ工業主ハ當該職工ノ貯蓄金ニ關スル書類ヲ閱覽セシム
ヘシ

第十八條 工業主施行令第二十四條但書ノ規定ニ依リ賃金ノ一部ニ代ヘ他ノ給付
ヲ爲ス許可ヲ受ケムトスルトキハ職工ノ利益トナルヘキ事由ヲ具シ第三號様式

工場法施行細則

六一

工場法施行細則

六二

ニ依リ申請スヘシ

前項ノ給付ヲ受クル者ニ變更アリタルトキハ左ノ事項ヲ具シ遲滞ナク届出ツヘシ

- 一 新ニ給付ヲ受クル者ノ氏名、生年月日、雇入年月日、通貨ヲ以テ支給スヘキ一日又ハ一月ノ金額並食事其ノ他ノ給與物品
- 二 給付ヲ廢止セラレタル者ノ氏名及廢止年月日

第十九條 工業主施行令第二十七條ノ二ノ規定ニ依リ職工ニ對シ解雇ノ豫告ヲ爲シ又ハ解雇手當ヲ支給シタルトキハ左ノ事項ヲ具シ遲滞ナク届出ツヘシ

一 氏名

二 解雇ノ事由

三 賃金日額(職工健康保險法ニ依ル被保險者ナルトキハ標準報酬ノ日額)

四 豫告年月日又ハ解雇手當額

五 解雇スヘキ又ハ解雇シタル年月日

第二十條 工業主施行令第二十七條ノ二第三項ノ規定ニ依リ解雇ノ豫告若ハ解雇手當ノ支給ヲ要セサル期間延長ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ申請スヘシ

第二十一條 工業主徒弟ヲ收容シタルトキハ其ノ本籍、氏名、生年月日、契約年限及支給スヘキ物品ノ數量並金額ヲ記載シ遲滞ナク届出ツヘシ其ノ事項ヲ變更シタルトキ亦同シ

第二十二條 工業主徒弟ヲ收容シタルトキハ第四號様式ニ依リ徒弟名簿ヲ作成シ工場毎ニ之ヲ備付クヘシ

徒弟名簿ハ徒弟ノ死亡又ハ契約ノ解除後五年間之ヲ保存スヘシ

第二十三條 工業主法第十八條ノ規定ニ依リ工場管理人選任ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ工場管理人タルヘキ者ノ履歷書及選任契約書ノ謄本ヲ添附シ申請スヘシ

第二十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ工場管理人ノ認可ヲ與ヘス又ハ其ノ認可ヲ取消スコトアルヘシ

- 一 工場管理ニ付實権ヲ附與セラレサルモノト認ムル者
- 二 未成年者、禁治産者、準禁治産又ハ破産者ニシテ未タ復權セサル者
- 三 工場管理人ノ認可ヲ取消サレタル日ヨリ二箇年ヲ經過セサル者
- 四 禁錮又ハ懲役ノ刑ニ處セラレ刑ノ執行猶豫中ニ在ル者
- 五 其ノ他工場管理人トシテ不適任ト認ムル者

工場法施行細則

六三

工場法施行細則

六四

第二十五條 施行規則第二十四條ノ規定ニ依リ届出ツヘキ職工ノ負傷疾病月報ニハ工場所在地並業務ノ種類ヲ附記シ職工總數ヲ通勤寄宿ニ分チ且寄宿職工ノ氏名ハ朱書其ノ他ノ方法ニ依リ之ヲ區別スヘシ

第二十六條 工業主施行規則第八條ニ規定スル罹病者ヲ發見シタルトキハ第五號様式ニ依リ遲滞ナク届出ツヘシ

第二十七條 職工分娩シタルトキハ工業主ハ其ノ氏名、生年月日及分娩月日ヲ具シ遲滞ナク届出ツヘシ

第二十八條 工業主ハ毎年十月一日ニ於ケル現在職工數及原動機數其ノ他ノ事項ヲ第一號様式ニ依リ十月十五日迄ニ届出ツヘシ

第二十九條 工業主ハ毎月末日ニ於ケル現在職工數及其ノ月中ノ解雇並雇入職工數ヲ調査シ第七號様式ニ依リ翌月五日迄ニ届出ツヘシ

第三十條 工業主願届書類ヲ提出シタルトキハ其ノ謄本ヲ作成シ工場毎ニ保存スヘシ

第三十一條 本令ニ依ル申請又ハ届出ハ未成年者又ハ禁治産者ニ在リテハ其ノ法定代理人、準禁治産者ニ在リテハ其ノ保佐人、妻ニ在リテハ夫ノ連署ヲ要ス法定代理人、保佐人又ハ夫ニ變更アリタルトキハ三日以内ニ届出ツヘシ

第三十二條 法、施行令、施行規則及本令ニ依ル申請書又ハ届書ハ所轄警察署ヲ經由シ警視廳ニ提出スヘシ

附 則

第三十三條 本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十四條 大正六年十二月警視廳令第五十四號工場法施行細則ハ之ヲ廢止ス

第三十五條 工業主大正十五年六月廿日勅令第五百十三號附則第三條第二項ノ規定ニ依ル賃金支拂期ヲ定メムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ申請スヘシ

一 契約ノ内容

二 支拂期ニ關スル慣習

第三十六條 工業主尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル學齡兒童ノ就學認可ヲ受ケムトスルトキハ左ノ書類ヲ添附シ第八號様式ニ依リ申請スヘシ

一 尋常小學校在學中ノ者ニ在リテハ其ノ學校長ノ在學證明書

二 小學校令第三十六條但書ノ規定ニ依リ市町村長ノ認可ヲ受ケ尋常小學校以外ノ場所ニ於テ就學セシムル場合ニアリテハ授業時間割及擔當教員ノ履歷書

第三十七條 本令中十、歳トアルハ本令施行後三年間ハ之ヲ十五歳トス

工場法施行細則

六五

工場法施行細則

六八

氏名	作業別 男女別 ハ負傷又 ハ罹病 ハ程度又 ハ病名	罹病又ハ 傷ノ部位及 死亡又ハ切	種類	金額	算出ノ基礎	
					賃金 割合	休業 日數

記載心得

- 一 (丙)表歸郷旅費欄中未成年者又ハ女子ニシテ扶助ヲ受ケタル者ハ扶助ヲ受ケタル職工欄ニ記入スヘシ
- 二 (丁)表種類欄ニハ療養費、療養費休業扶助料、障害扶助料、葬祭料、歸郷旅費ヲ各別ニ記載スヘシ
- 三 (丁)表金額欄ハ各種ニ應シテ記載スヘシ

第二號様式(用紙半紙)

治療者又ハ死亡者月報

大正 年 月 分

工場所在地、工場名、業務

警視總監宛

工業主又ハ
工場管理人 氏

氏

名印

氏名	作業別 男女別	負傷又ハ 罹病月日	傷ノ部 位及程度 又ハ病名	治療月日	死亡月日

工場法施行細則

六九

工場法施行細則

第三號様式(用紙半紙)

代物給與許可申請

氏名	生年 月日	雇入 年月 日	通貨 ヲ以テ 支給スル 額	食 事	其ノ他ノ 物品	備考

右工場法施行細則第十八條第一項ノ規定ニ依リ申請候也

大正 年 月 日

工場所在地、工場名、業務

工業主又ハ
工場管理人 氏

名印

警視總監宛

第四號様式(用紙半紙)

徒弟名簿

雜	年 期 間 滿 了 日	收 容 年 月 日	契 約 期 間	履 歷	住 所	男 氏 名	女 生 年 月 日
						本籍	

記載心得

一 解約トハ契約期間滿了前ニ解約シタルコトヲ謂フ

工場法施行細則

工場法施行細則

七二

- 二 満了後ノ職業トハ期間満了後從來ノ工場ノ職工トナリシカ又ハ他工場ノ職工トナリシカヲ記入スヘシ
- 三 其他ノ事項ハ職工名簿記載心得ニ準スヘシ

第五様式(用紙半紙)

罹病者發見届

大正 年 月 日

工場所在地、工場名、業務

工業主又ハ
工場管理人

氏

名印

警視總監宛

氏名	生年月日	通勤 寄宿別	作業別 男女別	發病月日	病名	處置

第六様式(用紙半紙)

工場概況届

大正 年 月 日

工場所在地、工場名、業務

工業主又ハ
工場管理人

氏

名印

警視總監宛

(一) 職工數

人員	男女別	
	男	女
年齢別	十四歳以上十五歳未満	十四歳以上十五歳未満
	十五歳以上十六歳未満	十五歳以上十六歳未満
計	計	計

(二) 職工ヲ二組以上ニ分チ交替ニ夜間就業セシムル
場合ニ於ケル職工數

工場法施行細則

七三

工場法施行細則

七四

人員	男女別	
	男	女
年齡別	十四歲以上十五歲以下	十四歲以上十五歲以下
	未滿十五歲	未滿十六歲
人員	計	計

(三) 原動機ノ個數及馬力(汽罐ヲ含マス)

電動機	蒸汽機關	瓦斯石油機關	其ノ他ノ原動機關	電動機以外ノ原動機ニ依リ運轉スル發電機
臺數	馬力	臺數	馬力	臺數
馬力	馬力	馬力	馬力	馬力

(四) 職工寄宿設備

棟數	專用寄宿建物		他ノ建物ノ一部ニ寄宿セシムルモノ	
	坪	室數	室數	疊數
坪	坪	疊數	男工數	女工數
坪	坪	疊數	男工數	女工數

(五) 職工社宅

棟數	戶數	建坪	社宅在住人口	上欄ノ内職工數
坪	坪	坪	男	女
坪	坪	坪	男	女

(六) 工場法施行令第二十五條ニヨリ工業主ノ管理スル職工貯金額

金額	男女別	
	男	女
人員	貯金	貯金
	預金	預金
金額	計	計

(七) 尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル學齡兒童數

人員	學校別	
	公立尋常小學校	工場施設
人員	晝學	晝學
	晝學	晝學
人員	晝學	晝學
	晝學	晝學

工場法施行細則

七五

工場法施行細則

(八) 職工就業時間及休憩・休日ノ配置

七六

就業定時間	職工ノ他	保護職工	其ノ他	職工ノ他	保護職工	其ノ他	職工ノ他	保護職工	其ノ他
	職工	職工	職工	職工	職工	職工	職工	職工	職工
時分間	時分間	時分間	時分間	自午前 時分間	自午前 時分間	自午前 時分間	自午後 時分間	自午後 時分間	自午前 時分間
備考									

記載心得

- 一 (一)表ニハ職工全數ヲ記入スヘシ
- 二 (二)表ニハ二組以上ニ分チ晝夜交替ニ就業セシムル職工ノ全數ヲ記入スヘシ
- 三 (三)表ノ馬力ハ實馬力ヲ記入スヘシ
- 四 (四)表中ノ他ノ建物ノ一部ニ寄宿セシムル者ノ欄ニハ専用寄宿舎以外ニ寄宿セシムル者總テヲ記入スヘシ
- 五 (五)表ノ職工社宅トハ工業主カ職工ノ爲有料又ハ無料ニテ貸與シ職工カ其

ノ家族ト共ニ居住スル建物ヲ謂フ

六 (七)表中其ノ他トハ私立學校、私塾等ヲ謂フ

七 (八)表ノ就業時間ハ休憩時間ヲ加ヘタルモノヲ記入シ職工ヲ二組以上ニ分チ交替就業セシムルモノニ在リテハ各其ノ交替時刻、就業時間、休憩日ノ配置其ノ他就業轉換方法ニ關スル事項ヲ備考欄ニ記入スヘシ
保護職工トハ十六歳未満ノ者(大正十八年六月末日)及女子ヲ謂フ

第七號様式(用紙半紙)

職工異動及現在屆

大正 年 月 分

工場所在地、工場名、業務

工業主又ハ
工場管理人 氏

名印

警視總監宛

男女別	前月末現在	本 月 中	本月末現在
	職工數	解雇職工數	職工數

工場法施行細則

七七

	男	女	計

第八號様式(用紙半紙)

學齡兒童就學方法認可申請

氏名	生年月日	雇入年月日	就學場所	授業時間	就學時間	學費ノ負擔者	添付書類

右工場法施行細則第三十六條ニ依リ申請候也

大正 年 月 日

工場所在地、工場名、業務

工業主又ハ工場管理人

氏

名印

警視總監宛

五、工業労働者最低年齢法

(大正十二年三月二十九日 法律第三十四號)

第一條 本法ニ於テ工業ト稱スルハ左ニ掲グル事業ヲ謂フ

- 一 鑛業、砂鑛業、石切業其ノ他土地ヨリ鑛物ヲ採取スル事業
 - 二 物品ノ製造、改造、淨洗、修理、裝飾、仕上、販賣ノ爲ニスル仕立、破壊若ハ解体ヲ爲シ又ハ材料ノ變造ヲ爲ス事業(造船業及電氣又ハ各種動力ノ發生、變更及傳導ヲ爲ス事業ヲ含ム)
 - 三 土木、建築其ノ工作物ノ建設、改造、保存、修理、變更、解体又ハ其ノ準備若ハ基礎工事
 - 四 道路、鐵道、軌道又ハ平水航路ニ於ケル旅客又ハ貨物ノ運送但シ主トシテ人力ニ依ル運送ヲ除ク
 - 五 船渠、岸壁、波止場又ハ倉庫ニ於ケル貨物ノ取扱
- 第二條 十四歳未満ノ者ハ工業ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス但ル十二歳以上ノ者ニシテ尋常小學校ノ教科ヲ修了シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 前項ノ規定ハ同一ノ家庭ニ屬スル者ノミヲ使用スル事業又ハ行政官廳ノ認可ヲ工業労働者最低年齢法

工業労働者最低年齢法

八〇

受ケ工業ニ關スル學校ニ於テ兒童ニ爲サシムル作業ニ之ヲ適用セス

第三條 十六歳未満ノ者ヲ工業ニ使用スル場合ニ於テハ使用者ハ其ノ住所、氏名生年月日及學歷ヲ記載シタル名簿ヲ調製シ作業場ニ備附クルコトヲ要ス但シ工場法施行令又ハ鑛業法ニ依ル名簿ノ備附アル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第四條 當該官吏ハ作業場又ハ其ノ附屬建設物ニ臨檢スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ證票ヲ携帯スヘシ

第五條 工業ニ就業シ若ハ就業セムトスル者又ハ使用者ハ就業シ又ハ就業セムトスル者ノ戸籍ニ關シ戸籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理人ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

第六條 第二條ノ規定ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 第三條ノ規定ニ違反シタル者又ハ正當ノ理由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 使用者營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セサル未成年者若ハ禁治産者ナル場合又ハ法人ナル場合ニ於テ使用者ニ適用スヘキ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ之ヲ適用ス

第九條 使用者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ従業者ニシテ本法ニ違反スル所爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第十條 本法ニ於テ使用者ニ關スル規定ハ工場法ノ適用ヲ受クルニ工場ニ在リテハ工業主ニ、工場管理人アル場合ニ於テハ工場管理人ニ、鑛業ニ在リテハ鑛業權者ニ鑛業代理人アル場合ニ於テハ鑛業代理人ニ之ヲ適用ス

第十一條 本法ハ罰則ヲ除クノ外國、府縣、市町村其ノ他之ニ準スヘキ者ノ使用者タル場合ニ之ヲ適用ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (大正十五年六月五日勅令第百五十二號ヲ以テ大正十五年七月一日ヨリ施行ノ旨定ム)

本法施行ノ際十二歳以上ノ者ヲ引續キ使用スル場合ニ於テハ其ノ者ニ付第二條ノ規定ハ之ヲ適用セス

工業労働者最低年齢法

八一

六、工業労働者最低年齢法

施行規則 (大正十五年六月七日 内務省令第十四號)

第一條 工業労働者最低年齢法第二條第二項ニ規定スル行政官廳ハ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同シ)、鑛業及砂鑛業ニ付テハ鑛山監督局長トス

第二條 工業労働者最低年齢法第三條ノ規定ニ依ル名簿中學歴ニ付テハ尋常小學校ノ教科ヲ修了シタル者ニ在リテハ其ノ修了シタル尋常小學校名及修了年月ヲ尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル者ニ在リテハ其ノ旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第三條 工業労働者最低年齢法第四條ノ規定ニ依ル證票ハ別記様式ニ依ル

附 則

本令ハ工業労働者最低年齢法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
工業労働者最低年齢法施行ノ際同法附則第二項ノ規定ニ依リ十二歳以上十四歳未満ノ者ニシテ尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル者ヲ引續キ使用スル場合ニ於テハ使用者ハ其ノ住所、氏名、生年月日及雇入年月日ヲ本令施行ノ日ヨリ二月内ニ地方長官又ハ鑛山監督局長ニ届出ツヘシ

前項ノ届出ヲ怠リタル者又ハ其ノ届書ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
(別記様式)

第 號 大正 年 月 日交付

官 職 氏 名

社會局、廳府縣
又ハ鑛山監督局印

工業労働者最低年齢法第四條 當該官吏ハ作業場又ハ其ノ附屬建設物ニ臨檢スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ證票ヲ携帯スヘシ
工業労働者最低年齢法第七條 第三條ノ規定ニ違反シタル者又ハ正當ノ理由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ妨ケ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

工業労働者最低年齢令法施行規則

豎八センチメートル横
十センチメートル中央
點線ノ所ヨリニツ折ト
爲シ表面ニ「工業臨檢
票」ト記ス

七、民法第三編第二章第八節雇傭

第六百二十三條 雇傭ハ當事者ノ一方カ相手方ニ對シテ勞務ニ服スルコトヲ約シ相手方カ之ニ其報酬ヲ與フルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第六百二十四條 勞務者ハ其約シタル勞務ヲ終ハリタル後ニ非サレハ報酬ヲ請求スルコトヲ得ス

期間ヲ以テ定メタル報酬ハ其期間ノ經過シタル後之ヲ請求スルコトヲ得

第六百二十五條 使用者ハ勞務者ノ承諾アルニ非サレハ其權利ヲ第三者ニ讓渡スルコトヲ得ス

勞務者ハ使用者ノ承諾アルニ非サレハ第三者ヲシテ自己ニ代ハリテ勞務ニ服セシムルコトヲ得ス

勞務者カ前項ノ規定ニ反シ第三者ヲシテ勞務ニ服セシメタルトキハ使用者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第六百二十六條 雇傭期間カ五年ヲ超過シ又ハ當事者ノ一方若クハ第三者ノ終身間繼續スヘキトキハ當事者ノ一方ハ五年ヲ經過シタル後何時ニテモ契約ノ解除

ヲ爲スコトヲ得但此期間ハ商工業見習者ノ雇傭ニ付テハ之ヲ十年トス前項ノ規定ニ依リテ契約ノ解除ヲ爲サント欲スルトキハ三ヶ月前ニ其豫告ヲ爲スコトヲ要ス

第六百二十七條 當事者カ雇傭ノ期間ヲ定メサリシトキハ各當時者ハ何時ニテモ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ雇傭ハ解約申入ノ後二週間ヲ經過シタルニ因リテ終了ス

期間ヲ以テ報酬ヲ定メタル場合ニ於テハ解約ノ申入ハ次期以後ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得但其申入ハ當期ノ前半ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

六ヶ月以上ノ期間ヲ以テ報酬ヲ定メタル場合ニ於テハ前項ノ申入ハ三ヶ月前ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第六百二十八條 當時者カ雇傭ノ期間ヲ定メタルトキト雖モ己ムコトヲ得サル事由アルトキハ各當事者ハ直ニ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但其事由カ當事者ノ一方ノ過失ニ因リテ生シタルトキハ相手方ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任ス

第六百二十九條 雇傭ノ期間滿了ノ後勞務者カ引繼キ其勞務ニ服スル場合ニ於テ使用者カ之ヲ知リテ異議ヲ述ヘサルトキハ前雇傭ト同一ノ條件ヲ以テ更ニ雇傭ヲ爲シタルモノト推定ス但各當事者ハ第六百二十七條ノ規定ニ依リテ解約ノ申

入ヲ爲スコトヲ得

前雇傭ニ付當事者カ擔保ヲ供シタルトキハ其擔保ハ期間ノ滿了ニ因リテ消滅ス但身元保證金ハ此限ニ在ラス

第六百三十條 第六百二十條規定ハ雇傭ニ之ヲ準用ス

第六百三十一條 使用者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ雇傭ニ期間ノ定メアルトキト雖モ勞務者又ハ破産管財人ハ第六百二十七條ノ規定ニ依リテ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ各當事者ハ相手方ニ對シ解約ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

〔參照〕

第六百二十條 賃貸借ヲ解除シタル場合ニ於テハ其解除ハ將來ニ向テノミ其效力ヲ生ス但當事者ノ一方ニ過失アリタルトキハ之ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨ス

八、労働爭議調停法

(大正十五年四月八日
法律第五十七號)

第一條 左ニ掲クル事業ニ於テ労働爭議發生シタルトキハ行政官廳ハ當事者ノ請求ニ依リ調停委員會ヲ開設スルコトヲ得當事者ノ請求ナキ場合ト雖行政官廳ニ於テ必要アリト認メタルトキ亦同シ

一 蒸気、電氣其ノ他ノ動力ヲ使用スル鐵道、軌道又ハ船舶ニ依リ公衆ノ需要ニ應スル運輸事業

二 公衆ノ用ニ供スル郵便、電信又ハ電話ノ事業

三 公衆ノ需要ニ應スル水道、電氣又ハ瓦斯供給ノ事業

四 第一號乃至第三號ノ事業ニ電氣ヲ供給スル事業ニシテ其ノ休止カ第一號乃至第三號ノ事業ノ進行ヲ著シク阻害スルモノ

五 其ノ他公衆ノ日常生活ニ直接關係アル事業ニシテ勅令ヲ以テ定ムルモノ

六 陸軍又ハ海軍ノ直營ニ係ル兵器艦船ノ製造修理ノ事業ニシテ勅令ヲ以テ定ムルモノ

前項ニ掲クル以外ノ事業ニ於テ労働爭議發生シタルトキハ行政官廳ハ當事労働爭議調定法

労働争議調定法

八八

者双方ノ請求ニ依リ調停委員会ヲ開設スルコトヲ得

第二條 調停委員会ヲ開設セムトスルトキハ行政官廳ハ當事者双方ニ之ヲ通知スヘシ

第三條 調停委員会ハ九人ノ委員ヲ以テ之ヲ組織ス委員ノ中六人ハ労働争議ノ當事者ヲシテ各同數ヲ選定セシメ他ノ三人ハ當事者ノ選定シタル委員ヲシテ争議ニ直接利害關係ヲ有セサル者ニ就キ選定セシメ行政官廳之ヲ囑託ス
前項ノ規定ニ依リ囑託セラレタル委員ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第四條 労働争議ノ當事者第二條ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタルトキハ三日内ニ前條第一項ノ規定ニ依リ其ノ選定シタル委員ヲ行政官廳ニ届出ツルコトヲ要ス
當事者前項ノ規定ニ依ル届出ヲ爲ササルトキハ行政官廳ハ當事者ニ代リ委員ヲ選定ス此ノ委員ハ當事者ノ選定シタルモノト看做ス
前二項ノ規定ニ依ル手續終リタルトキハ行政官廳ハ直ニ前條第一項ノ規定ニ依リ當事者ノ選定シタル委員ニ於テ選定スヘキ委員ノ選定ヲ要求スヘシ此ノ場合ニ於テハ當事者ノ選定シタル委員ハ四日内ニ之ヲ選定シ行政官廳ニ届出ツルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依ル届出ナキトキハ行政官廳ハ當事者ノ選定シタル委員ニ代リ前項ノ規定ニ依リ選定スヘキ委員ヲ選定ス此ノ委員ハ當事者ノ選定シタル委員ニ於テ選定シタルモノト看做ス

第五條 委員中缺員ヲ生シタルトキハ前二條ノ手續ニ準シ之ヲ補充ス

第六條 委員定マリタルトキハ行政官廳ハ直ニ調停委員会ヲ招集シ之ヲ開會スヘシ

第七條 調停委員会ニ議長及其ノ代理者ヲ置ク議長及其ノ代理者ハ當事者ノ選定ニ係ル委員ニ於テ選定シタル委員ノ互選ニ依リ投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ之ニ充ツ多數ヲ得タル者ナキトキハ抽籤ニ依ル

第八條 調停委員会ハ労働争議ノ解決ニ必要ナル調査審理ヲ爲シ其ノ調停ヲ爲スモノトス

第九條 調停委員会ハ開會ノ日ヨリ十五日内ニ調停手續ヲ結了スルコトヲ要ス
前項ノ期間ハ當事者ノ選定シタル委員全員ノ同意アリタルトキハ之ヲ延長スルコトヲ得

第十條 調停委員会ハ議長又ハ其ノ代理者及各當事者ノ選定シタル委員各二名以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

労働争議調定法

八九

労働争議調定法

九〇

第十一條 調停委員會ノ議事ハ本法中段別ノ規定アル場合ヲ除クノ外過半数ヲ以テ決ス可否同数ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十二條 調停委員會ノ議事ハ之ヲ公開セス

行政官廳ハ調停委員會ノ承認ヲ得テ當該官吏ヲシテ會議ニ臨席セシムルコトヲ得

第十三條 調停委員會ハ調停ニ必要ナル範圍ニ於テ當事者又ハ其ノ代表者其ノ他利害關係人又ハ參考人ニ對シ出席説明ヲ求メ又ハ説明書類ノ提示ヲ求ムルコトヲ得

第十四條 調停委員會ハ調停ニ必要ナル範圍ニ於テ委員ヲシテ作業場其ノ他争議ノ關係場所ニ立入り、作業若ハ設備ヲ視察シ又ハ關係者ニ質問セシムルコトヲ得但シ軍事上秘密ヲ要スル場所ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 委員又ハ委員タリシ者ハ故ナク前二條ノ場合ニ知得タル秘密ヲ漏洩スルコトヲ得ス

第十六條 第九條ニ規定スル調停手續ノ結了ノ場合ニ於テハ調停委員會ハ其ノ願末ヲ行政官廳ニ報告スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ労働争議解決スルニ至ラザリシトキハ調停委員會ハ其ノ報告

ニ委員會ノ決議セル争議調停案及之ニ關スル少数意見ヲ表示スルコトヲ要ス

第十七條 行政官廳ハ前條ノ規定ニ依ル報告ノ要旨ヲ公表スヘシ但シ労働争議解決シタル場合ニ於テ當事者一方ノ選定シタル委員全員カ予メ反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 委員及第十三條ニ規定スル者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

第十九條 第一條第一項ニ掲ケル事業ニ於ケル労働争議ニ關シ第二條ノ規定ニ依ル通知アリタルトキハ現ニ其ノ争議ニ關係アル使用者及労働者並其ノ屬スル使用者團體及労働者團體ノ役員及事務員以外ノ者ハ第九條ニ規定スル調停手續ノ結了ニ至ル迄左ニ掲ケル目的ヲ以テ其ノ争議ニ關係アル使用者又ハ労働者ヲ誘惑若ハ煽動スルコトヲ得ス

一 使用者ヲシテ労働争議ニ關シ作業所ヲ閉鎖シ、作業ヲ中止シ雇傭關係ヲ破毀シ又ハ勞務繼續ノ申込ヲ拒絕セシムルコト

二 労働者ノ集團ヲシテ労働争議ニ關シ勞務ヲ中止シ、作業ノ進行ヲ阻害シ、雇傭關係ヲ破毀シ又ハ雇傭繼續ノ申込ヲ拒絕セシムルコト

第二十條 故ナク第十三條ニ規定スル出席説明又ハ説明書類ノ提示ヲ爲ササル者
労働争議調定法

九一

ハ五十圓以下ノ過料ニ處ス

非訴事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

第二十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十三條ノ場合ニ於テ虚偽ノ説明ヲ爲シタル者

二 故ナク第十四條ノ規定ニ依ル立入、視察ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨ケ又ハ質問ニ對シ答辨ヲ爲サス若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者

三 第十五條ノ規定ニ違反シタル者

第二十二條 第十九ノ規定ニ違反シタル者ハ三月以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

九、勞働爭議調停法施行令

(大正十五年六月廿三日勅令第百九十六號)

第一條 勞働爭議調停法及本令ニ依ル行政官廳ノ職務ハ爭議ノ發生シタル作業所所在地ノ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同シ)之ヲ行フ

同一ノ爭議カ前項ノ規定ニ依リ二以上ノ地方長官ノ管轄ニ涉ルトキハ内務大臣ハ其ノ一ヲ指定シテ前項ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第二條 内務大臣必要アリト認ムルトキハ前條ニ規定スル行政官廳以外ノ行政官廳ヲ指定シテ前條第一項ノ職務ヲ行ハシメ又ハ自ラ之ヲ行フコトヲ得但シ内務大臣其ノ指揮監督ノ下ニ在ラサル行政官廳ヲ指定セムトスルトキハ豫メ其ノ所管大臣ト協議スルコトヲ要ス

第三條 第一條ニ於テ地方長官トアルハ船員法ノ適用アル船員ノ爭議ニ付テハ遞信局長トシ前二條ニ於テ内務大臣トアルハ船員ノ爭議ニ付テハ遞信大臣トス

第四條 調停委員會開設ノ請求ハ左ノ事項ヲ具シ文書ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

- 一 爭議ノ發生シタル作業所ノ名稱及所在地
- 二 爭議ニ關係アル勞働者ノ概數

勞働爭議調停法施行令

勞働爭議調停法施行令

九四

- 三 代表者ニ依リ請求ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ代表者タルコトヲ示スニ見ルヘキ事項
- 四 調停委員會ニ關スル通知ヲ受クヘキ場所
- 五 爭議ノ要求事項
- 六 爭議ノ經過概要
- 第五條 當事者ノ一方ヨリ調停委員會開設ノ請求アリタルトキハ行政官廳ハ他ノ當事者ニ之ヲ通知スヘシ
- 第六條 調停委員會ヲ開設セムトスル旨ノ通知ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
行政官廳前項ノ通知ヲ爲シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ公示スヘシ
- 第七條 調停委員會勞働爭議調停法第九條ノ規定ニ依リ調停手續ヲ結了シタルトキ又ハ其ノ期間ヲ延長シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ行政官廳ニ報告スルコトヲ要ス
- 前項ノ報告アリタルトキハ行政官廳ハ直ニ其旨ヲ公示スヘシ
- 第八條 調停委員會ノ議事ニ關スル總テノ書類ハ勞働爭議調停法第十六條ニ規定スル報告ト共ニ之ヲ行政官廳ニ提出スルコトヲ要ス
- 第九條 勞働爭議調停第十八條ノ規定ニ依リ辨償ヲ受クルコトヲ得ル費用ハ旅費

日當及止宿料トス

前項ノ旅費、日當及止宿料ハ別表ノ定額以内ニ於テ行政官廳之ヲ定ム

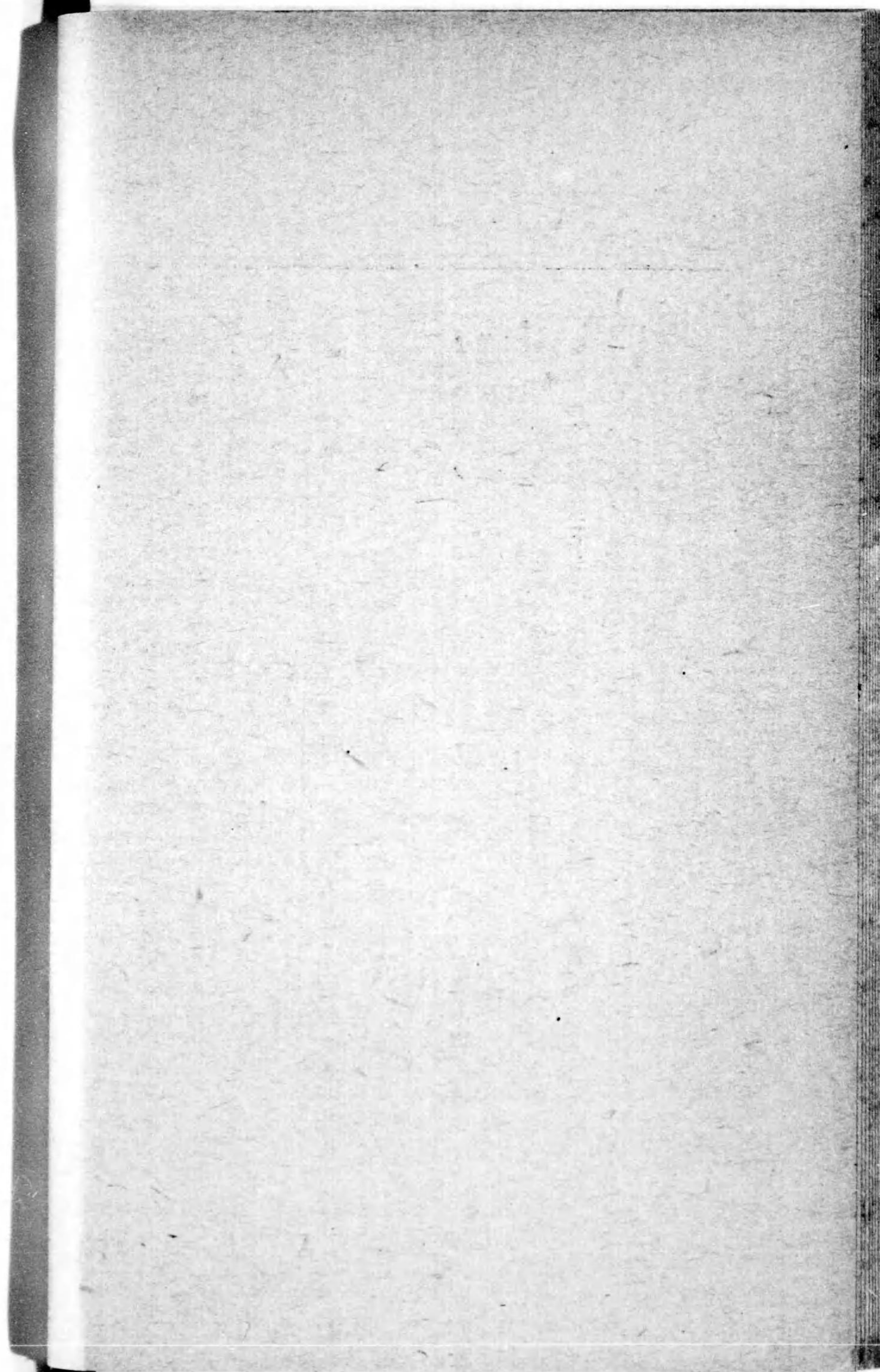
附 則

本令ハ勞働爭議調停法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別表)

區 分	鐵 通 賃 及 船 賃	車 馬 賃 ニ 付 里	日 當 ニ 付 日	止 宿 料 ニ 付 一 夜
委 員	二 等	九 十 錢	六 圓	八 圓
當 事 者 又 ハ 其 ノ 代 表 者 其 ノ 他 利 害 關 係 人 又 ハ 參 考 人	二 等	七 十 五 錢	三 圓	五 圓
備 考	鐵道賃及船賃ハ運賃ノ等級ヲ二階級ニ區分スル場合ニハ上級ノ運賃トシ其ノ等級ヲ設ケサル場合ニハ其ノ乗車又乗船ニ要スル運賃トス			

欠



欠

論スヘキモノナリ、又前三條ニ記載シタル者トハ(イ)公務所ノ用ニ供スル文書(ロ)權利義務ニ關スル文書(ハ)建造物又ハ艦船ヲ云フ

第二條 財産上不正ノ利益ヲ得又ハ得セシムル目的ヲ以テ前條第一項ノ方法ニ依リ面會ヲ強請シ又ハ強談威迫ノ行爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
常習トシテ故ナク面會ヲ強請シ又ハ強談威迫ノ行爲ヲ爲シタル者ノ罰亦前項ニ同シ

〔参照〕

警察犯處罰令第一條、左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留ニ處ス
四、故ナク面會ヲ強請シ又ハ強談威迫ノ行爲ヲ爲シタル者

第三條 第一條第一項ノ方法ニ依リ刑法第九十九條、第二百四條、第二百八條
第一項、第二百二十二條、第二百二十三條、第二百三十四條、第二百六十條又ハ第二百六十一條ノ罪ヲ犯サシムル目的ヲ以テ金品其ノ他ノ財産上ノ利益若ハ職務ヲ供與シ又ハ其申込若ハ約束ヲ爲シタル者及情ヲ知リテ供與ヲ受ケ又ハ其ノ要求若ハ約束ヲ爲シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
第一條第一項ノ方法ニ依リ刑法第九十五條ノ罪ヲ犯サシムル目的ヲ以テ前項ノ

暴力行爲等處罰法

暴力行爲等處罰法

一一四

行爲ヲ爲シタル者ハ六月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
〔刑法抄〕

第二百八條第一項、第二百二十二條、第二百六十一條ハ前ニ記シタルニヨリ
再記セス

第九十五條、公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタ
ル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス、公務員ヲシテ或處分ヲ爲サシメ若ク
ハ爲ササラシムル爲メ又ハ其職ヲ辭セシムル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者
亦同シ

第九十九條、人ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第二百四條、人ノ身體ヲ傷害シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金
若クハ科料ニ處ス

第二百二十三條、生命、身體、自由、名譽若クハ財産ニ對シ害ヲ加フヘキコト
ヲ以テ脅迫シ又ハ暴行ヲ用ヒ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フヘキ權
利ヲ防害シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス親族ノ生命、身體、自由、名譽又
ハ財産ニ對シ害ヲ加フヘキコトヲ以テ脅迫シ人ヲシテ義務ナキコトヲ行ハシ
メ又ハ行フヘキ權利ヲ防害シタル者亦同シ

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百三十四條、威力ヲ用ヒ人ノ業務ヲ防害シタル者亦前條ノ例ニ同シ（前條
ノ刑ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金）

第二百六十條、他人ノ建造物又ハ艦船ヲ損壞シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス
因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

暴力行爲等處罰法

一一五

一二、健康保險法 (大正十一年四月二十二日法律第七十號)

第一章 總 則

第一條 健康保險ニ於テハ保險者カ被保險者ノ疾病、負傷、死亡又ハ分娩ニ關シ療養ノ給付又ハ傷病手當金、埋葬料、分娩費若ハ出産手當金ノ支給ヲ爲スモノトス

第二條 本法ニ於テ報酬ト稱スルハ事業ニ使用セララルル者カ勞務ノ對價トシテ事業主ヨリ受クル賃金、給料又ハ俸給及之ニ準スヘキモノヲ謂フ

賃金、給料又ハ俸給ニ準スヘキモノノ範圍及評價ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 報酬ノ額ニ基キ保險料又ハ保險給付ノ額ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬ニ依リ之ヲ算定ス

標準報酬ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ヲ徵收シ又ハ其ノ還付ヲ受クル權利及保險給付ヲ受クル權利ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

前項ノ時効ノ中斷、停止其ノ他ノ事項ニ關シテハ民法ノ時効ニ關スル規定ヲ準

用ス

命令ノ定ムル所ニ依リ保險者ノ爲ス保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ノ徵收ノ告知ハ民法第五百三條ノ規定ニ拘ラス時効中斷ノ效力ヲ有ス

第五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定スル期間ノ計算ニ付テハ民法ノ期間ノ計算ニ關スル規定ヲ準用ス

第六條 健康保險ニ關スル書類ニハ印紙稅ヲ課セス

第七條 保險者又ハ保險給付ヲ受クヘキ者ハ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ戶籍ニ關シ戶籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

第八條 保險者ハ被保險者ヲ使用スル事業主ニ對シ其ノ使用スル者ノ異動、報酬其ノ他健康保險ノ施行ニ必要ナル事項ニ關シ報告ヲ爲サシメ又ハ文書ヲ提示セシムルコトヲ得

第九條 保險官署ハ必要アリト認ムルトキハ當該官吏又ハ吏員ヲシテ保險事故ノ生シタル作業ノ場所ニ臨檢セシムルコトヲ得

第十條 主務大臣ハ本法ニ規定スル其ノ職權ノ一部ヲ命令ヲ以テ保險官署ニ委任スルコトヲ得

第十一條 保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ヲ滯納スル者アル場合ニ於テ保險者ノ請求アルトキハ市町村ハ市町村税ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テ保險者ハ徵收金額ノ百分ノ四ヲ市町村ニ交付スヘシ
前項ノ規定ニ於テ市町村トアルハ市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ之ニ準スヘキモノトス

第一項ニ規定スル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村其ノ他之ニ準スヘキモノノ徵收金ニ次キ他ノ公課ニ先ツモノトス

第十二條 政府ノ事業ニ使用セラルル者ニ關シテハ本法ノ適用ニ付勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得

第二章 被保險者

第十三條 工場法ノ適用ヲ受クル工場又ハ鑛業法ノ適用ヲ受クル事業場若ハ工場ニ使用セラルル者ハ健康保險ノ被保險者トス但シ臨時ニ使用セラルル者ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ及一年ノ報酬千二百圓ヲ超ユル職員ハ此ノ限ニ在ラス
第十四條 前條ニ規定スル工場及事業場ヲ除クノ外左ノ各號ノ一ニ該當スル事業ノ事業主ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ事業及之ニ附屬スル事業ニ使用セラルル者ヲ包括シテ健康保險ノ被保險者ト爲スコトヲ得

一 鑛物ノ探掘又ハ採取ノ事業

二 物ノ製造、加工、選別、包裝修理又ハ解體ノ事業

三 電氣又ハ動力ノ發生、變壓又ハ傳導ノ事業

四 土木工事又ハ工作物ノ建設、保存、修理若ハ破壊ノ工事ニシテ主務大臣ノ指定スルモノ

五 地方鐵道法又ハ軌道法ノ適用ヲ受クル事業

六 前號ニ掲グルモノヲ除クノ外陸上ニ於テ爲ス貨物又ハ旅客ノ運送ノ事業ニシテ主務大臣ノ指定スルモノ

七 貨物積卸ノ事業

八 前各號ニ掲グルモノノ外勅令ヲ以テ指定スル事業

前項ノ認可ヲ申請スルニハ被保險者ト爲ルヘキ者ノ二分ノ一以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

一事業ニ於テ作業ノ場所二以上アル場合ニ於テハ第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ主務大臣ハ其ノ一又ハ二以上ノ場所ニ於ケル作業ヲ一事業ト看做スコトヲ得

第十五條 前條ノ認可アリタルトキハ其ノ事業ニ使用セラルル者ハ健康保險ノ被保險者トス

第十三條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十六條 工場法又ハ鑛業法ノ適用ヲ受クル工場カ其ノ適用ヲ受ケサルニ至リタルトキハ其ノ工場ニ付第十四條ノ認可アリタルモノト看做ス

第十七條 第十三條及第十五條ノ規定ニ依ル被保險者ハ其ノ業務ニ使用セララルニ至リタル日又ハ第十三條但書若ハ第十五條第二項ノ規定ニ該當セサルニ至リタル日ヨリ其ノ資格ヲ取得ス

第十八條 第十三條及第十五條ノ規定ニ依ル被保險者ハ死亡シタル日、其ノ業務ニ使用セラレサルニ至リタル日又ハ第十三條但書若ハ第十五條第二項ノ規定ニ該當スルニ至リタル日ノ翌日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス但シ其ノ事實アリタル日ニ更ニ前條ノ規定ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス

第十九條 第十五條ノ規定ニ依ル被保險者ヲ使用スル事業主ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ被保險者ノ全部ヲシテ其ノ資格ヲ喪失セシムルコトヲ得

前項ノ認可ヲ申請スルニハ被保險者ノ四分ノ三以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス
第一項ノ認可アリタルトキハ被保險者ハ認可アリタル日ノ翌日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス

第二十條 第十八條ノ規定ニ依リ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル者ニシテ喪失ノ日

前一年内ニ於テ百八十日以上被保險者タリシモノ又ハ喪失ノ際引續キ六十日以上被保險者タリシモノハ勅令ノ定ムル期間内ニ申請ヲ爲ストキハ繼續シテ被保險者ト爲ルコトヲ得

第二十一條 前條ノ規定ニ依ル被保險者ハ前條ノ規定ニ依リ被保險者ト爲リタル日ヨリ百八十日ヲ經過シタルトキ、保險料ヲ納付セスシテ命令ヲ以テ定ムル猶豫期間ヲ經過シタルトキ又ハ第十三條若ハ第十五條ノ規定ニ依ル被保險者ト爲リタルトキハ其ノ資格ヲ喪失ス

前條ノ規定ニ依ル被保險者死亡シタル場合ニハ第十八條ノ規定ヲ準用ス

第三章 保險者

第二十二條 健康保險ノ保險者ハ政府及健康保險組合トス

第二十三條 保險者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ被保險者ノ健康ヲ保持スル爲必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 政府ハ健康保險組合ノ組合員ニ非サル被保險者ノ保險ヲ管掌ス

第二十五條 健康保險組合ハ其ノ組合員タル被保險者ノ保險ヲ管掌ス

第二十六條 健康保險組合ハ法人トス

第二十七條 健康保險組合ハ事業主、其ノ事業ニ使用セララル被保險者及第二十

條ノ規定ニ依ル被保險者ヲ以テ之ヲ組織ス

第二十八條 一又ハ二以上ノ事業ニ付被保險者常時三百人以上ヲ使用スル事業主ハ健康保險組合ヲ設立スルコトヲ得

被保險者ヲ使用スル二以上ノ事業主ハ共同シテ健康保險組合ヲ設立スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ被保險者ノ員數ハ合算シテ常時三百人以上タルコトヲ要ス

第二十九條 健康保險組合ヲ設立セムトスルトキハ組合員タル資格ヲ有スル被保險者ノ二分ノ一以上ノ同意ヲ得規約ヲ作り主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

二以上ノ事業ニ付健康保險組合ヲ設立セムトスル場合ニ於テハ前項ノ同意ハ各事業ニ付之ヲ得ルコトヲ要ス

第三十條 前二條ノ規定ニ於テ被保險者トアルハ第十四條第一項ノ規定ニ依ル認可ノ申請ト同時ニ健康保險組合ノ設立認可ノ申請ヲ爲ス場合ニ在リテハ被保險者ト爲ルヘキモノトス

第三十一條 主務大臣ハ一事業ニ付第十三條ノ規定ニ依ル被保險者常時五百人以上ヲ使用スル事業主ニ對シ健康保險組合ノ設立ヲ命スルコトヲ得

第三十二條 前條ノ規定ニ依リ健康保險組合ノ設立ヲ命セラレタル事業主ハ規約ヲ作り設立ニ付主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三十三條 第十四條第三項ノ規定ハ第二十八條、第二十九條及第三十一條ノ規定ノ適用ニ付之ヲ準用ス

第三十四條 健康保險組合ハ設立ノ認可ヲ受ケタル時ニ成立ス

第三十五條 健康保險組合成立シタルトキハ事業主及其ノ事業ニ使用セララル被保險者ハ總テ之ヲ組合員トス

前項ノ被保險者ハ其ノ事業ニ使用セラレサルニ至リタルトキト雖第二十條ノ規定ニ依ル被保險者タルトキハ仍之ヲ組合員トス

第三十六條 健康保險組合ノ規約ノ變更ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第三十七條 主務大臣ハ健康保險組合ニ對シ事實ニ關スル報告ヲ爲サシメ、事業及財産ノ狀況ヲ検査シ、規約ノ變更ヲ命シ其他監督上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第三十八條 健康保險組合ノ役員ニ欠缺若ハ故障アルトキ又ハ組合ノ役員保險給付其ノ他其ノ執行スヘキ職務ヲ執行セサルトキハ主務大臣ハ官吏又ハ其ノ他ノ者ヲ指定シテ其ノ職務ヲ執行セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其ノ職務ノ執行ニ要スル費用ハ健康保險組合ノ負擔トス

第三十九條 主務大臣ハ健康保險組合ノ決議若ハ役員ノ行爲カ法令、主務大臣ノ處分若ハ規約ニ違反シ、組合員ノ利益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキ又ハ組合ノ事業若ハ財産ノ狀況ニ依リ其ノ事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキハ決議ヲ取消シ、役員ヲ解職シ又ハ組合ノ解散ヲ命スルコトヲ得

第四十條 解散ニ因リテ消滅シタル健康保險組合ノ權利義務ハ政府之ヲ承繼ス

第四十一條 本法ニ規定スルモノノ外健康保險組合ノ管理、財産ノ保管及利用方法、分合、解散其ノ他健康保險組合ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十二條 同時ニ二以上ノ業務ニ使用セララルル被保險者ノ保險者ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第四章 保險給付

第四十三條 被保險者ノ疾病又ハ負傷ニ關シテハ療養ノ給付ヲ爲ス前項ノ療養ノ給付ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一項ノ場合ニ於テ療養上必要アリト認ムルトキハ保險者ハ被保險者ヲ病院ニ收容スルコトヲ得

第四十四條 療養ノ給付ヲ爲スコト困難ナル場合又ハ被保險者ノ申請アリタル場合ニ於テハ保險者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ療養ノ給付ニ代ヘテ療養費ヲ支給ス

ルコトヲ得

第四十五條 被保險者療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサルトキハ其ノ期間傷病手当金トシテ一日ニ付報酬日額ノ百分ノ六十ニ相當スル金額ヲ支給ス但シ業務上ノ事由ニ因リ疾病ニ罹リ又ハ負傷シタル場合以外ノ場合ニ於テハ勞務ニ服スルコト能ハサルニ至リタル日ヨリ起算シ第四日ヨリ之ヲ支給ス

第四十六條 病院ニ收容シタル被保險者ニ對シテ支給スヘキ傷病手当金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ減額スルコトヲ得

第四十七條 療養ノ給付及傷病手当金ノ支給ハ同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ニ付百八十日ヲ超エテ之ヲ爲サス

業務上ノ事由ニ因リ疾病ニ罹リ又ハ負傷シタル場合以外ノ場合ニ於テハ療養ノ給付及傷病手当金ノ支給ハ一年內百八十日ヲ超エテ之ヲ爲サス被保險者ハ前二項ノ規定ニ拘ラス傷病手当金ノ支給ヲ受クル期間療養ノ給付ヲ受ク

第四十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ保險者ハ前條ニ規定スル期間ヲ超エテ療養ヲ必要トスル者ニ對シ繼續シテ療養ノ給付ヲ爲スコトヲ得

一 他ノ法令ノ規定ニ依リ事業主ヨリ扶助ヲ受クヘキ者ニ付其ノ事業主ヨリ申請アリタルトキ

二 前號以外ノ場合ニ於テ療養ノ給付ニ要スル費用ノ償還ニ付擔保ヲ提供シ其ノ他確實ナル方法ヲ定メ本人又ハ第三者ヨリ申請アリタルトキ
前項第一號ノ場合ニ於テハ療養ノ給付ニ要シタル費用ニ相當スル金額ハ事業主ヨリ之ヲ徴收ス

第四十九條 被保險者死亡シタルトキハ被保險者ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ埋葬ヲ行フモノニ對シ埋葬料トシテ被保險者ノ報酬日額ノ二十日分ニ相當スル金額ヲ支給ス但シ其ノ金額カ二十圓ニ滿タサルトキハ之ヲ二十圓トス
被保險者死亡シタル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依リ埋葬料ノ支給ヲ受クヘキ者ナキトキハ埋葬ヲ行ヒタル者ニ對シ前項ノ金額ノ範圍内ニ於テ其ノ埋葬ニ要シタル費用ニ相當スル金額ヲ支給ス

第五十條 被保險者分娩シタルトキハ分娩費トシテ二十圓ヲ、出産手當金トシテ分娩ノ前後勅令ヲ以テ定ムル期間一日ニ付報酬日額ノ百分ノ六十二相當スル金額ヲ支給ス

第五十一條 保險者ハ被保險者ヲ産院ニ收容シ又ハ助産ノ手當ヲ爲スコトヲ得
産院ニ收容シ又ハ助産ノ手當ヲ爲シタル被保險者ニ對シテ支給スヘキ分娩費及出産手當金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ減額スルコトヲ得

第五十二條 分娩ニ關スル保險給付ニ付テハ勅令ヲ以テ分娩前一定ノ期間被保險者タリシ者ニ非サレハ之ヲ爲ササルコトヲ定ムルコトヲ得

第五十三條 分娩ノ前後ニ保險者ニ變更アリタル場合ニ於テハ分娩ニ關スル保險給付ニ要スル費用ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ關係アル保險者之ヲ分擔ス

第五十四條 出産手當金ノ支給ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ期間傷病手當金ハ之ヲ支給セス

第五十五條 被保險者ノ資格ヲ喪失シタル際疾病、負傷又ハ分娩ニ關シ保險給付ヲ受クル者ハ被保險者トシテ保險給付ヲ受クルコトヲ得ヘカリシ期間繼續シテ同一保險者ヨリ其ノ給付ヲ受クルコトヲ得

第五十六條 前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受クル者死亡シタルトキ、前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケタル者其ノ給付ヲ受ケサルニ至リタル日後九十日以内ニ死亡シタルトキ又ハ其ノ他ノ被保險者タリシ者被保險者ノ資格ヲ喪失シタル日後九十日以内ニ死亡シタルトキハ被保險者タリシ者ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ埋葬ヲ行フモノハ最後ノ保險者ヨリ埋葬料ノ支給ヲ受クルコトヲ得
前項ノ規定ニ埋リ埋葬料ノ支給ヲ受クル者ナキ場合及前項ノ埋葬料ノ金額ニ付テハ第四十九條ノ規定ヲ準用ス

第五十七條 被保險者タリシ者被保險者ノ資格ヲ喪失シタル日後勅令ヲ以テ定ムル期間内ニ分娩シタルトキハ分娩ニ關シ被保險者トシテ受クルコトヲ得ヘカリシ保險給付ヲ最後ノ保險者ヨリ受クルコトヲ得

第五十八條 疾病ニ罹リ、負傷シ又ハ分娩シタル場合ニ於テ繼續シテ報酬ノ全部又ハ一部ヲ受クルコトヲ得ヘキ者ニ對シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ受クルコトヲ得ヘキ期間傷病手當金又ハ出産手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給セス

第五十九條 前條ニ掲グル者疾病ニ罹リ、負傷シ又ハ分娩シタル場合ニ於テ其ノ受クルコトヲ得ヘカリシ報酬ノ全部又ハ一部ヲ受クルコト能ハサリシトキハ保險者ハ之ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ依リ疾病手當金又ハ出産手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給ス

前項ノ規定ニ依リ保險者ノ支給シタル金額ハ事業主ヨリ之ヲ徵收ス

第六十條 被保險者又ハ被保險者タリシ者自己ノ故意ノ犯罪行爲ニ因リ又ハ故意ニ事故ヲ生セシメタルトキハ保險給付ヲ爲サス

第六十一條 保險者鬪争若ハ泥酔ニ因リ又ハ故意ニ危害豫防ニ關スル業務上ノ監督者ノ指揮ニ從ハサルニ因リ事故ヲ生セシメタルトキハ傷病手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給セサルコトヲ得

第六十二條 保險給付ヲ受クヘキ者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ期間保險給付ヲ爲サス

一 陸海軍ニ徵集又ハ召集セラレタルトキ

二 本法施行區域外ニ在ルトキ

三 感化院其ノ他之ニ準スヘキモノニ入院セシメラレタルトキ

四 監獄、留置場又ハ勞役場ニ拘禁又ハ留置セラレタルトキ

他ノ法令ノ規定ニ依リ國又ハ公共團體ノ負擔ニ於テ病院、病舎又ハ療養所ニ收容セラレタル者ニ對シテハ療養ノ給付ヲ爲サス

前項ニ掲グル者ニ付テハ第四十六條ノ規定ヲ準用ス

第六十三條 保險者ハ正當ノ理由ナクシテ療養ニ關スル指揮ニ從ハサル者ニ對シ之ニ支給スヘキ傷病手當金ノ一部ヲ支給セサルコトヲ得

第六十四條 保險者ハ詐欺其ノ他不正ノ行爲ニ依リ保險給付ヲ受ケ又ハ受ケムトシタル者ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ依リ期間ヲ定メ保險給付ノ全部又ハ一部ヲ爲ササルコトヲ得

第六十五條 保險者ハ必要アリト認ムルトキハ保險給付ヲ受クル者ノ診斷ヲ行フコトヲ得

保險者ハ正當ノ理由ナクシテ前項ノ診斷ヲ拒ミタル者ニ對シ保險給付ノ全部又ハ一部ヲ爲ササルコトヲ得

第六十六條 保險給付ノ支給期日ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十七條 保險者ハ事故カ第三者ノ行爲ニ因リテ生シタル場合ニ於テ保險給付ヲ爲シタルトキハ其ノ給付ノ價額ノ限度ニ於テ被保險者又ハ被保險者タリシ者カ第三者ニ對シテ有スル損害賠償請求ノ權利ヲ取得ス

第六十八條 保險給付ヲ受クル權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ス

第六十九條 保險給付トシテ支給ヲ受ケタル金品ヲ標準トシテ租稅其ノ他ノ公課ヲ課セス

第五章 費用ノ負擔

第七十條 國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ各健康保險組合ノ保險付付ニ要スル費用ノ十分ノ一ヲ負擔ス

前項ノ規定ニ依ル國庫負擔金ノ總額カ被保險者一人ニ付一年平均二圓ノ割合ヲ超ユル場合ニ於テハ各健康保險組合ニ對スル國庫負擔金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ限度ニ至ル迄之ヲ減額スルモノトス

前項ニ規定スル被保險者ノ員數ノ計算ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十一條 保險者ハ健康保險事業ニ要スル費用ニ充ツル爲保險料ヲ徵收ス

保險料ノ算定ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

七十二條 被保險者及被保險者ヲ使用スル事業主ハ各保險料額ノ二分ノ一ヲ負擔ス但シ第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ハ其ノ全額ヲ負擔ス

第七十三條 業務ノ性質上事故多キ事業ニ使用セラルル被保險者又ハ少額ノ報酬ヲ受クル被保險者ニ關スル保險料ニ付テハ勅令ヲ以テ事業主ノ負擔スヘキ割合ヲ增加スルコトヲ得

第七十四條 被保險者ノ負擔スヘキ保險料額ハ一日ニ付報酬日額ノ百分ノ三ヲ超ユルコトヲ得ス但シ第二十條ノ規定ニ依リ被保險者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
前項ニ規定スル制限ヲ超エテ保險料ヲ徵收スルコトヲ要スル場合ニ於テハ其ノ超過部分ハ事業主ノ負擔トス

第七十五條 健康保險組合ハ七十二條若ハ前條ノ規定又ハ第七十三條ニ基キテ發スル勅令ノ規定ニ拘ラス其ノ規約ヲ以テ事業主ノ負擔スヘキ保險料額ノ負擔ノ割合ヲ增加スルコトヲ得

第七十六條 被保險者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ期間保險料ヲ徵收セス

一 傷病手當金又ハ出産手當金ノ支給ヲ受クルトキ
二 第六十二條第一項各號ノ一ニ該當スルトキ
第七十七條 事業主ハ其ノ使用スル被保險者ノ負擔スヘキ保險料ヲ納付スル義務
ヲ負フ但シ第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ノ負擔スル保險料ニ付テハ此ノ限ニ
在ラス

第七十八條 事業主ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ニ依リ納付スヘキ保險料
ヲ被保險者ニ支拂フヘキ報酬ヨリ控除スルコトヲ得

第七十九條 保險料ノ納付期日ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六章 審査ノ請求、訴願及訴訟

第八十條 保險給付ニ關スル決定ニ不服アル者ハ第一次健康保險審査會ニ審査ヲ
請求シ其ノ決定ニ不服アル者ハ第二次健康保險審査會ニ審査ヲ請求シ其ノ決定
ニ不服アル者ハ通常裁判所ニ訴ヲ提起スルコトヲ得

第八十一條 保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ノ賦課又ハ徵收ノ處分ニ不服
アル者ハ其ノ處分ヲ爲シタル保險官署又ハ健康保險組合ヲ監督スル保險官署ニ
訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコ
トヲ得

第八十二條 前條ノ規定ニ依ル訴願ノ提起アリタルトキハ保險官署ハ第二次健康
保險審査會ノ審査ヲ經、主務大臣ハ第三次健康保險審査會ノ審査ヲ經テ裁決ヲ
爲スヘシ

第八十三條 健康保險審査會ノ組織及審査ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ
定ム

第八十四條 第十一條ノ規定ニ依ル處分ニ不服アル者ハ地方長官ニ訴願シ其ノ裁
決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八十五條 健康保險審査會ハ審査ノ爲必要アリト認ムルトキハ證人又ハ鑑定人
ノ訊問其ノ他ノ證據調ヲ爲スコトヲ得

證據調ハ所要ノ事務ヲ取扱フヘキ地ノ區裁判所ニ之ヲ囑託スルコトヲ得
證據調ニ關シテハ民事訴訟法ノ證據調ニ關スル規定ヲ準用ス但シ健康保險審査
會ノ爲ス證據調ニ關シテハ罰金ノ言渡ヲ爲シ又ハ勾引ヲ命スルコトヲ得ス

第八十六條 審査ノ請求、訴ノ提起又ハ訴願若ハ行政訴訟ノ提起ハ處分ノ通知又
ハ決定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スヘシ此ノ場
合ニ於テ審査ノ請求ニ付テハ訴願法第八條第三項ノ規定ヲ、訴ノ提起ニ付テハ
民事訴訟法第六十七條及第七十四條乃至第七十七條ノ規定ヲ準用ス

第七章 罰 則

第八十七條 正當ノ理由ナクシテ第九條ノ規定ニ依ル當該官吏又ハ吏員ノ臨檢ヲ拒ミ若ハ妨ケ又ハ其ノ訊問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚偽ノ答辯ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十八條 第八條ノ規定ニ依ル保險者ノ請求アリタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ報告ヲ爲サス、虚偽ノ報告ヲ爲シ又ハ文書ノ提示ヲ拒ミタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十九條 健康保險組合ノ設立ヲ命セラレタル事業主正當ノ理由ナクシテ主務大臣ノ指定スル期日迄ニ設立ノ認可ヲ申請セサルトキハ其ノ手續ノ遅延シタル期間其ノ負擔スヘキ保険料額ノ二倍ニ相當スル金額以下ノ過料ニ處ス

第九十條 健康保險組合力第三十七條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ又ハ處分ヲ拒ミ若ハ妨ケタルトキハ其ノ役員ヲ百圓以下ノ過料ニ處ス

本法ニ基キテ發スル健康保險組合ニ關スル勅令ニ於テハ組合力之ニ違反シタル場合ニ於テ其ノ役員ヲ百圓以下ノ過料ニ處スル規定ヲ設クルコトヲ得

第九十一條 前二條ノ過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

一三三、健康保險法施行令

(大正十五年六月三十日
勅令第二百四十三號)

第一章 總 則

第一條 健康保險法第二條第一項ノ賃金、給料又ハ俸給ニ準スヘキモノノ範圍ハ

常時又ハ定期ニ受クル給與其ノ他ノ利益トス但シ左ニ掲クルモノヲ除ク

一 三月ヲ超ユル期間毎ニ支給スル賞與又ハ手當

二 通勤手當

三 住居ニ關スル利益又ハ住宅料ニシテ賃金、給料又ハ俸給ノ額ノ決定ニ影響
ナキモノ

四 其ノ他内務大臣ノ指定スルモノ

第二條 賃金、給料又ハ俸給ニ準スヘキモノノ全部又ハ一部カ金錢以外ノ給與其
ノ他ノ利益ナル場合ニ於テハ其ノ價額ハ保險官署ノ定ムル標準價額ニ依リ之ヲ
算定ス

前項ノ標準價格ハ其ノ地方ノ時價ニ依リ之ヲ定ム

健康保險組合ハ第一項ノ規定ニ拘ラス規約ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第三條 健康保險法第三條第一項ノ標準報酬ハ被保險者ノ報酬日額ニ基キ左ノ區
別ニ依リ之ヲ定ム

標準報酬ノ等級	標準報酬日額	報 酬 日 額
第一級	三十錢	三十五錢未滿
第二級	四十錢	三十五錢以上 四十五錢未滿
第三級	五十錢	四十五錢以上 五十五錢未滿
第四級	六十錢	五十五錢以上 六十五錢未滿
第五級	七十錢	六十五錢以上 七十五錢未滿
第六級	八十錢	七十五錢以上 八十五錢未滿
第七級	一圓	八十五錢以上 一圓十五錢未滿
第八級	一圓三十錢	一圓十五錢以上 一圓四十五錢未滿
第九級	一圓六十錢	一圓四十五錢以上 一圓七十五錢未滿

第十級	一圓九十錢	一圓七十五錢以上
第十一級	二圓二十錢	二圓五錢以上
第十二級	二圓五十錢	二圓三十五錢以上
第十三級	二圓八十錢	二圓六十五錢以上
第十四級	三圓十錢	二圓九十五錢以上
第十五級	三圓五十錢	三圓二十五錢以上
第十六級	四圓	三圓七十五錢以上

第四條 標準報酬ハ毎年六月一日ノ現在ニ依リ之ヲ定メ七月一日ヨリ翌年六月三十日迄其ノ效力ヲ有ス但シ被保險者ノ資格ヲ取得シタル際ニ於ケル標準報酬ハ其ノ資格ヲ取得シタル日ノ現在ニ依リ之ヲ定メ其ノ日ヨリ六月三十日迄其ノ效力ヲ有ス
被保險者ノ報酬ニ著シキ増減アリタルトキハ保險者ハ前項ノ規定ニ拘ラス標準報酬ノ變更ヲ爲スヘシ

健康保險法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ニ付テハ第一項ノ規定ニ拘ラス引續キ従前ノ標準報酬ニ依ル健康保險組合ハ第一項ノ規定ニ拘ラス標準報酬ノ決定ニ關シ規約ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第五條 第三條ニ規定スル被保險者ノ報酬日額ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ算定ス

- 一 年ニ依リ報酬ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬決定ノ日ノ現在ニ於ケル年額ノ三百六十分ノ一
- 二 月ニ依リ報酬ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬決定ノ日ノ現在ニ於ケル月額ノ三十分ノ一
- 三 前二號ノ外一定ノ期間ニ依リ報酬ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬決定ノ日ノ現在ニ於ケル其ノ報酬ノ額ヲ其ノ期間ノ日數ヲ以テ除シテ得タル額
- 四 日、時間、稼高又ハ請負ニ依リ報酬ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬決定ノ日前三月間ニ受ケタル額ノ九十分ノ一但シ現ニ使用セララルル事業ニ於テ報酬ヲ受ケタル期間三月ニ滿チサルトキハ其ノ地方ニ於テ同様ノ作業ニ從事シ同様ノ報酬ヲ受クル被保險者ノ報酬ニ付本號ノ規定ニ依リテ算定シタル額

- 五 前四號ノ規定ニ依リ算定シ難キモノニ付テハ標準報酬決定ノ日前一年間ニ於テ受ケタル額ノ三百六十分ノ一但シ現ニ使用セラルル事業ニ於テ報酬ヲ受ケタル期間三百六十日ニ滿チサルトキハ其ノ受ケタル報酬ノ額ヲ其ノ期間ノ日數ヲ以テ除シテ得タル額
 - 六 前各號ノ二以上ニ該當スル報酬ヲ受クル場合ニ於テハ其ノ各ニ付前各號ノ規定ニ依リ算定シタル額ノ合算額
 - 七 同時ニ二以上ノ業務ニ於テ報酬ヲ受クル場合ニ於テハ各業務ニ付前各號ノ規定ニ依リ算定シタル額ノ合算額
- 被保險者ノ報酬日額カ前項ノ規定ニ依リ算定シ難キトキ又ハ前項ノ規定ニ依リテ算定シタル額カ著シク不當ナルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス保險者ニ於テ適當ノ方法ニ依リ之ヲ算定スヘシ
- 保險者カ健康保險組合ナル場合ニ於テハ前項ノ算定方法ハ規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
- 第六條 健康保險法又ハ本令ノ規定ニ依リ事業主カ内務大臣ノ認可ヲ受クヘキ場合ニ於テ政府カ事業主ナルトキハ内務大臣ノ承認ヲ受クヘシ
 - 第七條 政府ノ事業ニ使用セラルル被保險者カ健康保險法ノ規定ニ依リ保險給付

ヲ受クヘキ場合ニ於テ内務大臣ノ指定シタル共濟組合ヨリ其ノ保險給付ニ相當スル給付ヲ受クルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ保險給付ヲ爲サス

前項ノ規定ニ依リ内務大臣ノ指定スル共濟組合ハ左ノ要件ヲ具フルモノニ限ル

- 一 健康保險法ノ規定ニ依ル保險給付ト同種ノ給付ヲ爲スコト
- 二 給付ニ要スル費用ニ付政府カ健康保險法ノ規定ニ依ル國庫及事業主ノ負擔ト同一ノ割合ヲ下ラサル負擔ヲ爲スコト

第八條 前條ノ規定ニ依リ保險給付ノ全部又ハ一部ヲ受ケサル者ニ付テハ保險料ハ其ノ程度ニ應シ之ヲ減額シ又ハ之ヲ徵收セス

第二章 被保險者

第九條 臨時ニ使用セラルル者ノ中左ニ掲クル者ハ健康保險法第十三條但書又ハ第十五條第二項ノ規定ニ依リ被保險者タラサルモノトス但シ第一號ニ該當スル者所定ノ期間ヲ超エテ引續キ使用セラルルニ至リタルトキ又ハ第二號若ハ第三號ニ該當スル者三十日ヲ超エテ引續キ使用セラルルニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

- 一 六十日以内ノ期間ヲ定メテ使用セラルル者
- 二 使用期間ノ定ナク勞務供給契約ニ基キ又ハ試ニ使用セラルル者

健康保險法施行令

健康保險法施行令

一四二

- 三 日日雇入レラルル者
 - 四 前各號ニ掲クルモノノ外内務大臣ノ定ムル者
- 第十條 健康保險法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者タラムトスル申請ハ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル日(繼續シテ保險給付ヲ受クル者ニ在リテハ其ノ給付ヲ受ケサルニ至リタル日)ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ但シ保險者ニ於テ正當ノ事由アリト認ムルトキハ期限經過後ノ申請ト雖之ヲ受理スルコトヲ得

第三章 健康保險組合

第一節 組合ノ設立

- 第十一條 事業主健康保險組合ヲ設立スル爲健康保險法第二十九條ノ同意ヲ求ムル場合ニ於テハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ同條ノ被保險者(健康保險法第三十條ノ場合ニ在リテハ被保險者ト爲ルヘキ者)全部ニ送付スヘシ
- 一 組合員タルヘキ者ノ範圍
 - 二 組合ノ組織ノ概要
 - 三 保險料ノ概要
 - 四 保險給付ノ概要
 - 五 其ノ他事業計畫ノ概要

第十二條 規約ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ

- 一 組合ノ名稱
 - 二 事務所ノ所在地
 - 三 組合ノ設立アル事業ノ名稱及所在地
 - 四 公示ノ方法
 - 五 其ノ他組合ニ關シ重要ナル事項
- 第十三條 組合ハ其ノ名稱中ニ健康保險組合ナル文字ヲ用フヘシ
- 健康保險組合ニ非サルモノハ其ノ名稱中ニ健康保險組合ナル文字ヲ用フルコトヲ得ス
- 第十四條 組合設立ノ際ニ於テ定ムヘキ保險料率及初年度ノ收入支出ノ豫算ハ事業主之ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第十五條 組合設立ノ認可ヲ爲シタルトキハ内務大臣ハ左ノ事項ヲ告示スヘシ
- 一 組合ノ名稱
 - 二 事務所ノ所在地
 - 三 組合ノ設立アル事業ノ名稱及所在地
 - 四 認可ノ年月日

健康保險法施行令

一四三

前項各號ノ事項ニ關スル規約ノ變更ヲ認可シタルトキハ内務大臣ハ其ノ事項ヲ告示スヘシ

第十六條 組合設立ノ認可アリタルトキハ事業主ハ遲滞ナク規約ヲ告示スヘシ規約ノ變更アリタルトキ亦同シ

第十七條 組合設立ノ認可アリタルトキハ事業主ハ遲滞ナク組合會ヲ招集シ組合設立ノ經過、保險料率及初年度ノ收入支出ノ豫算其ノ他重要ナル事項ヲ報告スヘシ

第十八條 組合設立後理事就職ニ至ル迄ハ事業主理事ノ職務ヲ行フ

第二節 組合ノ會議

第十九條 組合ニ組合會ヲ置ク

組合會ハ組合會議員ヲ以テ之ヲ組織ス

第二十條 議員ノ定數ハ十二人以上ノ偶數トシ其ノ半數ハ事業主ニ於テ事業主(若ハ其ノ代理人)其ノ事業ニ使用セラルル者ノ中ニ就キ之ヲ選定シ他ノ半數ハ被保險者タル組合員ニ於テ之ヲ互選ス

第二十一條 議員就職シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ公示スヘシ議員退職又ハ死亡シタルトキ亦同シ

第二十二條 議員ノ選舉ハ無記名投票ニ依リ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

第二十三條 選舉人タル組合員議員ノ選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ

第二十一條ノ公示ノ日ヨリ七日以内ニ之ヲ理事ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ申立アリタルトキハ理事ハ二十日以内ニ之ヲ組合會ノ決定ニ付シ其ノ決定アリタルトキハ遲滞ナク之ヲ公示スヘシ

前項ノ決定ニ不服アル者ハ決定アリタル日ヨリ三十日以内ニ監督官廳ニ訴願スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ健康保險組合ヲ訴願法ノ規定ニ依ル行政廳ト看做ス

議員ハ第二項ノ決定又ハ前項ノ訴願ノ裁決アル迄ハ會議ニ列席シ議事ニ參與スルノ權ヲ失ハス

第二十四條 本條ニ規定スルモノノ外議員ノ定數、資格、任期、選定及選舉ニ關スル事項ハ規約ノ定ムル所ニ依ル

第二十五條 組合會ノ議決スヘキ事項左ノ如シ

- 一 收入支出ノ豫算
- 二 事業報告及決算

健康保險法施行令

- 三 收入支出豫算ヲ以テ定ムルモノノ外新ナル義務ノ負擔又ハ權利ノ拋棄
 - 四 準備金ノ管理方法
 - 五 準備金其ノ他重要ナル財産ノ處分
 - 六 組合債
 - 七 規約ノ變更
 - 八 保險料率
 - 九 訴願訴訟ノ提起及和解
 - 十 其ノ他重要ナル事項
- 第二十六條 組合會ハ組合ノ事務ニ關スル書類ヲ檢閲シ、理事ノ報告ヲ請求シ又ハ事務ノ管理、議決ノ執行及出納ヲ検査スルコトヲ得
- 組合會ハ議員中ヨリ委員ヲ選舉シ前項ノ組合會ノ權限ニ屬スル事項ヲ行ハシムルコトヲ得
- 第二十七條 組合會ハ理事之ヲ招集ス
- 議員定數ノ三分ノ一以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ組合會招集ノ請求ヲ爲シタルトキハ理事ハ七日以内ニ之ヲ招集スヘシ
- 組合會ノ招集ハ會議ノ目的タル事項ヲ示シ急施ヲ要スル場合ヲ除クノ外開會ノ日ヨリ少クトモ三日前ニ之ヲ爲スヘシ

前二項ノ期間ニ付テハ規約ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

組合會開會中急施ヲ要スル事項アルトキハ理事ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得

組合會ハ理事之ヲ開閉ス

第二十八條 組合會ノ議長ハ理事長ヲ以テ之ニ充ツ

理事長故障アルトキハ其ノ代理者議長ノ職務ヲ行フ

決算ノ認定ニ關スル會議ノ議長ハ前二項ノ規定ニ拘ラス理事以外ノ出席議員中ヨリ互選セラレタル者ヲ以テ之ニ充ツ

議長ハ會議ヲ總理シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第二十九條 組合會ハ議員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ第三十二條ノ除斥ノ爲半數ニ滿チサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十條 組合會ノ議事ハ出席議員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第三十一條 規約變更ノ議事ハ議員定數ノ四分ノ三以上ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス

第三十二條 議長及議員ハ其ノ一身上ニ關スル事項ニ付テハ其ノ議事ニ參與スル

コトヲ得ス但シ組合會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得
第三十三條 議員ハ自ラ會議ニ出席シ表決ヲ爲スヘシ但シ會議ニ出席スルコト能
ハサル議員ハ規約ノ定ムル所ニ依リ豫メ書面ヲ以テ出席議員ニ委任シテ表決ヲ
爲スコトヲ妨ケス此ノ場合ニ於テハ之ヲ會議ニ出席シタルモノト看做ス
第三十四條 組合員ハ規約ニ定ムル特別ノ場合ヲ除クノ外組合會ノ會議ヲ傍聽ス
ルコトヲ得

第三十五條 議員ハ其ノ職務ノ爲要スル旅費ノ支給ヲ組合ヨリ受クルコトヲ得
被保險者タル議員其ノ職務ヲ行フニ因リ平常ノ業務ニ對スル報酬ヲ受クルコト
ヲ得サル場合ニ於テハ其ノ補償ヲ組合ヨリ受クルコトヲ得
第一項ノ旅費及前項ノ補償ノ額及支給方法ハ規約ノ定ムル所ニ依ル

第三節 組合ノ役員

第三十六條 組合ニ理事ヲ置ク

理事ノ定數ハ四人以上ノ偶數トシ其ノ半數ハ事業主ノ選定シタル議員ニ於テ、
他ノ半數ハ被保險者タル組合員ノ互選シタル議員ニ於テ之ヲ互選ス
理事ノ中一人ヲ理事長トシ事業主ノ選定シタル議員タル理事中ニ就キ理事之ヲ
選舉ス

第三十七條 理事長ハ組合ヲ代表ス

理事長故障アルトキハ規約ノ定ムル所ニ依リ他ノ理事其ノ職務ヲ代理ス

第三十八條 組合ノ事務ハ理事ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ理事
長ノ決スル所ニ依ル

第三十九條 組合會成立セス又ハ其ノ議決スヘキ事項ヲ議決セサルトキハ理事ハ
監督官廳ノ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スヘキ事項ヲ處置スルコトヲ得

第四十條 組合會ニ於テ議決スヘキ事項ニ關シ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ組合
會成立セサルトキ又ハ之ヲ招集スルノ暇ナキトキハ理事之ヲ專決スルコトヲ得
第四十一條 前二條ノ規定ニ依リ處置ヲ爲シタルトキハ理事ハ次回ノ會議ニ於テ
之ヲ組合會ニ報告スヘシ

第四十二條 理事ハ規約、財産目錄、事業報告書、組合原簿及組合會ノ會議録ヲ
事務所ニ備フヘシ

組合員組合ノ書類ノ閱覽ヲ求メタルトキハ理事ハ正當ノ事由アルニ非サレハ之
ヲ拒ムコトヲ得ス

第四十三條 第二十一條、第二十四條及第三十五條ノ規定ハ理事及理事長ニ之ヲ
準用ス

第四節 組合ノ財務

第四十四條 組合ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

第四十五條 組合ハ毎會計年度收入支出ノ豫算ヲ調製シ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ豫算ヲ更正又ハ追加シタルトキ亦同シ

豫算ニ定メタル各款ノ金額ハ彼此流用スルコトヲ得ス

豫算ニ定メタル各項ノ金額ハ組合會ノ議決ヲ經テ之ヲ流用スルコトヲ得

第四十六條 組合ハ組合會ノ議決ヲ經テ繼續費ヲ設クルコトヲ得

第四十七條 組合ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クヘシ

豫備費ハ規約ヲ以テ定メタル費途以外ノ費途ニ之ヲ充ツルコトヲ得ス

第四十八條 組合ニ於テ其ノ收入金ヲ收納スルハ翌年度五月三十一日、其ノ支出金ヲ支拂フハ翌年度四月十五日限リトシ其ノ出納ヲ閉鎖ス

第四十九條 組合ハ保險料率ヲ變更セムトスルトキハ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五十條 組合ハ少クトモ保險給付ニ要シタル費用ノ前三年度ノ平均年額ニ相當スル額ニ達スル迄毎年度ノ剩餘金中ヨリ該平均年額ノ百分ノ五以上ニ相當スル額(剩餘金カ該平均年額ノ百分ノ五ニ達セサルトキハ其ノ金額)ヲ準備金トシテ積立ツヘシ

前項ノ限度内ノ準備金ハ保險給付ニ要スル費用ニ不足ヲ生シタルトキニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第五十一條 組合ハ準備金ノ管理方法ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五十二條 準備金以外ノ財産ノ管理方法ハ規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第五十三條 組合ハ支拂上現金ニ不足ヲ生シタルトキハ準備金ニ屬スル現金ヲ繰替使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ仍現金ニ不足アルトキハ一時借入金ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ繰替使用シタル金額及一時借入金ハ當該會計年度内ニ之ヲ返還スヘシ

第二項ノ一時借入金ヲ爲シ得ヘキ限度ハ毎年監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五十四條 組合ハ組合債ヲ起シ、起債ノ方法、利息ノ定率若ハ償還ノ方法ヲ定メ又ハ之ヲ變更セムトスルトキハ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五十五條 組合ハ重要ナル財産ノ處分ヲ爲サムトスルトキハ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五節 組合ノ分合解散

第五十六條 組合合併又ハ分割ヲ爲サムトスルトキハ關係アル組合ノ組合會ニ於

シ
テ議員定數ノ四分ノ三以上ノ多數ヲ以テ之ヲ議決シ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ規約ノ變更ヲ要スルトキハ前項ノ議決ト共ニ之ヲ議決スヘシ
第五十七條 組合ノ分割ハ組合ノ設立アル事業ノ一部ニ付之ヲ爲スコトヲ得ス

一事業ニ於テ作業ノ場所二以上アル場合ニ於テハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ内務大臣ハ其ノ一又ハ二以上ノ場所ニ於ケル作業ヲ一事業ト看做スコトヲ得

第五十八條 分割ヲ爲ス場合ニ於テハ分割後存続スル組合又ハ分割ニ因リテ成立スル組合ノ被保險者タル組合員ノ員數ハ常時三百人以上タルヘキコトヲ要ス

第五十九條 合併ニ因リテ成立スル組合ノ規約、保險料率及初年度ノ收入支出ノ豫算ハ各組合ニ於テ選任シタル者共同シテ之ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六十條 分割ニ因リテ成立スル組合ノ規約、保險料率及初年度ノ收入支出ノ豫算ハ其ノ組合ノ組合員タルヘキ事業主之ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六十一條 合併後存続スル組合又ハ合併ニ因リテ成立シタル組合ハ合併ニ因リテ消滅シタル組合ノ權利義務ヲ承繼ス

分割ニ因リテ成立シタル組合ハ分割ニ因リテ消滅シタル組合又ハ分割後存続スル組合ノ權利義務ノ一部ヲ承繼ス

前項ノ規定ニ依リ承繼スル權利義務ノ限度ハ分割ノ議決ト共ニ之ヲ議決シ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六十二條 組合ノ合併又ハ分割ノ認可ヲ爲シタルトキハ内務大臣ハ合併又ハ分割ニ因リテ成立又ハ消滅シタル組合及合併又ハ分割後存続スル組合ニ付左ノ事項ヲ告示スヘシ

- 一 組合ノ名稱
- 二 事務所ノ所在地
- 三 組合ノ設立アル事業ノ名稱及所在地
- 四 認可ノ年月日

第六十三條 第十六條乃至第十八條ノ規定ハ合併又ハ分割ニ因リテ成立シタル組合ニ付之ヲ準用ス

合併又ハ分割ノ際其ノ合併又ハ分割シタル組合ノ理事タリシ者カ合併又ハ分割ニ因リテ成立シタル組合ノ組合員タル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依リ事業主ノ行フヘキ職務ハ其ノ理事タリシ者之ヲ行フ

第六十四條 組合解散ヲ爲サムトスルトキハ組合會ニ於テ議員定數ノ四分ノ三以上ノ多數ヲ以テ之ヲ議決シ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

健康保險法施行令

一五四

第六十五條 組合ハ被保險者タル組合員ナキニ至ルモ其ノ欠缺カ一時的ノ場合ニ於テハ解散スルコトナシ

第六十六條 組合解散シタルトキハ内務大臣ハ第六十二條ノ例ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第六十七條 組合ノ設立アル事業ヲ増減セムトスルトキハ編入又ハ削除セラルヘキ事業ノ事業主ノ全部及其ノ事業ニ使用セラルル被保險者ノ二分ノ一以上ノ同意アルコトヲ要ス

編入又ハ削除セラルヘキ事業ニ以上アル場合ニ於テハ前項ノ被保險者ノ同意ハ各事業ニ付之ヲ得ルコトヲ要ス

前二項ノ規定ニ於テ被保險者トアルハ健康保險法第十四條第一項ノ規定ニ依ル認可ノ申請ト同時ニ事業編入ニ關スル規約變更ノ認可ノ申請ヲ爲ス場合ニ在リテハ被保險者ト爲ルヘキ者トス

第六十八條 第五十七條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十九條 事業ノ削除ヲ爲ス場合ニ於テハ削除後ニ於テモ組合ノ被保險者タル組合員ノ員數ハ常時三百人以上タルヘキコトヲ要ス

第七十條 組合力第六十七條ノ同意ヲ求メムトスルトキハ事業ノ編入ノ場合ニ在

リテハ第十一條各號ニ掲グル事項ヲ記載シタル書面ヲ、事業ノ削除ノ場合ニ在リテハ削除ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ編入又ハ削除ニ因リ組合員タル資格ヲ取得又ハ喪失スヘキ者ノ全部ニ送附スヘシ

第六節 組合ノ監督

第七十一條 内務大臣ハ組合會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

組合會解散ノ場合ニ於テハ一月以内ニ議員ノ選定及選舉ヲ爲スヘシ

七十二條 健康保險法第三十九條ノ規定ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間組合ノ役員タルコトヲ得ス

第七十三條 第二十三條第三項、第三十九條、第四十五條第一項、第四十九條、第五十一條、第五十三條第四項、第五十四條及第五十五條ニ於テ監督官廳トアルハ社會局長官トス

第四章 保險給付

第七十四條 健康保險法第四十三條第一項ノ療養ノ給付ノ範圍左ノ如シ

一 診察

二 藥劑又ハ治療材料ノ支給

三 處置、手術其ノ他ノ治療

健康保險法施行令

一五五

四 看護

五 被保險者ノ移送

前項第三號ノ給付ハ緊急ノ場合其ノ他保險者必要アリト認ムル場合ヲ除クノ外之ニ要スル費用一回二十圓ヲ以テ限度トス

第一項第四號及第五號ノ給付ハ保險者必要アリト認ムル場合ニ於テ爲スモノニ限ル

第七十五條 前條第一項第一號乃至第三號ノ給付ニ付テハ被保險者ハ保險者ノ指定シタル醫師又ハ歯科醫師中自己ノ選定シタル者ニ就キ之ヲ受クルコトヲ得但シ健康保險法第四十三條第三項ノ規定ニ依リ病院ニ收容セラレタルトキハ此ノ限ニ在ラス

被保險者前項ノ規定ニ依リ醫師又ハ歯科醫師ヲ選定シタルトキハ保險者ノ承認アリタル場合ヲ除クノ外同一ノ疾病又ハ負傷ノ療養ニ付テハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

保險ハ者正當ノ事由アルニ非サレハ前項ノ承認ヲ拒ムコトヲ得ス

第七十六條 前條ニ規定スル醫師又ハ歯科醫師處方箋ヲ交付シタルトキハ被保險者ハ保險者ノ指定シタル藥劑師中自己ノ選定シタル者ニ就キ藥劑ヲ受クルコト

ヲ得

第七十七條 左ノ場合ニ於テハ健康保險法第四十四條ノ規定ニ依リ療養ノ給付ニ

代ヘテ療養費ヲ支給スルコトヲ得

一 保險者ニ於テ療養ノ給付ヲ爲スコト困難ナリト認メタルトキ

二 被保險者カ保險者ノ承認ヲ受ケ其ノ指定セサル醫師又ハ歯科醫師ノ診療ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ被保險者ノ申請アリタルトキ

三 被保險者カ緊急ノ場合ニ於テ保險者ノ指定セサル醫師、歯科醫師其ノ他ノ者ノ手當ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ被保險者ノ申請アリタルトキ

健康保險組合ハ前項各號ノ外規約ヲ以テ療養ノ給付ニ代ヘテ療養費ヲ支給スルコトヲ得ル場合ヲ定ムルコトヲ得

第七十八條 前條ノ規定ニ依リ支給スル療養費ノ額ハ療養ノ給付ヲ爲ス場合ニ要スル額ヲ標準トシテ保險者之ヲ定ム

第七十九條 病院ニ收容シタル被保險者ニ對シ支給スヘキ傷病手當金ハ左ノ額トス

一 主トシテ被保險者ニ依リ生計ヲ維持スル者ナキ場合

標準報酬日額ノ百分ノ二十

- 二 前號ニ掲クル者二人以内ナル場合 標準報酬日額ノ百分ノ四十
 - 三 第一號ニ掲クル者三人以上ナル場合 標準報酬日額ノ百分ノ六十
- 第八十條 出產手當金ハ被保險者カ分娩ノ日前二十八日、分娩ノ日以後四十二日以内ニ於テ勞務ニ服セサリシ期間之ヲ支給ス
- 分娩ノ日カ其ノ豫定日ヨリ後レタルトキハ保險者ハ前項ノ分娩ノ日前ノ期間ヲ七日以内延長スルコトヲ得
- 第八十一條 産院ニ收容シ又ハ助産ノ手當ヲ爲シタル被保險者ニ對シ支給スヘキ分娩費ノ額ハ十圓トス
- 産院ニ收容シタル被保險者ニ對シ支給スル出產手當金ニ付テハ第七十九條ノ規定ヲ準用ス
- 第八十二條 分娩ニ關スル保險給付ハ分娩前一年内ニ於テ百八十日以上被保險者タリシ者ニ非サレハ之ヲ爲サス但シ九十日以上被保險者タリシ者ニ對シテハ分娩費ヲ支給シ又ハ助産ノ手當ヲ爲ス
- 第八十三條 分娩ノ前後ニ保險者ニ變更アリタル場合ニ於テ各保險者ノ分娩ニ關スル保險給付ニ要スル費用ノ分擔額ハ其ノ給付ヲ受クル者カ分娩ノ豫定日前二百八十日目ヨリ分娩ノ日以後四十二日迄ノ期間ニ於テ被保險者タリシ期間ノ割

合ニ應シテ之ヲ算定ス

- 第八十四條 被保險者タリシ者分娩ニ關スル保險給付ヲ受クルニハ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル日以後百八十日以内ニ分娩シタルコトヲ要ス
- 第八十五條 疾病ニ罹リ、負傷シ又ハ分娩シタル場合ニ於テ繼續シテ報酬ノ全部又ハ一部ヲ受クルコトヲ得ヘキ者ニ對シテハ之ヲ受クルコトヲ得ヘキ期間傷病手當金又ハ出產手當金ヲ支給セス但シ其ノ受クルコトヲ得ヘキ報酬ノ額カ傷病手當金又ハ出產手當金ノ額ヨリ小ナルトキハ其ノ差額ヲ支給ス
- 第八十六條 前條ニ掲クル者其ノ受クルコトヲ得ヘカリシ報酬ノ全部又ハ一部ニ付其ノ全額ヲ受クルコト能ハサリシトキハ傷病手當金又ハ出產手當金ノ全額、其ノ一部ヲ受クルコト能ハサリシ場合ニ於テ受ケタル額カ傷病手當金又ハ出產手當金ノ額ヨリ小ナルトキハ其ノ額ト傷病手當金又ハ出產手當金トノ差額ヲ支給ス但シ前條但書ノ規定ニ依リ傷病手當金又ハ出產手當金ノ一部ヲ受ケタルトキハ其ノ額ヲ支給額ヨリ控除ス
- 第八十七條 健康保險法第六十二條第二項ニ掲クル者ニ對シ支給スヘキ傷病手當金ニ付テハ第七十九條ノ規定ヲ準用ス
- 第八十八條 詐欺其ノ他不正ノ行爲ニ依リ保險給付ヲ受ケ又ハ受ケムトシタル者

ニ對シテハ保險者ハ百八十日以内ノ期間ヲ定メ其ノ者ニ支給スヘキ傷病手當金又ハ出産手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給セサル旨ノ決定ヲ爲スコトヲ得但シ詐欺其ノ他不正ノ行爲アリタル日ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス前項ノ決定ハ保險者ニ於テ其ノ事實ヲ知リタルトキ遲滞ナク之ヲ爲シ本人ニ通知スヘシ

被保險者業務上ノ事由ニ因リ疾病ニ罹リ又ハ負傷シタル場合ニ於テハ第一項ノ規定ニ拘ラス傷病手當金ヲ支給ス

前項ノ給付ヲ爲シタル期間ハ第一項ノ百八十日ノ期間ノ計算ニ付テハ之ヲ算入セス

第八十九條 傷病手當金及出産手當金ハ少クトモ毎月二回一定ノ期日ニ之ヲ支給スヘシ但シ毎月一回報酬ノ支拂ヲ受クル被保險者ニ付テハ毎月一回其ノ報酬支拂ノ日ニ於テ之ヲ支給スルコトヲ得

療養費、埋葬料及分娩費ハ其ノ都度之ヲ支給スヘシ健康保險法第四十九條第二項又ハ第五十六條第二項ノ埋葬費ニ付亦同シ

第五章 費用ノ負擔

第九十條 健康保險組合ニ對シ交付スル國庫負擔金ニ付テハ概算拂ヲ爲スコトヲ

得

前項ノ概算拂ニ關シ必要ナル事項ハ内務大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ムヘシ
第九十一條 健康保險法第七十條第一項ノ規定ニ依ル國庫負擔金算定ノ基礎タル保險給付ニ要スル費用ノ額ハ療養ノ給付、産院收容及助産ノ手當ニ直接要シタル金額並傷病手當金、出産手當金、分娩費、埋葬料、療養費及健康保險法第四十九條第二項又ハ第五十六條第二項ノ埋葬費ノ支給額ノ合算額トシ毎年度之ヲ計算ス但シ同法第四十八條ノ規定ニ依ル療養ノ給付ニ直接要シタル金額及同法第五十九條第一項ノ規定ニ依ル傷病手當金又ハ出産手當金ノ支給額ハ之ヲ算入セス

前項ノ療養ノ給付、産院收容又ハ助産ノ手當ニ要シタル器具、機械、建築物其ノ他ノ施設ニシテ其ノ效用二年以上ニ亘ルモノニ付テハ之ニ要シタル費用ヲ其ノ施設ノ豫定使用年數ニ應シ各年均等ニ分割シテ之ヲ計算ス

第九十二條 健康保險法第七十條第二項ニ規定スル被保險者ノ員數ハ其ノ年度内ノ各月末ニ於ケル被保險者ノ總數ノ平均數トス

第九十三條 健康保險組合ニ對スル國庫負擔金ノ總額カ被保險者一人ニ付一年平均二圓ノ割合ヲ超ユル場合ニ於テ各健康保險組合ニ對スル國庫負擔金ノ額ハ健

康保險法第七十條第二項ノ國庫負擔金ノ總額ノ限度ニ於テ各健康保險組合ノ保險給付ニ要スル費用ノ額ニ應シ内務大臣之ヲ定ム

第九十四條 保險料額ハ一日ニ付各被保險者ノ標準報酬日額ニ保險料率ヲ乘シテ得タル額トス

第九十五條 保險料率ハ保險者之ヲ定ム

保險料率ハ各被保險者ニ付同一ナルコトヲ要ス但シ性質上事故多キ業務ニ使用セララル被保險者ニ付テハ其ノ業務ノ種類ニ從ヒ異ナル保險料率ヲ定ムルコトヲ得

第九十六條 性質上事故多キ業務ニ使用セララル被保險者ニ關スル保險料ニ付テハ内務大臣ハ事業主ノ負擔スヘキ割合ヲ保險料額ノ三分ノ二迄増加スルコトヲ得

第九十七條 第五條ノ規定ニ依リ算定シタル報酬日額五十五錢未満ノ報酬ヲ受ケル被保險者ニ關スル保險料ニ付テハ事業主ノ負擔額ハ報酬日額五十五錢以上六十五錢未満ノ報酬ヲ受ケル被保險者ニ關スル保險料ニ付事業主ノ負擔スヘキ額ト同額トス但シ其ノ額カ保險料ノ全額ヲ超過スル場合ニ於テハ事業主ノ負擔額ハ保險料ノ全額トス

第九十八條 事業主ハ被保險者ニ對シ金錢ヲ以テ報酬ヲ支拂フ場合ニ於テハ被保險者ノ負擔スヘキ前月分ノ保險料ヲ報酬ヨリ控除スルコトヲ得

事業主ハ被保險者カ其ノ事業ニ使用セラレサルニ至リタルトキニ限り前項ノ規定ニ拘ラス報酬支拂ノ際ニ於テ被保險者ノ負擔スヘキ前月分及其ノ月分ノ保險料ヲ控除スルコトヲ得

第九十九條 事業主ハ保險料ノ控除ニ關スル計算書ヲ作製シ被保險者ノ請求ニ應シテ閲覧セシムヘシ

第一百條 毎月ノ保險料ハ翌月末日迄ニ之ヲ納付スヘシ

第一百一條 健康保險組合ハ第九十八條又ハ前條ノ規定ニ拘ラス規約ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第六章 審査ノ請求及訴願

第一節 健康保險審査會ノ組織

第一百二條 健康保險審査會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ健康保險法第八十條及第八十二條ノ審査ヲ爲ス

第一百三條 健康保險審査會ハ第一次健康保險審査會、第二次健康保險審査會及第三次健康保險審査會トス

健康保險法施行令

健康保險法施行令

一六四

健康保險審査會ノ名稱、位置及管轄區域ハ内務大臣之ヲ定ム

第一百四條 健康保險審査會ハ會長及委員ヲ以テ之ヲ組織ス

第一百五條 第一次健康保險審査會ノ會長ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ第百六條第一項

第一號ノ委員中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第二次健康保險審査會ノ會長ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内務部内ノ高等官中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第三次健康保險審査會ノ會長ハ社會局長官ヲ以テ之ニ完ツ

第百六條 第一次健康保險審査會ノ委員ハ左ニ掲クル者ヲ以テ之ニ充ツ

一 官吏、公吏又ハ學識經驗アル者 二人又ハ三人

二 被保險者ヲ使用スル事業主 二人又ハ三人

三 被保險者 二人又ハ三人

第二次健康保險審査會ノ委員ハ左ニ掲クル者ヲ以テ之ニ充ツ

一 官吏、公吏又ハ學識經驗アル者 三人

二 被保險者ヲ使用スル事業主 三人

三 被保險者 三人

第三次健康保險審査會ノ委員ハ左ニ掲クル者ヲ以テ之ニ充ツ

一 官吏、公吏又ハ學識經驗アル者 五人

二 被保險者ヲ使用スル事業主 五人

三 被保險者 五人

第一項ノ委員ニ付テハ同項各號ニ該當スル者各同數タルコトヲ要ス

第七條 健康保險署ノ職員ハ健康保險審査會ノ委員タルコトヲ得ス

健康保險審査會ノ委員ハ他ノ健康保險審査會ノ委員ヲ兼ヌルコトヲ得ス

第八條 第一次健康保險審査會ノ委員ハ内務大臣之ヲ命シ第二次健康保險審査

會及第三次健康保險審査會ノ委員ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第九條 委員ノ任期ハ官吏又ハ公吏トシテ委員タル者ヲ除クノ外三年トス但シ

特別ノ事由アル場合ニ於テハ任期中之ヲ解任スルコトヲ妨ケス

第十條 會長ハ會務ヲ總理シ會議ノ議長ト爲ル

會長事故アルトキハ會長ノ指名シタル委員其ノ職務ヲ代理ス

第十一條 健康保險審査會ニ幹事ヲ置ク

第一次健康保險審査會ノ幹事ハ健康保險署ノ職員中ヨリ内務大臣之ヲ命シ第二

次健康保險審査會及第三次健康保險審査會ノ幹事ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内務

部内ノ高等官中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス

健康保險法施行令

一六五

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第一百十二條 健康保險審査會ニ書記ヲ置ク

第一次健康保險審査會ノ書記ハ健康保險署ノ判任官中ヨリ、第二次健康保險審査會及第三次健康保險審査會ノ書記ハ社會局ノ判任官中ヨリ内務大臣之ヲ命ス
書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第二節 健康保險審査會ノ審査手續

第一百三十三條 審査ハ保險給付ニ關スル決定又ハ保險料其ノ他健康保險法ノ規定ニ依ル徵收金ノ賦課若ハ徵收ノ處分ヲ爲シタル健康保險署又ハ健康保險組合ノ事務所ノ所在地ヲ管轄スル健康保險審査會ニ於テ之ヲ爲ス

第一百四十四條 審査ハ委員定數ノ半數以上出席シ且第六條第一項乃至第三項各號ノ委員各一人以上出席スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ同一ノ事件ニ付招集再回ニ及フ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第一百五十五條 審査ハ出席委員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第一百十六條 審査ハ文書ニ就キ之ヲ爲ス但シ必要アリト認ムルトキハ口頭審問ヲ爲スコトヲ妨ケス

前項但書ノ規定ニ依リ口頭審問ヲ爲ス爲出頭ヲ命セラレタル場合ニ於テ已ムコトヲ得サル事故ノ爲出頭スルコトヲ得サルトキハ當事者ハ其ノ法定代理人、親族又ハ同居者ヲシテ代リテ出頭セシムルコトヲ得

口頭審問ノ爲出頭シタル當事者及之ニ代リテ出頭シタル者ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ旅費ヲ給スルコトヲ得

第一百十七條 審査ノ請求アリタル場合ニ於テ其ノ事件カ審査ノ請求ヲ爲スヘカラサルモノナルトキ又ハ審査ノ請求カ適法ノ手續ニ違反シタルモノナルトキハ健康保險審査會ハ決定ヲ以テ之ヲ却下スヘシ

審査ノ請求アリタル場合ニ於テ其ノ事件カ管轄違ナルトキハ之ヲ所轄健康保險審査會ニ移送スヘシ

審査ノ請求ニシテ手續ノ方式ニ欠缺アルモノハ健康保險審査會之ヲ補正セシムヘシ

第一百十八條 審査ハ之ヲ公開セス但シ口頭審問ハ之ヲ公開ス

口頭審問ヲ爲ス場合ニ於テ議長必要アリト認ムルトキハ前項但書ノ規定ニ拘ラズ傍聽ヲ制限又ハ禁止スルコトヲ得

第一百十九條 保險官署ノ職員其ノ他關係官吏ハ健康保險審査會ノ請求ニ依リ又ハ

健康保險法施行令

一六八

其ノ承認ヲ受ケ會議ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得
第二百十條 事件ノ一部カ審査ノ決定ヲ爲スニ熟スルトキハ其ノ部分ニ付先ツ決定ヲ爲スコトヲ得

第二百十一條 審査ノ決定ハ理由ヲ附シ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二百十二條 審査請求人審査ノ決定前ニ死亡シタルトキハ其ノ承繼人ニ於テ審査請求手續ヲ受繼クモノトス

第二百十三條 本節ニ規定スルモノノ外審査ニ關シ必要ナル事項ハ内務大臣之ヲ定ム

第三節 雜則

第二百十四條 健康保險法第八十一條ニ於テ保險官署又ハ健康保險組合ヲ監督スル保險官署トアルハ社會局長官トス

第二百十五條 健康保險法第八十一條ノ規定ニ依ル訴訟ニ關シテハ健康保險組合ヲ訴訟法ノ規定ニ依ル行政廳ト看做ス

附 則

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ保險給付及費用ノ負擔ニ關スル規定ハ大正十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際ニ限リ第四條第一項但書中資格ヲ取得シタル日ノ現在トアルハ大正十五年十一月一日ノ現在トス但シ大正十五年十一月二日以後ニ於テ被保險者ノ資格ヲ取得シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

政府ノ事業ニ使用セラルル官吏又ハ待遇官吏ニ付テハ當分ノ内内務大臣ハ之ヲ健康保險ノ被保險者ト爲ササルコトヲ得

一四、健康保險法施行規則

(大正十五年七月一日)
(內務省令第三十六號)

第一章 總 則

第一條 政府ノ管掌スル保險ハ健康保險法第十三條又ハ同法第十五條ノ規定ニ依ル被保險者ニ付テハ其ノ被保險者ノ使用セラルル工場又ハ事業場ノ所在地ヲ管轄スル健康保險署ニ於テ、同法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ニ付テハ其ノ被保險者ノ住所地ヲ管轄スル健康保險署ニ於テ之ヲ掌ル

第二條 被保險者同時ニ二以上ノ業務ニ使用セラルル場合ニ於テ保險者二以上アルトキ又ハ其ノ使用セラルル工場若ハ事業場ノ所在地カ異リタル健康保險署ノ管轄區域ニ屬スルトキハ被保險者ハ其ノ屬スヘキ健康保險署又ハ健康保險組合ヲ定メ其ノ旨ヲ其ノ健康保險署長又ハ健康保險組合ニ届出ツヘシ
健康保險署長又ハ健康保險組合前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ關係アル健康保險署長又ハ健康保險組合ニ之ヲ通知スヘシ

第三條 事業主ハ毎年六月一日現在ニ依リ被保險者ノ報酬日額算定ノ基礎ヲ様式第一號ニ依リ同月十日迄ニ健康保險署長又ハ健康保險組合ニ届出ツヘシ

第四條 被保險者ノ報酬ニ著シキ増減アリタルトキハ事業主ハ様式第一號ニ準シ遲滞ナク其ノ旨ヲ健康保險署長又ハ健康保險組合ニ届出ツヘシ

第五條 前二條、第十條第一項又ハ第十一條ノ規定ニ依ル届出アリタルトキハ健康保險署長又ハ健康保險組合ハ被保險者ノ標準報酬ヲ決定シ遲滞ナク之ヲ事業主ニ通知スヘシ標準報酬ヲ變更シタルトキ亦同シ

事業主前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク之ヲ被保險者ニ告知スヘシ

第六條 保險官署ノ官吏又ハ吏員保險事故ノ生シタル作業ノ場所ニ臨檢スル場合ニ於テハ様式第二號ニ依ル臨檢證ヲ携帯スヘシ

第七條 健康保險法施行令第九十九條ノ規定ニ依ル保險料ノ控除ニ關スル計算書ハ様式第三號ニ依リ作製シ工場又ハ事業場毎ニ之ヲ備フヘシ

第八條 事業主ハ保險ニ關スル書類ヲ其ノ完結ノ日ヨリ十二年間保存スヘシ

第九條 保險者ニ於テ被保險者ノ健康ヲ保持スル爲ニ爲スコトヲ得ル施設左ノ如シ

- 一 保險ニ關スル宣傳
 - 二 傷病ノ豫防ニ關スル施設
 - 三 健康診斷ニ關スル施設
- 健康保險法施行規則

四 保養ニ關スル施設

第二章 被保險者

第十條 被保險者ノ資格ヲ取得シタル者アルトキハ事業主ハ様式第四號ニ依リ五日以内ニ之ヲ健康保險署長又ハ健康保險組合ニ届出ツヘシ

被保險者ノ資格ヲ喪失シタル者アルトキハ事業主ハ様式第五號ニ依リ五日以内ニ之ヲ健康保險署長又ハ健康保險組合ニ届出ツヘシ

第十一條 健康保險法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者カ同法第十三條若ハ同法第十五條ノ規定ニ依ル被保險者ト爲リタルトキハ事業主ハ様式第四號ニ準シ五日以内ニ之ヲ健康保險署長又ハ健康保險組合ニ届出ツヘシ

第十二條 被保險者同時ニ二以上ノ業務ニ使用セラルトキハ其ノ各業務ニ付左ニ掲クル事項ヲ健康保險署長又ハ健康保險組合ニ届出ツヘシ

一 事業主ノ氏名及住所

二 工場又ハ事業場ノ名稱及所在地

第十三條 健康保險法第十四條第一項ノ認可申請書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載シ同條第二項ノ規定ニ依ル同意アリタルコトヲ認ムルニ足ル書類ヲ添附スヘシ

一 事業ノ名稱及種類

二 工場又ハ事業場ノ名稱、所在地及種類

三 被保險者ト爲ルヘキ者ノ員數

健康保險法第十四條第一項ノ認可ノ申請ト同時ニ其ノ事業ニ付健康保險組合ノ設立又ハ事業ノ編入ニ關スル規約變更ノ認可申請アル場合ニ於テハ前項ノ申請書ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第十四條 健康保險法第十九條第一項ノ認可申請書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載シ

同條第二項ノ規定ニ依ル同意アリタルコトヲ認ムルニ足ル書類ヲ添附スヘシ

一 事業ノ名稱及種類

二 工場又ハ事業場ノ名稱、所在地及種類

三 被保險者ノ員數

四 組合ノ設立アル場合ニ於テハ其ノ組合ノ名稱及所在地並其ノ組合カ解散スヘキモノトナルトキハ其ノ旨

第十五條 健康保險法第二十條ノ規定ニ依リ繼續シテ被保險者ト爲ルコトノ申請書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載シ未タ被保險者證ヲ返納セサル者ニ在リテハ之ヲ添附スヘシ

一 住所

健康保險法施行規則

一七四

- 二 資格喪失ノ年月日
 - 三 従前ノ標準報酬日額
 - 四 資格喪失後繼續シテ保險給付ヲ受ケタル者ニ在リテハ其ノ給付ヲ受ケサルニ至リタル年月日
 - 五 健康保險法施行令第十條ノ期限經過後申請ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ事由
- 第十六條 健康保險法第二十一條ニ規定スル猶豫期間ハ健康保險法施行令第百條ニ規定スル納付期日經過後十日トス
- 第十七條 被保險者健康保險法第六十二條第一項各號ノ一ニ該當シ又ハ該當セサルニ至リタルトキハ事業主ハ左ニ掲クル事項ヲ五日以内ニ健康保險署長又ハ健康保險組合ニ届出ツヘシ
- 一 被保險者ノ氏名
 - 二 被保險者證ノ記號及番號
 - 三 該當ノ事實及該當シ又ハ該當セサルニ至リタル年月日
- 健康保險法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者又ハ被保險者ノ資格喪失後保險給付ヲ受ケル者健康保險法第六十二條第一項各號ノ一ニ該當シ又ハ該當セサルニ至リタルトキハ其ノ者ニ於テ前項ノ例ニ依リ之ヲ届出ツヘシ

第十八條 事業主ニ變更アリタルトキハ事業主及事業主タリシ者連署ヲ以テ左ニ

掲クル事項ヲ五日以内ニ健康保險署長又ハ健康保險組合ニ届出ツヘシ

- 一 事業ノ種類及新舊名稱
 - 二 工場又ハ事業場ノ所在地及新舊名稱
 - 三 變更ノ年月日及事由
 - 四 事業主及事業主タリシ者ノ氏名及住所
- 事業ノ一部ニ付事業主ノ變更アリタル場合ニ於テハ前項各號ノ外被保險者ノ氏名並被保險者證ノ記號及番號ヲ届出ツヘシ
- 第十九條 工場法又ハ鑛業法ノ適用ヲ受クル工場カ其ノ適用ヲ受ケサルニ至リタルトキハ事業主ハ其ノ工場ノ名稱及所在地並適用ヲ受ケサルニ至リタル年月日及事由ヲ五日以内ニ健康保險署長又ハ健康保險組合ニ届出ツヘシ
- 第二十條 左ニ掲クル事項ニ變更アリタルトキハ事業主ハ變更ノ事項及年月日ヲ五日以内ニ健康保險署長又健康保險組合ニ届出ツヘシ

- 一 事業ノ名稱又ハ種類
 - 二 事業主ノ氏名又ハ住所
 - 三 工場又ハ事業場ノ名稱、所在地又ハ種類
- 健康保險法施行規則

一七五

四 被保險者ノ氏名又ハ業務ノ種別

第二十一條 健康保險法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者其ノ氏名又ハ住所ヲ變更シタルトキハ變更ノ事項及年月日ヲ五日以内ニ健康保險署長又ハ健康保險組合ニ届出ツヘシ

被保險者健康保險署ノ管轄區域ニ涉リ住所ヲ變更シタルトキハ前項ノ届出ハ各健康保險署長ニ對シ之ヲ爲スヘシ

第二十二條 第十條第一項又ハ第十一條ノ規定ニ依ル届出アリタルトキハ健康保險署長又ハ健康保險組合ハ其ノ被保險者ノ被保險者證ノ記號及番號ヲ遲滞ナク事業主ニ通知スヘシ其ノ記號及番號ヲ變更シタルトキ亦同シ

第二十三條 健康保險署長又ハ健康保險組合ハ様式第六號ニ依ル被保險者證ヲ被保險者ニ交付スヘシ但シ健康保險法施行令第七條ノ規定ニ依リ内務大臣ノ指定シタル共濟組合ノ組合員タル被保險者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

被保險者證ノ第一回ノ記載事項ニ變更アリタルトキハ被保險者ハ遲滞ナク之ヲ健康保險署長又ハ健康保險組合ニ提出シテ其ノ改訂ヲ受クヘシ
被保險者證ヲ滅失若ハ毀損シタルトキ又ハ被保險者證ニ餘白ナキニ至リタルトキハ被保險者ハ遲滞ナク被保險者證ヲ添へ(滅失ノ場合ヲ除ク)其ノ旨ヲ健康保

險署長又ハ健康保險組合ニ届出ツヘシ

被保險者其ノ資格ヲ喪失シタルトキ又ハ其ノ被保險者ニ變更アリタルトキハ其ノ被保險者證ヲ十日以内ニ健康保險署長又ハ健康保險組合ニ返納スヘシ但シ資格喪失後引續キ保險給付ヲ受クル者ニ在リテハ其ノ給付ヲ受ケサルニ至リタル日ヨリ十日以内ニ返納スヘシ

前項ノ資格喪失ノ原因死亡ナルトキハ埋葬料又ハ健康保險法第四十九條第二項若ハ同法第五十六條第二項ノ埋葬費ノ支給ヲ受クヘキ者ニ於テ其ノ請求ノ際被保險者證ヲ返納スヘシ

第三章 健康保險組合

第二十四條 健康保險組合設立ノ認可申請書ニハ左ニ掲クル書類ヲ添附スヘシ但シ健康保險法第三十二條ノ規定ニ依リ組合設立ノ認可申請ヲ爲ス場合ニ於テハ第五號及第六號ノ書類ハ之ヲ添附スルコトヲ要セス

一 規約

二 事業計畫書

三 保險料率及其ノ計算ノ基礎ヲ示シタル書面

四 初年度ノ收入支出ノ豫算

健康保險法施行規則

五 健康保險法施行令第十一條ノ書面ノ寫(被保險者ニ送付ノ年月日ヲ記載スルコト)

六 組合ノ設立ニ付健康保險法第二十九條第一項ノ同意アリタルコトヲ認ムルニ足ル書類

第二十五條 健康保險法又ハ之ニ基ク命令ノ規定ニ依リ組合ニ於テ監督官廳ノ認可ヲ受クヘキ事項カ組合會ノ議決ヲ經タルモノナルトキハ申請書ニ其ノ會議錄ノ寫ヲ添附スヘシ

認可申請ヲ爲スヘキ事項カ健康保險法施行令第四十條ノ規定ニ依リ理事專決シタルモノナルトキハ申請書ニ專決ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第二十六條 組合合併ノ認可申請書ニハ合併スル各組合ノ名稱及被保險者ノ員數並合併後存續スル組合又ハ合併ニ因リテ成立スル組合ノ名稱ヲ記載シ左ニ掲クル書類ヲ添附スヘシ

一 合併後ニ於ケル事業計畫書

二 認可申請前一月以内ノ現在ニ於テ調製シタル各組合ノ財産目錄

三 合併ニ因リテ成立スル組合アル場合ニ於テハ其ノ組合ノ規約、保險料率及其ノ計算ノ基礎ヲ示シタル書面並初年度ノ收入支出ノ豫算

合併後存續スル組合アル場合ニ於テハ合併ニ伴フ規約變更ノ認可申請ハ合併ノ認可申請ト同時ニ之ヲ爲スヘシ

第二十七條 組合分割ノ認可申請書ニハ分割スル組合、分割後存續スル組合及分割ニ因リテ成立スル組合ノ名稱及被保險者ノ員數ヲ記載シ左ニ掲クル書類ヲ添附スヘシ

一 分割後ニ於ケル各組合ノ事業計畫書

二 認可申請前一月以内ノ現在ニ於テ調製シタル分割スル組合ノ財産目錄

三 分割ニ因リテ成立スル組合ノ承繼スル權利義務ノ限度ヲ示シタル書面

四 分割ニ因リテ成立スル組合ノ規約、保險料率及其ノ計算ノ基礎ヲ示シタル書面並初年度ノ收入支出ノ豫算

前條第二項ノ規定ハ分割後存續スル組合ノ分割ニ伴フ規約變更ノ認可申請ニ之ヲ準用ス

第二十八條 組合解散ノ認可申請書ニハ解散スル組合ノ名稱及被保險者ノ員數ヲ記載シ認可申請前一月以内ノ現在ニ於テ調製シタル財産目錄ヲ添附スヘシ

第二十九條 被保險者タル組合員常時ナキニ至リタル爲組合解散シタルトキハ其ノ事由、組合ノ名稱及解散ノ年月日ヲ理事タリシ者ニ於テ遲滞ナク内務大臣ニ

届出ツヘシ

前項ノ届書ニハ解散ノ日ノ現在ニ依リ調製シタル財産目録ヲ添附スヘシ

第三十條 組合ノ設立アル事業ノ編入又ハ削除ニ關スル規約變更ノ認可申請書ニ

ハ左ニ掲クル書類ヲ添附スヘシ

一 規約變更後ニ於ケル事業計畫書

二 健康保險法施行令第七十條ノ書面ノ寫（被保險者ニ送付ノ年月日ヲ記載スルコト）

三 事業ノ編入又ハ削除ニ付健康保險法施行令第六十七條第一項ノ同意アリタルコトヲ認ムルニ足ル書類

第三十一條 組合合併又ハ分割シタル場合ニ於テハ理事又ハ理事タリシ者ハ其ノ組合員タリシ被保險者ノ保險ヲ管掌スル組合ノ理事ニ對シ遲滞ナク其ノ事務ノ引繼ヲ爲スヘシ

事務引繼完了シタルトキハ引繼ヲ爲シタル者及引繼ヲ受ケタル者連署ノ上完了ノ日ヨリ五日以内ニ其ノ旨ヲ社會局長官ニ届出ツヘシ

第三十二條 前條ノ規定ハ組合解散シタル場合及組合其ノ組合ノ設立アル事業ヲ削除シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十三條 組合會ノ會議錄ニハ議長及出席議員二人以上之ニ署名スヘシ

第三十四條 收入支出ノ豫算ハ様式第七號ニ依リ之ヲ調製シ毎年二月末日迄ニ認可申請ヲ爲スヘシ

第三十五條 保険料率ノ認可申請書ニハ計算ノ基礎ヲ示シタル書面ヲ添附スヘシ

第三十六條 決算ハ様式第七號ニ依リ、事業報告ハ様式第八號ニ依リ年度經過後

三月内ニ之ヲ調製シ次ノ組合會ノ認定ニ付スヘシ

決算及事業報告ハ組合會ノ認定ヲ經タル後遲滞ナク之ヲ社會局長官ニ届出ツヘシ

前二項ノ規定ニ依リ事業報告ヲ組合會ノ認定ニ付シ又ハ社會局長官ニ届出ツル場合ニ於テハ之ヲ年度末現在ニ依リ調製シタル財産目録ヲ添附スヘシ

第三十七條 財産目録ハ様式第九號ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第三十八條 組合ハ事業報告ニ付組合會ノ認定ヲ經タルトキハ年度末現在ニ依リ

調製シタル財産目録ト共ニ之ヲ公示スヘシ

第三十九條 組合ハ第三十六條ノ規定ニ依リ事業報告ヲ調製シタルトキハ遲滞ナ

ク之ヲ社會局長官ニ報告スヘシ

第四十條 組合ハ様式第十號ニ依リ毎月ノ事業狀況ヲ翌月十五日迄ニ社會局長官

ニ報告スヘシ

第四十一條 組合原簿ハ様式第十一號ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第四十二條 組合ハ被保險者臺帳歳入簿歳出簿及現金出納簿ヲ備フヘシ

前項ノ帳簿ノ様式ハ別ニ之ヲ定ム

第四十三條 組合ニ於テ組合員ノ權利義務ニ關スル規定ヲ定メ又ハ改廢シタルト

キハ遲滞ナク之ヲ社會局長官ニ報告シ且組合員ニ周知セシムヘシ

第四十四條 議員又ハ理事就職シタルトキハ組合ハ様式第十二號ニ依リ遲滞ナク

之ヲ社會局長官ニ届出ツヘシ

議員又ハ理事退職若ハ死亡シタルトキ又ハ理事長就職、退職若ハ死亡シタルト

キハ組合ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ社會局長官ニ届出ツヘシ

第四章 保險給付

第四十五條 被保險者療養ノ給付ヲ受ケムトスルトキハ保險者ノ指定シタル醫師

又ハ商科(醫師以下保險醫ト稱ス)ニ之ヲ申出ツヘシ

前項ノ申出ヲ爲ス場合ニ於テハ被保險者ハ被保險者證ヲ其ノ保險醫ニ提出スヘ

シ但シ已ムヲ得サル事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス此ノ場合ニ於テハ其ノ事由

止ミタル後遲滞ナク被保險者證ヲ其ノ保險醫ニ提出スヘシ

健康保險法施行令第七條ノ規定ニ依リ内務大臣ノ指定シタル共濟組合ノ組合員

タル被保險者第一項ノ申出ヲ爲ス場合ニ於テ共濟組合ヨリ其ノ年又ハ其ノ前年

ニ於テ給付ヲ受ケタル者ニ在リテハ其ノ給付ノ内容及期間ヲ證スル書面ヲ、給

付ヲ受ケサル者ニ在リテハ共濟組合ノ組合員タル被保險者ナルコトヲ證スル書

面ヲ被保險者證ニ代ヘ提出スヘシ此ノ場合ニ於テハ前項但書ノ規定ヲ準用ス

第一項ノ申立ヲ爲ス場合ニ於テ疾病又ハ負傷カ業務上ノ事由ニ因ルモノナルト

キハ被保險者ハ之ニ關スル事業主ノ證明書ヲ提出スヘシ

健康保險法第四十八條第一項ノ規定ニ依リ繼續シテ療養ノ給付ヲ受クルコトヲ

得ル者療養ノ給付ヲ受ケムトスルトキハ其ノ給付ヲ受クルコトヲ得ルモノナル

コトヲ被保險者ニ於テ承認シタル書面ヲ提示シテ之ヲ保險醫ニ申出ツヘシ

第四十六條 保險醫被保險者ニ對シ療養ヲ爲ササルニ至リタルトキハ遲滞ナク被

保險者證又ハ前條第三項ノ書面ヲ被保險者ニ返還スヘシ但シ其ノ被保險者死亡

シタルトキハ埋葬料又ハ健康保險法第四十九條第二項若ハ同法第五十六條第二

項ノ埋葬費ノ支給ヲ受クヘキ者ニ之ヲ返還スヘシ

保險醫前項ノ規定ニ依リ被保險者證又ハ前條第三項ノ書面ヲ返還スルトキハ被

保險者證ノ第二面ニク掲ル事項ヲ之ニ記載スヘシ

健康保險法施行規則

第一項ノ場合ニ於テ保險醫第四十七條第一項ノ規定ニ依リ療養證明書ヲ交付シタルモノナルトキハ第一項ノ規定ニ拘ラス其ノ療養證明書ノ全部返納アリタルトキ被保險者證又ハ前條第三項ノ書面ヲ返還スヘシ但シ保險醫變更ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第四十七條 保險醫ノ療養ヲ受クル被保險者同時ニ他ノ保險醫ニ就キ療養ヲ受クルノ必要アルトキハ被保險者證又ハ第四十五條第三項ノ書面ヲ保管スル保險醫ニ就キ様式第十三號ニ依ル療養證明書ノ交付ヲ受クヘシ

前項ノ療養證明書ハ之ヲ被保險者證ト看做シ前二條ノ規定ヲ適用ス
被保險者保險醫ヨリ療養證明書ノ返還ヲ受ケタルトキハ之ヲ交付シタル保險醫(保險醫變更ノ場合ニ於テハ變更後ノ保險醫)ニ遲滞ナク返納スヘシ

第四十八條 被保險者保險醫變更ノ爲被保險者證、第四十五條第三項ノ書面又ハ療養證明書ノ返還ヲ受ケムトスルトキハ保險醫變更ニ付健康保險署長又ハ健康保險組合ノ承認アリタルコトヲ證スル書面ヲ當該保險醫ニ提示スヘシ

第四十九條 被保險者ノ療養ノ爲必要アリト認ムルトキハ保險醫ハ健康保險署長又ハ健康保險組合ノ承認ヲ受ケ他ノ保險醫ノ診療ヲ求ムルコトヲ得
緊急ノ必要アリト認ムルトキハ保險醫ハ前項ノ規定ニ拘ラス直ニ他ノ保險醫ノ

診療ヲ求ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ診療後遲滞ナク其ノ山ヲ健康保險署長又ハ健康保險組合ニ報告スヘシ

第五十條 被保險者ニ對シ處方箋ヲ交付スル場合ニ於テハ保險醫ハ處方箋ニ其ノ使用期間ノ開始及終了ノ年月日ヲ記載スヘシ

第五十一條 保險醫ノ療養ヲ受クル被保險者處方箋ニ依リ藥劑ノ支給ヲ受ケムトスルトキハ其ノ處方箋ヲ交付シタル保險醫ニ就キ療養證明書ノ交付ヲ受クヘシ但シ保險醫處方箋ノ交付ト同時ニ療養ヲ爲ササルニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

被保險者保險者ノ指定シタル藥劑師(以下保險藥劑師ト稱ス)ニ就キ處方箋ニ依リ藥劑ノ支給ヲ受ケムトスルトキハ被保險者證、第四十五條第三項ノ書面又ハ療養證明書ヲ提示スヘシ

被保險者ニ對シ藥劑ノ支給ヲ爲シタルトキハ保險藥劑師ハ被保險者證、第四十五條第三項ノ書面又ハ療養證明書ニ第四十六條第二項ノ規定ニ準シ必要ナル記載ヲ爲スヘシ

第五十二條 療養ノ給付ヲ受クル疾病又ハ負傷力第三者ノ行爲ニ因ルモノナルトキハ被保險者ハ其ノ事實第三者ノ氏名及住所(氏名又ハ住所不詳ナルトキハ其

ノ旨) 並疾病又ハ負傷ノ狀況ヲ遲滞ナク健康保險署長又ハ健康保險組合ニ届出ツヘシ

第五十三條 被保險者健康保險法施行令第七十七條第一項第一號ノ規定ニ依リ療養費ノ支給ヲ受ケムトスルトキハ左ニ掲クル事項ヲ届出ツヘシ

- 一 被保險者證ノ記號及番號
 - 二 發病又ハ負傷ノ年月日及原因
 - 三 疾病又ハ負傷カ業務上ノ事由ニ因ルモノナリヤ否ヤノ別
 - 四 疾病又ハ負傷ノ經過
 - 五 療養ノ給付ヲ受クルコト困難ナル事由
 - 六 疾病又ハ負傷カ第三者ノ行爲ニ因ルモノナルトキハ其ノ事實並第三者ノ氏名及住所(氏名又ハ住所不詳ナルトキハ其ノ旨)
- 疾病又ハ負傷カ業務上ノ事由ニ因ルモノナルトキハ之ニ關スル事業主ノ證明書ヲ前項ノ届書ニ添附スヘシ
- 被保險者特別ノ事情ニ因リ前項ノ證明書ヲ受クルコトヲ得サルトキハ届書ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第五十四條 健康保險法施行令第七十七條第一項第二號ノ承認ノ申請書ニハ左ニ

掲クル事項ヲ記載スヘシ

- 一 前條第一項第一號乃至第四號及第六號ニ掲クル事項
- 二 診療ヲ受ケムトスル醫師又ハ歯科醫師ノ氏名及住所並其ノ診療ヲ受ケムトスル事由

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十五條 健康保險法施行令第七十七條第一項第二號ノ療養費支給ノ申請書ニ

ハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

- 一 被保險者證ノ記號及番號
- 二 診療ノ内容及期間
- 三 診療ニ要シタル費用ノ額
- 四 診療ヲ受ケサルニ至リタルトキハ其ノ事由

前項ノ申請書ニハ診療ニ要シタル費用ノ額ニ關スル證憑書類ヲ添附スヘシ

第五十六條 健康保險法施行令第七十七條第一項第三號ノ療養費支給ノ申請書ニ

ハ左ニ載クル事項ヲ記載スヘシ

- 一 第五十三條第一項第一號乃至第四號及第六號ニ掲クル事項
- 二 手當ヲ受ケタル醫師、歯科醫師其ノ他ノ者ノ氏名及住所

健康保險法施行規則

- 三 手當ノ内容及期間
- 四 手當ニ要シタル費用ノ額
- 五 緊急ナリシコトノ事由

第五十三條第二項及前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十七條 傷病手當金支給ノ請求書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

- 一 被保險者ノ記號及番號
- 二 發病又ハ負傷ノ年月日及原因
- 三 疾病又ハ負傷カ業務上ノ事由ニ因ルモノナリヤ否ヤノ別
- 四 勞務ニ服スルコト能ハザリシ期間
- 五 傷病手當金カ健康保險法施行令第七十九條又ハ同令第八十七條ノ規定ニ依ルモノナルトキハ主トシテ被保險者ニ依リ生計ヲ維持スル者ノ氏名、生年月及被保險者トノ續柄、收容セラレタル病院、病舎又ハ療養所ノ名稱及所在地竝收容セラレタル事由、年月日及期間
- 六 傷病手當金カ健康保險法施行令第八十五條但書ノ規定ニ依ルモノナルトキハ其ノ報酬ノ額及期間
- 七 傷病手當金カ健康保險法施行令第八十六條ノ規定ニ依ルモノナルトキハ受

クルコトヲ得ヘカリシ報酬ノ額及期間、受クルコト能ハサリシ報酬ノ額及期間竝健康保險法施行令第八十五條但書ノ規定ニ依リ受ケタル傷病手當金ノ額及報酬ヲ受クルコト能ハサリシ事由

前項ノ請求書ニハ左ニ掲クル書類ヲ添附スヘシ

- 一 前項第四號ノ期間ニ關スル醫師又ハ齒科醫師ノ意見書及事業主ノ證明書
- 二 疾病又ハ負傷カ業務上ノ事由ニ因ルモノナルトキハ之ニ關スル事業主ノ證明書

療養ノ給付ヲ受クルコト困難ナル爲療養費ノ支給ヲ受クル場合ニ於テハ傷病手當金支給ノ請求書ニハ前項各號ノ書類ハ之ヲ添附スルコトヲ要セス此ノ場合ニ於テハ請求書ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ニ付引續キ傷病手當金ノ請求ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ請求書ニ第二項第二號ノ證明書ヲ添附スルコトヲ要セス

第五十八條 健康保險法第四十八條第一項ノ規定ニ依ル療養ノ給付ノ申請書ニハ

左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

- 一 被保險者ノ氏名竝被保險者證ノ記號及番號
- 二 療養ノ給付ヲ受ケムトスル期間

健康保險法施行規則

- 三 療養ニ要スル費用ノ見積額
 - 四 現ニ療養ヲ受クル保險醫ノ氏名及住所
 - 五 健康保險法第四十八條第一項第一號ノ場合ニ於テハ事業主ニ於テ扶助ヲ爲スヘキ義務ノ基ク法令ノ條項
 - 六 健康保險法第四十八條第二號ノ場合ニ於テハ擔保ノ種類、數量及價格又ハ費用ノ償還ニ付定メタル方法
- 第五十九條 埋葬料支給ノ請求書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載シ市町村長ノ埋火葬認許證ノ寫ヲ添附スヘシ
- 一 死亡シタル被保險者ノ氏名並被保險者證ノ記號及番號
 - 二 死亡ノ年月日及原因
 - 三 死亡カ第三者ノ行爲ニ因ルモノナルトキハ其ノ事實並第三者ノ氏名及住所（氏名又ハ住所不詳ナルトキハ其ノ旨）
 - 四 被保險者ト請求者トノ續柄
- 第六十條 健康保險法第四十九條第二項又ハ同法第五十六條第二項ノ埋葬費支給ノ請求書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載シ市町村長ノ埋火葬認許證ノ寫及埋葬ニ要シタル費用ノ額ニ關スル證憑書類ヲ添附スヘシ

- 一 前條第一號乃至第三號ニ掲クル事項
 - 二 埋葬ヲ行ヒタル年月日
 - 三 埋葬ニ要シタル費用ノ額
- 第六十一條 分娩費支給ノ請求書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載シ市町村長、醫師又ハ産婆ニ於テ出産又ハ死産ノ事實ヲ證明シタル書類ヲ添附スヘシ
- 一 被保險者證ノ記號及番號
 - 二 分娩ノ年月日
 - 三 死産ナルトキハ其ノ旨
- 第六十二條 出産手當金支給ノ請求書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ
- 一 被保險者證ノ記號及番號
 - 二 分娩前ノ場合ニ於テハ分娩ノ豫定年月日、分娩後ノ場合ニ於テハ分娩アリタル年月日
 - 三 勞務ニ服スルコト能ハサリシ期間
 - 四 出産手當金カ健康保險法施行令第八十一條第二項ノ規定ニ依ルモノナルトキハ主トシテ被保險者ニ依リ生計ヲ維持スル者ノ氏名、生年月及被保險者トノ續柄、收容セラレタル産院ノ名稱及所在地並收容セラレタル年月日及期間
- 健康保險法施行規則

- 五 出產手當金カ健康保險法施行令第八十五條但書ノ規定ニ依ルモノナルトキハ其ノ報酬ノ額及期間
 - 六 出產手當金カ健康保險法施行令第八十六條ノ規定ニ依ルモノナルトキハ受クルコトヲ得ヘカリシ報酬ノ額及期間、受クルコト能ハサリシ報酬ノ額及期間並健康保險法施行令第八十五條但書ノ規定ニ依リ受ケタル出產手當金ノ額及報酬ヲ受クルコト能ハサリシ事由
- 前項ノ請求書ニハ左ニ掲クル書類ヲ添附スヘシ
- 一 前項第三號ノ期間ニ關スル醫師又ハ齒科醫師ノ意見書及事業主ノ説明書
 - 二 分娩ノ豫定年月日ニ關スル醫師又ハ産婆ノ意見書
- 前項第二號ノ意見書ニ付テハ第五十七條第四項ノ規定ヲ準用ス
- 第六十三條 傷病手當金、分娩費又ハ出產手當金ノ支給ヲ受ケムトスル者カ健康保險法施行令第七條ノ規定ニ依リ内務大臣ノ指定シタル共濟組合ノ組合員タル被保險者ナルトキハ其ノ請求書ニ共濟組合ヨリ受クル給付ノ期間及額ヲ記載スヘシ埋葬料又ハ健康保險法第四十九條第二項若ハ同法第五十六條第二項ノ埋葬費ノ支給ヲ受ケムトスル場合ニ於テ死亡シタル者カ健康保險法施行令第七條ノ規定ニ依リ内務大臣ノ指定シタル共濟組合ノ組合員タル被保險者ナリシトキ亦

同シ

第六十四條 第五十三條第二項、第五十四條第二項、第五十六條第二項、第五十七條第二項、第六十一條及第六十二條第二項ノ規定ニ依リ醫師、齒科醫師ハ産婆ノ意見書若ハ證明書又ハ事業主若ハ市町村長ノ證明書ヲ添附スヘキ場合ニ於テ保險給付ノ請求書ニ相當ノ記載ヲ受ケタルトキハ意見書又ハ證明書ノ添附ヲ省略スルコトヲ得

第六十五條 保險給付ノ請求ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ第五十三條第二項、第五十四條第二項、第五十六條第二項、第五十七條第二項、第六十一條及第六十二條第二項ノ規定ニ依リ請求書ニ添附スヘキ書類ハ請求ノ際之ヲ提出スヘシ但シ保險者ニ於テ其ノ必要ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十六條 保險給付ヲ受ケムトスル者ヨリ第四十五條第四項、第五十三條第二項第五十四條第二項、第五十六條第二項、第五十七條第二項及第六十二條第二項ノ規定ニ依リ證明書ヲ求メラレタルトキハ事業主ハ正當ノ事由アルニ非サレハ之ヲ拒ムコトヲ得ス第六十四條ノ規定ニ依リ證明ノ記載ヲ求メラレタルトキ亦同シ

健康保險法施行規則

一九四

第六十七條 健康保險組合ハ其ノ管掌スル保險ノ給付ニ關スル手續ニ付第四十五條乃至第六十二條ノ規定ニ拘ラス別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第六十八條 政府ノ管掌スル保險ノ傷病手當金又ハ出産手當金支給期日ハ毎月十日及二十五日トス但シ毎月一回報酬ノ支拂ヲ受クル被保險者ニ付テハ毎月二十五日トス

前項ノ期日休日ニ當ルトキハ之ヲ繰下ク
毎支給期日ニ於テ支給スル傷病手當金又ハ出産手當金ハ其ノ支給期日ノ五日前迄ニ請求アリタル分トス

第六十九條 健康保險法第四十七條第二項ノ期間ハ曆年毎ニ之ヲ計算ス

第七十條 健康保險組合ニ於テ健康保險法施行令第八十八條第一項ノ決定ヲ爲シタルトキハ左ニ掲クル事項ヲ遲滞ナク社會局長官ニ報告スヘシ

一 保險給付ヲ受ケ又ハ受ケムトシタル者ノ氏名

二 事實

三 決定ノ内容

四 決定ノ年月日及之ヲ本人ニ通知シタル年月日

第七十一條 本章ニ於テ被保險者トアルハ被保險者ノ資格喪失後保險給付ヲ受ケ

ル者ヲ含ムモノトス

第五章 健康保險法第八十條ノ審査手續

第七十二條 審査ノ請求ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ第一次健康保險審査會ニ對スル審査ノ請求ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第七十三條 文書ヲ以テ審査ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ審査請求書ニ記名調印シ證據書類アルトキハ之ヲ添附シ當該健康保險審査會ニ提出スヘシ

第一次健康保險審査會ニ對スル審査請求書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 審査請求人ノ氏名・住所及生年月並審査請求人被保險者又ハ被保險者タリシ者ニ非サルトキハ其ノ職業及被保險者又ハ被保險者タリシ者トノ關係
- 二 被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ氏名並保險事故發生ノ際其ノ使用セラレタル工場又ハ事業場ノ名稱及所在地
- 三 保險給付ニ關スル處分ヲ爲シタル健康保險署又ハ健康保險組合ノ名稱
- 四 保險給付ニ關スル處分ノ通知ヲ受ケタル年月日
- 五 請求ノ事件及一定ノ申立
- 六 請求ノ理由
- 七 立證

健康保險法施行規則

一九五

八 年月日

第二次健康保險審査會ニ對スル審査請求書ニハ前項第一號、第二號及第六號乃至第八號ノ事項ノ外左ノ事項ヲ記載シ第一次健康保險審査會ノ決定書又ハ其ノ謄本ヲ添附スヘシ

一 第一次健康保險審査會ノ決定書ノ交付ヲ受ケタル年月日

二 第一次健康保險審査會ノ決定ニ對スル不服ノ程度及變更ノ申立

第七十四條 口頭ヲ以テ審査ヲ請求シタル者アルトキハ書記ハ前條第二項各號ノ事項ヲ記載シタル審査請求調書ヲ作製シ讀聞カセタル上之ニ記名調印セシメ證據書類アルトキハ之ヲ提出セシムヘシ

前項ノ審査請求調書ニハ之ヲ作製シタル書記署名捺印スヘシ

第七十五條 健康保險審査會審査ノ請求ヲ受ケタルトキハ保險給付ニ關スル處分ヲ爲シタル健康保險署又ハ健康保險組合ニ對シ審査請求書又ハ審査請求調書ノ寫ヲ送付スヘシ

健康保險署又ハ健康保險組合前項ノ審査請求書又ハ審査請求調書ノ寫ノ送付ヲ受ケタルトキハ十日以内ニ答辯書及證據書類ヲ當該健康保險審査會ニ提出スヘシ

第七十六條 健康保險審査會必要アリト認ムルトキハ期限ヲ指定シテ當事者交互ニ辯駁書及答辯書ヲ提出セシムルコトヲ得

第七十七條 審査ノ決定書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 審査請求人ノ氏名、住所及生年月

二 保險給付ニ關スル處分ヲ爲シタル健康保險署又ハ健康保險組合ノ名稱

三 決定主文

四 決定ノ理由

五 年月日

前項ノ決定書ノ原本ニハ會長署名捺印スヘシ

第七十八條 健康保險審査會ハ前條ノ決定書ノ原本ニ基キ正本副本各一通ヲ作製シ健康保險審査會ノ印ヲ捺捺シテ遲滞ナク正本ハ之ヲ審査請求人ニ交付シ副本

ハ之ヲ關係アル健康保險署又ハ健康保險組合ニ送付スヘシ

審査請求人ニ對シ決定書ヲ交付スルコトヲ得サルトキハ健康審査會ハ其ノ決定書ヲ揭示板ニ揭示スヘシ

前項ノ揭示アリタル後七日ヲ經過シタルトキハ決定書ノ交付アリタルモノト看做ス

第七十九條 審査請求人ハ健康保險審査會ニ對シ決定書ノ謄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第六章 罰 則

第八十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第三條、第四條、第十條、第十一條、第十七條第一項及第十八條乃至第二十條ノ規定ニ依ル届出ヲ怠リ又ハ其ノ届書ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者

二 第五條第二項ノ規定ニ依ル標準報酬ノ告知ヲ怠リタル者

三 正當ノ事由ナクシテ第六十六號ノ規定ニ依ル請求ニ應セス又ハ虚偽ノ證明ヲ爲シタル者

四 第七條ノ規定ニ依ル保險料ノ控除ニ關スル計算書ノ備付若ハ記載ヲ怠リ、虚偽ノ記載ヲ爲シ又ハ故ナク被保險者ニ對シ閱覽ヲ拒ミタル者

五 第八條ノ規定ニ依ル書類ノ保存ヲ怠リタル者

第八十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第十七條第二項、第二十一條第一項及第五十二條ノ規定ニ依ル届出ヲ怠リ又ハ其ノ書届ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者

二 第二十三條第四項又ハ第五項ノ規定ニ依ル被保險者證ノ返納ヲ怠リタル者

三 第四十七條第三項ノ規定ニ依ル療養證明書ノ返納ヲ怠リタル者

附 則

第八條、第九條、第十三條乃至第十六條第十九條、第二十一條、第二十四條乃至第四十四條、第六十七條、第八十條及第八十一條ノ規定ハ大正十五年七月一日ヨリ、第一條ノ規定ハ大正十五年十月一日ヨリ、第二條乃至第五條、第十條乃至第十二條、第十八條、第二十條、第二十二條及第二十三條ノ規定ハ大正十五年十一月一日ヨリ、第六條、第七條、第十七條、第四十五條乃至第六十六條及第六十八條乃至第七十九條ノ規定ハ大正十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十條第一項ノ規定ニ依ル届出ノ期間ハ第十條ノ規定施行ノ日以前ニ於テ被保險者ノ資格ヲ取得シタル者ニ關シテハ第十條ノ規定施行ノ日ヨリ五日以内トス

様式第一號

被保險者報酬日額算定

工場又ハ事業場 (名稱)	所在地	算	氏名	被保險者證 記號及番號	賃金、給料又ハ俸給 給ニ準スルモノ	
						備考
					賃金、給料又ハ俸給 給ニ準スルモノ	
					賃金、給料又ハ俸給 給ニ準スルモノ	
					賃金、給料又ハ俸給 給ニ準スルモノ	
					賃金、給料又ハ俸給 給ニ準スルモノ	
					賃金、給料又ハ俸給 給ニ準スルモノ	
					賃金、給料又ハ俸給 給ニ準スルモノ	
					賃金、給料又ハ俸給 給ニ準スルモノ	
					賃金、給料又ハ俸給 給ニ準スルモノ	
					賃金、給料又ハ俸給 給ニ準スルモノ	
					賃金、給料又ハ俸給 給ニ準スルモノ	
					賃金、給料又ハ俸給 給ニ準スルモノ	
					賃金、給料又ハ俸給 給ニ準スルモノ	

健康保險法施行規則

1101

大正 年 月 日

定基礎屆 大正 年 月 日現在

定基礎					計 圓	標準報酬	
令第五條第一項各號該當別日額						計 圓	日額
第一號	第二號	第三號	第四號	第五號			

健康保險法施行規則

1100

事業主 (氏及印) (住所)

事業 (名稱) (種類)

健康保險法施行規則

11011

備考

- 一 本屆ハ縱約十六種横約二十四種ノ用紙ヲ用フヘシ
- 二 様式中令トアルハ健康保險法施行令ヲ謂フ
- 三 被保險者證ノ記號及番號ノ通知ヲ受ケサル被保險者ニ付テハ「被保險者證ノ記號及番號」欄ニ其ノ被保險者ノ生年月男女別及業務ノ種別ヲ記載スヘシ
- 四 「標準報酬」欄ハ健康保險署又ハ健康保險組合ニ於テ記載スヘキモノトス故ニ届出者ニ於テ空欄ノ儘ト爲シ置クヘシ
- 五 第四條ノ規定ニ依ル届出ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ「備考」欄ニ記載スヘシ

様式第二號

第何號

大正何年何月何日交付

社會局又ハ健康保險署印

官職氏名

健康保險法(抄)

第九條 保險官署ハ必要アリト認ムルトキハ當該官吏又ハ吏員ヲシテ保險事故ノ生シタル作業ノ場所ニ臨檢セシムルコトヲ得

第八十七條 正當ノ理由ナクシテ第九條ノ規定ニ依ル當該官吏又ハ吏員ノ臨檢ヲ拒ミ若ハ妨ケ又ハ其ノ訊問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ答辯ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

備考

本證ハ縱約八種、横約十種トシ厚キ紙ヲ用ヒ中央ノ點線ノ所ヨリニツ折ト爲シ表面ニ「健康保險臨檢票」ト記載スヘシ

様式第三號

健康保險法施行規則

11013

控 除 計 算 書

大正何年何 月何日控除		大正何年何 月何日控除		大正何年何 月何日控除		備考
控除 シタル 金額	料徴 セラル 日數 及事由	控除 シタル 金額	料徴 セラル 日數 及事由	控除 シタル 金額	料徴 セラル 日數 及事由	
圓		圓		圓		

健康保險法施行規則

二〇四

保 險 料

被保險者氏名	被保險者 證ノ記號 及番號	標準 報酬 等級	被保者
			負スキ 擔ヘ 保險日 額
計			

備考

- 一 本計算書ハ之ヲ一人一枚ノカードト爲スコトヲ得
 - 二 保險料ヲ控除シタル後ニ至リ其ノ保險料カ健康保險法第七十六條ノ規定ニ依リ徵收セラレサルコトト爲リタル等ノ爲還付セシトキハ其ノ還付額、事由及年月日ヲ「備考」欄ニ記載スヘシ
 - 三 新ニ資格ヲ取得シタル者又ハ資格ヲ喪失シタル者ニ付テハ其ノ取得又ハ喪失ノ年月日ヲ「備考」欄ニ記載スヘシ
- 健康保險法施行規則

二〇五